

○第二十七回 帝國議會 衆議院議事速記錄第十八號

明治四十四年三月二日(木曜日)午後一時八分開議

議事日程 第十七號 明治四十四年三月二日

午後一時開議

第一 市制改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第三 町村制改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第五 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第七 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第九 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十一 帝國學士院學術獎勵金特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十三 樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十五 間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會

第十七 朝鮮事業公債法案(政府提出) 第一讀會

第十八 朝鮮事業公債金特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第十九 朝鮮鐵道用品資金會計法案(政府提出) 第一讀會

第二十 輕便鐵道補助法案(政府提出) 第一讀會

第二十一 工場法案(政府提出) 第一讀會

第二十二 蠶絲業法案(政府提出) 第一讀會

第二十三 輕便鐵道法中改正法律案(吉植庄一郎君) 第一讀會

第二十四 鐵道敷設法中改正法律案(吉田虎之助君) 第一讀會

第二十五 普通選舉ニ關スル法律案(日向輝武君外) 第一讀會

第二十六 地租條例中改正法律案(大西五一) 第一讀會

第二十七 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(大西五一) 第一讀會

第二十八 鐵道敷設法中改正法律案(村上先君外) 第一讀會

第二十九 御歷世 宮址保表ニ關スル建議案(八木逸郎君) 第一讀會

第三十 名所舊蹟古墳墓保護ニ關スル建議案(八木逸郎君) 第一讀會

第三十一 伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案(上野安太) 第一讀會

第三十二 區裁判所事務開始ニ關スル建議案(稻村辰次郎) 第一讀會

第三十三 鐵道速成ニ關スル建議案(渡邊修君外) 第一讀會

第三十四 鐵道速成ニ關スル建議案(村上先君外) 第一讀會

第三十五 鐵道敷設ニ關スル建議案(河野郁太郎) 第一讀會

第三十六 上越鐵道敷設ニ關スル建議案(武藤金吉君) 第一讀會

○議長(長谷場純孝君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

一 電氣事業法案

一 貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

一 帝國大學特別會計法中改正法律案(政府提出)

一 朝鮮森林特別會計法案(政府提出)

一 明治三十八年法律第十七號中改正法律案(政府提出)

一 裁判所名稱變更ニ關スル法律案(本院提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

一 伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案

提出者 上野安太郎君

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

提出者 熊本壽人君 福井準造君 神前修三君

根岸岬太郎君

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去二十八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

北海道的殖經營案基礎確立及北海道拓殖鐵道急設ニ關スル建議案外二件 委員(追加) 白石 義郎君 東 武君 遠藤 吉平君

高橋 直治君 米田 穰君 國井 庫君
 荒谷 桂吉君 森田 俊左君 齋藤 巳三郎君
 大湊開港ニ關スル建議案
 戸水 寛人君 齋藤 二郎君
 高橋 嘉太郎君 阿部 政太郎君 日向 輝武君
 池田 藤八郎君 近江谷 榮次君 大竹 貫一君

鐵道速成ニ關スル建議案
 田中 定吉君 原岡 永江君 小林 庄一郎君
 古 森 泰君 丹尾 賴馬君 村松 恆一郎君
 富田 幸次郎君 松家 徳二君 才賀 藤吉君

一河川法中改正法律案委員中村彌六君辭任ニ付キ其補闕トシテ近江谷榮次郎君ヲ、冷藏事業保護ニ關スル建議案委員村田虎次郎君辭任ニ付キ其補闕トシテ松家徳二君ヲ議長ニ於テ選定セリ
 一委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ
 鐵道速成ニ關スル建議案委員會
 委員長 田中 定吉君 理事 原岡 永江君
 大湊開港ニ關スル建議案委員會
 委員長 戸水 寛人君 理事 齋藤 二郎君

○議長(長谷場純孝君) 日程ニ入ラレル前ニテ「ト呼フ」會議ヲ開キ、御諮ラ致シマス、決算委員木下義之君病氣ノタメ辭任ノ申出アリ、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 「ト呼フ者アリ」御異議ナケレバ許可スルコト、シ、同君ハ第一部選出ニ付キ同部ノ諸君ハ速ニ補闕選舉ノ上届出アラント望ミマス、地租條例中改正法律案委員木下義之君病氣ノタメ辭任ノ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコト、シ、而シテ其補闕トシテ山岡國吉君ヲ指名致シマス、議員木下吉之丞君ヨリ病氣ニ付、去ル一月二十八日ヨリ二週間、木之義之君ヨリ實兄病氣危篤ニ付、昨日ヨリ一週間、多木条次郎君病氣ニ付、昨日ヨリ一週間、山田 又七君病氣ニ付、今日ヨリ十日間、各請暇ノ願出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス

○議長(長谷場純孝君) 日野君ハ何デスカ

○議長(長谷場純孝君) 日野君ハ何デスカ

○議長(長谷場純孝君) 日野君

○日野國明君 先月十四日ノ本會ニ於テ四十四年度ノ豫算ヲ討論セラル、際ニ於テ、議員守屋君ガ其議案ニ關シテ質問スルコト云フノデ、議長ノ許可ヲ得テ登壇シマシテ、演説ヲナステ居ル、其央ニ於テ議長ヨリ、質問シテハ登壇演説ヲナスベキモノデハナイ、説明ヲ求ムルト云フコトヲナケレバイヤケナイ、一旦取消シテヤリ直サナケレバナラヌト云フヲウナ意味ノ發議ガアテ、ソレガ問題ニナリマシタ結果、終ニ守屋君ハ其質問

ト云フ名義ニ於テ登壇演説ヲスルコトハ之ヲ差止メラレタ、改メテ更ニ説明ヲ求ムルト云フノ演説ヲシタコトニナリ居リマス、即チ或ル議案ヲ討論スル間ニ於テ、議員ガ是ニ對シテ質問ヲサレナイト云フ先例ガ出來タ譯デアリマス、是ハ私共ハ甚ダ不都合ナコトトハ考ヘマスルケレドモ、免ニモ角ニモ院議ニ於テ斯様ニ決シマシタ以上ハ私共ハ之ヲ守ラナケレバナラヌモノト存ジテ居リマス、然ルニ去一月二十八日ノ本會議ニ於テ丁度砂糖消費稅ニ關シマスル改正法律案ノ討論中ニ中川虎之助君カラシテ、私ハ此席カラ政府委員ニ質問ヲ致シマス、唯今モ本案ニ反對シタル論旨ニ付テ質問ガアリマス、斯ウ云フノ以テ發言ヲ許可サレテ、而モ餘程長キ演説ヲサレタコトハ議長モ御承知ノコト考ヘマス、是ニ付テ本員ノ伺フテ置キマスルノハ、過日ノ會議ニ於テ議案ニ付テ質問ヲスルコト云フコトハ出來ナイト云フ意味ヲ決議ニナリ居ルガ、ソレハ不當アルト云フコトヲ御認メニナリテ、議長ハ此院議ヲ反對スルコト云フ方針ヲ御執リニナル意味デアリマスルカ、或ハ左様デハナイ、アレハ國民黨ノ守屋君デアツタカラ止メテアツテ、政友會ノ議員カラナラハ構ハナイト云フ意味モアルノデアリマセウカ、ドウカ是ハ此後ノ私共ノ心得ニナリマスルカ明白ナル御答ヲ願ヒタイト思ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 明白ニ御答致シマス、去ル十四日ノ速記録ノ總テヲ御熟讀ヲ請ヒ置キマス

○日野國明君 速記録ハ持ッテ居リマス

○議長(長谷場純孝君) 持ッテ居ルデセウカラ熟讀ヲ請ヒ置キマス、即チ長君ハ成文ノモノガアルカラト云フノデ、議長ハ之ニ依ッテ採決ヲシタコトガ後トニ書イテアルグラウト思ヒマス、尙中川君ノハ議長ハ質疑ト云フコトニ了解シテ許シマシタ

○武市庫太郎 議長々々

○議長(長谷場純孝君) 何デスカ、議事進行上ノコトニ付テマスカ

○武市庫太郎 日程ニ入ル前ニ申上テ置キタイコトガアリマス、一昨日本員カラ申出デマシタコトニ付テ、政府委員ガ居ラレマセヌタメニ答辯ヲ得マセナシタガ、議長ニ保留致スト云フコトヲ申上テ置キマシタ、今日ハ當該政府委員モ見エタヤウデゴザイマスカラ、一昨日私ガ提出致シマシテ説明ヲ求メマシタコトニ付テ、御答辯ヲ此際煩ハシタイト思ヒマス

○日野國明君 議長 先刻ノ續キデスカラ 議長ハ二月十四日ノ速記録ヲ能ク見ヨト云フコトデアリマシタガ、本員ハ唯今議長ニ對シテ質問ヲ提出スルニ付テハ、無論是ハ熟讀ヲシタ上デ質問ヲ致シテ居ルノデアリマス、議長ノ方ガ却テ之ヲ御熟讀ニナリテ居ラヌカト思ヒマス、私ガ之ヲ讀シテ見マス「長崎登君、守屋君ガ演壇ニ立タレタコトニ付テハ、議長ヨリ先刻政府ニ質問ガアルト云フコトヲ演壇ニ立タレタ私ハ記憶シテ居リマス、然ルニ此質問ハ議院法ノ規定ニ據リ、必ズ質問趣意書ヲ具ヘ、贊成者ヲ得テヤラナケレバナラヌモノデアリ云々」略シマスガ、ソレカラ更ニ又長崎登君ノ言ハレタ言葉ニ私ハ、此際ニ於テ尙念ノタメニ書記官長ノ手許ニ於テ守屋君ノ通告ハ説明ヲ請フノデアルカ、質問デアアルカト云フコトヲ取調ベテ見タ人間デアリマス、然ルニ明カニ質問トナリテ居リマス、質問トナリテ居ル以上ハ守屋君ガ演壇ニ立ッテ説明ヲ求ムルニハ別ニ訂正サレタ後更ニ發言ヲ求メナケレバ出來ヌノデアリマス、即チ守屋君ガ一旦立タレタレバイヤケナイ、ト云フ事柄ヲ立タレバ出來ヌノデアリマス、之ヲ取消サレテ更ニ發言ヲ求ムラレバイヤケナイ、ト云フ事柄ヲ通告ニ對シテ其演壇ニ立タレタレト云フコトハ差止メルト云フ動議ヲ提出致シマス、斯ウ云フ言葉ノ中ニ「現ニ議事日程ニ上ッテ居ル議案ニ對シ、何時ニモ政府ニ向ッテ質問ガ出來ルノデアリマスルカラ云々」加瀬君ノ演説ノ中ニ「私考ヘマスルニ質問ト云フモノモ説明ヲ求ムルト云フモノ、同一デアルト思ヒマス」斯ウ云フ意味ニ依ッテ討

議セラレテ、サウシテ採決ノ結果ハ茲ニ私ガ申述ヘルマデモナク、議長ハ長君ノ動議ガ多數アル、ト斯ウ決セラレタ、サウ致シマスレバ同ジコトデアッテモ説明ヲ求ムルコトニ付テ、質問ト云フコトヲハ説明ハ求メラレナイ、質問ト云フコトハ議題ニナッテ居ルコトニ付テ、問ヲ發スルコトガ出來ナイト云フノガ長君ノ動議ノ趣意アル、ツレバ多數決セラレテ居ルデアリマスカラ、是ハ間違ッテ居リマスルケレドモ、兎ニモ角ニモ斯ク決シテ居ル以上ハ、議長モ此院議ヲ重シクナケレバナラヌデアアルガ、政友會ノ方デアアルナラハ構ハヌト云フコトデアレバ、サウデアアルト御明言ヲナサイ

○議長(長谷場純孝君) 議長ハ斯ウ心得マス、所謂質疑ト云フコトハ議院法ニモ書イテアル、ツレバ其名ヲ質問ニ籍リテ、サウシテ議論ヲ濫リニスルト云フコトハ宜シクナイト思フノデゴザイマス、其場合ニ於テ極ク簡明ナル疑問ヲ質スコトハ差支ナイト思フノデゴザイマス、併ナガラ御承知ノ通り十四日ノ日ハ議場モアノ通りノ混雜デアリマシタカラシテ、尙取調ベテ御答ヲスルコトニ致シマセウ

○日野國明君 唯今ノ名ヲ質問ニ籍リテ演説ヲナスコトハ宜シクナイト云フ御意見ニ付テハ何等ノ不服ハナイガ、過日ノ長君ノ動議ハ、名ヲ質問ニ籍リテ演説スルモノデアアルカラト云フノデ之ヲ止メルト云フニアラスシテ、説明ヲ求ムルト言ハナイテ質問デアアルカライケナイト云フコトニナッテ居リマスガ、併シ其當時ノ議場ニ於キマスル議長ノ態度ニ付キマシテハ、本員ハナカク議長ノ御苦心ノ存スルトコロヲ見テ居リマスカラ、能ク御詮議下スツテ間違ッテ居レバ改メルト云フコトナラハ尙結構デアリマス

○議長(長谷場純孝君) ツレカラ一言加ヘテ置キマス、政友會ノ人ノ言フコトデアアルカラドウデアアルトカ、他派ノ人ノ言フコトデアアルカラドウト云フ御言葉ガアツタヤウデアリマス、ツレバ以テノ外ノコトテ、議長ハ決シテ左様ナ考ハ毛頭持チマセヌカラ、此段ハ御諒承ヲ請ヒマス(「ヒヤ〜」ト呼フ者アリ) 外務大臣小村壽太郎君——唯今外務大臣ノ演説ガアリマス

(外務大臣伯爵小村壽太郎君登壇)

○外務大臣伯爵小村壽太郎君 諸君、今回帝國ト米國トノ間ニ締結シタル條約ニ關シマシテ其概要ヲ開陳致シマシテ、諸君ノ御參考ニ供シタト考ヘマス(「謹聽」ト呼フ者アリ)帝國ト諸外國トノ間ニ存スル通商航海條約ハ御承知ノ如ク帝國政府ニ於テ當該國ニ對シ、既ニ是ガ廢棄ノ通告ヲ致シマシタカラ、本年七八月ノ頃ヲ以テ何レモ終了スルコトニナッテ居ルデアリマスガ、獨リ日米現行條約ニ至リマシテハ其終了期限ニ關シ兩國政府間ニ見解ヲ異ニ致シマシテ、是ガタメ種々交渉ヲ累ネマシタケレドモ、到底兩國政府ノ意見ノ一致ヲ見ルコトガ出來ヌト云フコトヲ認メマシタカラ、帝國政府ハ終了期限問題ヲ別ト致シマシテ、本年七月十七日ヨリ現行條約ニ代ルベキ新條約ヲ日米兩國間ニ締結セシコトヲ提議致シマシテ、米國政府ノ同意ヲ求メタ次第デアリマス、然ルニ米國政府ニ於キマシテハ專ラ兩國傳來ノ交誼ヲ顧念シ十分ノ厚意ヲ以テ我提議ニ考量ヲ加ヘマシタ結果、遂ニ新條約締結談判ヲ直ニ開始スルコトニ同意ヲシタノデアリマス、然ルニ新條約ヲ本年七月十七日ヨリ實施致シマスルニ目下開會中ナル米國議會ノ開期中ニ元老院ノ批准協贊ヲ得ルノ必要ガゴザイマスルカラ日米兩國政府共ニ銳意商議ノ進捗ヲ圖リマシタ、其結果幸ニ迅速ニ妥結ニ達スルヲ得マシテ、遂ニ二月二十一日ヲ以テ華盛頓ニ於テ、兩國全權委員ノ間ニ新通商航海條約ノ調印了シタノデアリマス、米國政府ハ此條約ヲ直ニ元老院ノ議ニ付シマシタガ、元老院ハ同月二十四日ヲ以テ批准協贊ヲ與ヘタル次第デアリマス、今回ノ新條約ハ我政府ノ提案ト對照致シマスルト、其主ナル相違ノ點ハ五ツ程ゴザイマス、第一新條約ニ於テハ

現行條約第二條末項ニ存シテ居リマスル勞働者ノ移住其他ニ關スル但書ヲ削除致シマシタ、蓋シ合衆國ヘノ移民ニ關スル帝國政府ノ方針ハ、嘗テ第二十五議會ニ於テ本大臣ノ言明シタルトコロデアリマシテ、帝國政府ニ於キマシテハ此方針ヲ變更スル意思ハゴザイマセヌカラ、新條約締結ノ際、帝國政府自ラ其旨ヲ米國政府ヘ宣言シタ次第デアリマス、第二新條約ニ於キマシテハ關稅ハ兩國間ノ別箇ノ條約又ハ各自ノ國內法ニ依ルコトニ致シマシテ、之ト同時ニ議定書ヲ以テ今後日米兩國間ニ別箇ノ條約ノ締結セラレ、ニ至ルマデハ、現行條約中關稅ニ關スル條項ヲ維持スルコトニナッテデアリマス、即チ關稅ニ關シマシテハ日米兩國相互ニ最惠國待遇ヲ保障スル次第デアリマス、第三新條約ハ現行條約第十條ノ末項ニ規定シテゴザリマスル如ク、一定ノ帝國開港場間ニ於テ米國船舶ノ積荷運搬ヲ許可スルコトナク、沿岸貿易ニ付キマシテハ、全然各自ノ國內法ノ規定ニ一任致シマシテ、唯互ニ最惠國待遇ヲ保障スルニ止メテゴザリマス、第四新條約ニ於キマシテハ永代借地權ニ關スル現行條約中ノ條項ヲ削除致シテゴザリマス、帝國政府ハ本件ノ根本的解決ニ付キマシテハ、別ニ米國政府ト協議ヲ致ス管アゴザリマス、第五現行條約中遭難船ニ關スル規定及脱船人ニ關スル規定ノ如キ、領事官ノ職務ニ當ル者ハ、今後日米兩國間ニ商議決定スルベキ領事職務條約ニツレテ讓ルノ趣意ヲ以テマシテ、新條約中ヨリ之ヲ削除致シタ次第デアリマス、新條約ニシテ現行條約ト異ッテ居リマスル主ナル點ハ、唯今申述ベタ通りデアリマス、新條約ニシテ尙兩國間ニ批准書交換ヲ了シマスルニ於テハ、本年七月十七日ヨリ現行條約ニ代ッテ實施セラレ、批准書ニナルノデアリマス、之ガタメ彼我通商ノ利益ヲ確保シ、兩國傳來交情ヲ益々鞏固ナラシムル上ニ於テ、其效果ノ渺ナカラザルベキハ帝國政府ノ確信致スコロデアリマス、今回ノ日米新條約締結ノ顛末ハ概略唯今申述ベタ通りデアリマスガ、尙新條約公布ノ時期ヲ待チマシテ、詳細ノコトヲ開陳致シマスル機會モアラウト考ヘテ居リマスカラ、諸君ニ於テ宜シク御諒承アラント希望致シマス(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 大石正巳君——今大石君カラ外務大臣ノ演説ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマシタカラ左様……

(大石正巳君登壇)

○大石正巳君 外務大臣ニ御尋ヒマスガ、新日米條約ニ二條ノ但書ヲ削除シタ、斯ウ云フ御報告デアリマス、アノ日米條約ノ中ノ主ナル簡條ハ恐ク此第二條ノ但書ノ意味デアアル、其事實デアアル(「マツト大キイ聲ヲ頼ム」ト呼フ者アリ)所ガ條約ニ表面ニ二條ノ但書ヲ削除シタ代リニ日本政府ハ亞米利加政府ニ向ッテ從來ノ移民ノ方針ヲ進シテ聲明ヲシタト云フコトヲ仰シヤツタガ、此日本政府ノ聲明ヲナサレタ、其文句ハ、ドウ云フ文句デアリマスガ、是モ伺ヒマスルガ、察スルコトコロ、但書ノ表面ニ書イテアツタ亞米利加政府ノ目的ヲ達シサスルコトヲ聲明ヲシタノデアリマスガ、若シ然リトスレバ此條約ニ但書ヲ削除シタト云フコトヲ、削除セザルト云フコトノ間ニ於テ、如何ナル差ガアル、日本國民ハ決シテ此文字ノ上ニ移民制限其他ノ日本帝國ノ面目ニ關スル條約ヲ唯文句ノ上ニ反對ヲスルト云フ譯デアリナイ、事實ノ上ニ於テ此ノ如キ不名譽ナル、國辱トナルベキモノヲ我堂々タル日本帝國ガ外國ニ向ッテ左様ナル約束スルト云フコトヲ反對スルコトデアアル(「ヒヤ〜」ト呼フ者アリ)然レバ今回唯條約面ノ上カラ但書ヲ削除スルト云フコトハ、何ノ效能ガアルデアアルカ、斯ヤウナル不名譽ナル、日本國民ノ恥辱トナルベキ、而モ實利上日本國家ガ大損害ヲ受クベキトコロノ條約ヲ敢テスルト云フコトハ、抑此政府ハ何ヲ代表シテ此ノ如キ條約ヲナサルデアアル、日本國民ガ日本政府ノ移民制限ニ對スルコトコロノ政策ヲ決シテ衰メテハ居ラヌデアアル、此過去數年間、日本政府ガ亞米利加ニ對スルコトコロノ外交上ノ態度ト云フモノハ、卑屈、從順、殊ニ日本ノ國民利福ヲ害スルトコロノ外交デアツテ、一人モ之ヲ贊成スル者ハナイデアアル(「ヒヤヒ

ヤ「ト呼フ者アリ」凡ソ執政ノ局ニ當ル者ハ國家全體ノ利害國ノ面目國ノ輿論ト云フモ
 ノヲ標準ニシテ外交ヲナスベキモノナル、之ニ依リテ始メテ日本政府ガ日本國家ヲ代表
 スルトコロノ條約ト云フコトガ出來ルノナル、今ヤ政府ノ亞米利加ト結ンダル條約ニ
 於テ日本國民ノ輿論ヲ代表スルニアラス、日本國家ノ利益ヲ標準トスルニアラス（ヒヤ
 ヒヤト呼フ者アリ）何ヲ以テ此ノ如キ條約ヲナサレドナル、又亞米利加ニ對シ、屈
 辱ノ外交ヲスル價トシテ、日本政府ハ滿韓集中ヲ以テ方針トスルト云フコトヲ聲明シ
 タ、滿韓ニ移民ヲ如何程昨年以來、若クハ一昨年以來、如何程滿韓集中ノ實行
 ヲ舉ゲタノナル、是レ一々統計ヲ以テ御示シナサレ、吾ミガ見聞スルトコロニ於テ、此
 政府ノ亞米利加ニ屈スルトコロノモノヲ滿韓ニ伸ベル、其聲明ト云フモノハ皆嘘八百デ
 アル（拍手スル者アリ）ヒヤ「ト呼フ者アリ」事實ニ於テ一點モ實行スルトハ出來ヌ
 ノデハナイカ（ヒヤ「ト呼フ者アリ」而モ尙高言ヲシテ曰ク、日本政府ハ從來ノ移民
 ノ方針ヲ決シテ變ヘテ居ラヌ「ト呼フ者アリ」變ヘテ居ラヌト云フコトハ、亞米利加ニ對スル屈辱的
 ノコトヲ變ヘテ居ラヌナル、何ヲ一點行ハタ事實ガアリマス、吾ミハ其他ニ付テ
 滿韓ニ移民ヲ集中スルト云フコトハ、何ヲ一點行ハタ事實ガアリマス、吾ミハ其他ニ付テ
 モ此日米條約ニ付テ批評ヲ試ムルコトハアリマスケレドモ、先ヅ此日米條約ノ中ノ其主
 眼トナルベキコロノ第二條削除ノ一端ニ於テ、十分ノ議會ヲ満足サセ、國民ヲ満足サ
 セルダケノ御辯明アラントラ希望スルノナル（拍手スル者アリ）

（外務大臣伯爵小村壽太郎君登壇）

○外務大臣（伯爵小村壽太郎君） 唯今大石君ニ御答致シマス、御承知ノ通り日
 米現行條約ノ第二條但書ニ依リマス、米國政府ハ自國ノ法律ヲ以テ何時デモ自由
 ニ日本人ノ移住制限ヲスルコトガ出來ルノデゴザイマス、此規定ハ兩國ニ取リマシテ甚
 危険ナルモノデゴザイマス、政府ニ於キマシテハ此條項ヲ削ルト云フコトヲ今回ノ談
 判ノ主眼ト致シタ次第デゴザイマス、又米國ヘノ移民ニ關シマシテハ先年來政府ニ於テ
 ハ一定ノ方針ヲ定メマシテ、ソレヲ實行シ來リタル次第デゴザイマス、此方針ハ條約ノ如
 何ニ拘ハラス之ヲ變更スルノヲ一變更セザルノヲ最モ得策ト考ヘマス、之ヲ變更ス
 ル意思ハゴザイマス、故ニ此度新條約締結ニ際シマシテ、此方針ヲ變更スル意思ハナ
 イト云フ事實ヲ亞米利加政府ニ向テ申述ベタ次第デゴザイマス、左様御承知願ヒマ
 ス

○議長（長谷場純孝君） 服部綾雄君

（服部綾雄君登壇）

○服部綾雄君 私モ二三點伺ヒタイコトガアリマス、現行條約ノ第二條ノ但書ヲ削除
 セラレタコトニ付キマシテハ、私ハ何モ申シマセヌガ、外ノ點ニ付テ伺ヒタイ、是ガ削除セラ
 レタニ付キマシテハ、米國ノ領土内ノ旅行遊ニ轉住、帝國ノ臣民ニシテ自由ヲ得タモノデ
 ハゴザイマスガ、アレハ布哇ノ住マウテ居ル帝國ノ臣民ハ、自由ニ米國ノ領土内ニ入ル
 コトガ出來ルマシカ、即チ何レノ州デアラウトモ、何所ニ參ッテモ、其轉住ノ權ヲ自由ニ用井ル
 コトガ出來ルヤ否ヤト云フコトデ、第二三伺ヒタイノハ是マテ各州ノ法律トシテ、吾ミ同胞
 ノ不利益ナル法律ガ設ケラレテゴザイマス、此第二條ノ但書ガ削除セラレタガタメニ、ソレ等
 ノ法律ハ如何ナツテ居リマスカ、或ハカリホルニヤ州ニ於テ、或ハ華盛頓州ニ於テ、或ハ
 「オレゴン」州ニ於テ、吾ミ即チ日本帝國ノ臣民ヲハ他國ノ臣民ト異ニテ取扱フ條項ガ殊
 更ニ日本人トシテ活キテ居ルモノデアルカ、吾ミ同胞ヲ指シタルモノノ法律ガ澤山ゴザイマ
 ス、此等ハ依然トシテ活キテ居ルモノデアルカ、此等ガ働カルト云フコトハ、第二條ノ但
 書ヲ取除カレテモ、各州ハ又帝國ノ臣民ニ對シテ別々ノ法律ヲ作りテ、之ヲ苦メ、或ハ米
 國中央政府ニ於テ之ヲ壓セントスルトキニハ、洲權ヲ稱ヘテ何カ申サユナ憂ハナイモノデ

ゴザイマス、此條約改正ニ於テハソレ等ノ點ニ付テハ如何ナツテ居リマス、之ヲ伺
 ヒタイ、ソレカラ第三三伺ヒタイノハ唯今御話ニナリマシタ中ノ第三三伺ヒタイ、沿岸貿
 易ノコトデゴザイマスガ、是マデハ我邦ニ於テハ米國ノ船ガ自由ニ神戸ノ港、橫濱ノ港ヘ
 繫グヤウナコトモ出來マシタノデアリマスガ、今承ッタコロニ依リマス、是ハ出來ナイヤウニ
 ナツヤウデ、ガガ何セ我邦ニ於テ沿岸貿易ヲ禁止シテ置イタ、ソレニ倣ウテ米國ノ沿岸
 貿易自由權ヲ取ルコトニ變ヘテ、是ヲ禁止シテ兩方同シヤウニスルコトニセラレタカ、之ヲ伺
 ヒタイ、實業團ガ先年米國ノ方ニ參リマシタキニモ「ボルチモア」ニ於テハ開カレタ宴會ニ
 於テモ、「ヒラデルヒヤ」ニ於テ開カレタ宴會ニ於テモ、「ボルチモア」ニ於テハ「ワナメール」
 アリマシタ、即チ「ボナバル」ト云フ人ガ、ソレカラ「ヒラデルヒヤ」ニ於テハ「ワナメール」ト
 云フ人ガ、日本ト米國ノ東洋沿岸トノ聯絡ヲ計ランガタメニハ熱心ナル希望ヲ以テ彼ノ
 實業團ノ人ミヲ歡迎シマシテ、其席上ニ於テ「バナマ」運河ノ開カレタル曉ニ於テハ、日本ハ
 此沿岸ニ直ニ船ヲ送ッテ呉レルヤウニ、吾ミモ亦出來得ルダケノコトヲナシテ、貴國ノタメ
 ニ盡スト云フ意味ヲ十分ニ言現シテアル、其當時ニ於テ其實業團ノ中カラシテ確ニ之
 ニ答ヲナサレタ、答ヲ私ハ見タコトガアル、其希望ヲ以テ此實業上ノ聯絡ヲ米國各州ト
 付ケタイト云フ希望ヲ以テ、雙方ガ喜ンダ場合ガアッタヤウデゴザイマス、二四年ノ後
 ニ「バナマ」運河ガ開カレタルキニ於キマシテハ、日本ガ米國沿岸ニ自由ヲ得テ居ルト云フ
 コトハ、其大ナル利益アルト思フノデ、或ハ會社ノ如キモノガ政府ニ多少ノ補助ヲ受ケ
 テ居ルヨリハ、遙ニ此自由權ヲ得マシテ或ハ「ボルチモア」ニ參ッダ船ガヤハリ「ボルチモ
 ア」カラ「テキサス」ニ著イタコロノモノガカリホルニヤ「ニ容ヲ乘セ、荷物ヲ載セテ、サウシ
 テ日本ノ航路ガ進ムコトガアリマシタナラバ、餘程ノ利益アルト私ハ思フテ居リマス、亞
 米利加ニハ船ガナイノデス、亞米利加ハ船ガ乏シイノナル、亞米利加ノ沿岸ニハ獨逸ノ
 船ガ競ウテ居ルトキデアリマス、米國ガ今日或ハ朝鮮ト日本トヲ繫キ、或ハ此島ノ一部ト
 他ノ部トヲ繫グ權ヲ持ッテ居ッテ、大ニ吾ミハ權利ノ上ニ於テハ彼ニ此權利ガアルナラバ、
 我モ此權利ヲ取ラナケレバナラヌト、平素思ッテ居タルノナル、之ヲ互ニ禁止スルデナシ
 ニ、互ニ得ルト云フコトニシタナラバ、非常ナル利益アルモノデアルト平素思ッテ居ッテ、
 今回條約改正ノ場合ニ於テハ、必ズ彼ニ與ヘテ居ッテ權利ハ我得ルモノデアラウト思ッテ
 居ッテ、所ガ今ノ御説明ヲ伺ッテ初メ承知ヲ致シマシタガ、此沿岸貿易權ハ互ニ禁止シ
 テ、サウシテ米國カラ申シマスレバ、サノミ利益ノナイモノナラ止メラレテ、何ノ苦痛ノ無イモ
 ノト思ヒマスガ、我進ンデ得ルナラバ莫大ノ利益アル、之ヲ主張セラレタノデアリマス、ソ
 レトモ最初カラ此點ニ於テハサウ云フ風ニ進メズシテ、サウ云フ風ニ掛ラズシテ、サウシテ是
 ハ互ニ禁止スルト云フコトノミデアリマシタカ、私ハ實ニ遺憾ニ存ズル餘リ此點ヲ御尋申
 シマス、即チ是ガ第三三點デアリマス、ソレカラ前ニ戻ルヤウデアリマスガ、但書ヲ取ラレタメ
 ニ今一ツ伺ヒタイコトガアル、我帝國ノ臣民ノ入籍權或ハ養子トナリ、或ハ嫁入シ、又
 亞米利加人ト結婚スルト云フヤウナ場合、斯ウ云フコトニ付テハドウ云フ風ニナツテ居リ
 マス、各州通シテ差支ナイモノデアリマス、ソレトモマサウ云フ風ノ權利ハ此條約ガ
 ケデハ得ラヌモノデアリマス、即チ入籍ノ件デアリマス、斯ウ云フ四點ニ付テ私ハ失禮
 デアルガ御答辯ヲ願ヒタイ（拍手起ル）

（外務大臣伯爵小村壽太郎君登壇）

○外務大臣（伯爵小村壽太郎君） 唯今服部君ノ御質問ニ御答致シマス、沿岸
 貿易ノコトニ關シマシテハ今回ノ條約改正ニ於キマシテハ政府ノ方針ハ沿岸貿易ノコト
 ハ全然國內法ノ規定ニ依リテ云フコトニシテ居ッテ、唯單ニ最惠特遇ヲ保障スルコトニ
 止メテ置キタイト云フ方針デゴザイマス、今日ノ場合ニ於キマシテハ第一ノ點、第四
 ノ點ハ到底見込ガ無イト考ヘマシタ結果デゴザイマス、其外御質問ノ第一第二ノ點、第四
 ノ點ニ關シマシテハ、イツレ新條約ノ公布ノ上條約ニ付テ篤ト御互ニ研究シタ上テ、申上

ゲル方が宜カラウト考ヘマスカラ、之ニ對スル御答ハ暫ク見合セテ置キマス

○石橋爲之助君 本員ハ極ク簡單ニ此處カラ質問致シマス、本員ノ問ハント欲スルトコロハ服部君ノ問ハレタ中ニ籠テ居リマスルトコロノ沿岸貿易ノコトデアリマス、唯今ノ御答辯ニ依テ尙説明ヲ請ハナケレバナラヌコトニナリマス、即チ沿岸貿易ハ國際法ノ原則ニ依テ互ニ禁ズルト云フコトヲ本則ト致ス、其代リニ最惠國條款ヲ保留シテ置ク、斯ウ云フコトニ承リマスガ、サウ致シマスルト其結果ニ付テ是生ズルコトデアリマス、米國ハ沿岸貿易ヲ禁ズル國柄デアリマス、然ルニ英國及白耳義ノ如キハ、沿岸貿易ヲ許シテ居ル國デアリマス、所ガ米國ニ對シテ我國ハ禁ズル居ルガ、併ナガラ其例外トシテ取除ケトシテ最惠國條款ヲ存シテ置ク以上ハ、日本ガ英國トノ間ヲヤハリ相互的ニ英國ニモ許スガ故ニ、我國ニモ許スノテアツテ、沿岸貿易ヲ許スコトニナリマス、其利益ニ米國ハ均霑スルコトガ出來マス、併ナガラ我國ハ米國ノ方ニ對シテハ何等均霑スルコトノ出來ナイ結果ニナリマス、サウナリマスレバ即チ雙務ニアラスシテ、ヤハリ片務ト云フコトニナリマス、其邊ノ利害得失ハ如何ニ御辯明ニナリマセウカ伺ヒタイ

○外務大臣(伯爵小村壽太郎君) 英國トノ條約ハマダ出來テ居リマセヌ、出來マシメ上テ御答シタ方ガ便利ト思ヒマス

○大石正己君 簡單テゴザイマスカラ、此處カラ御尋ネシマスガ、先程ノ質問ヲ致シテアル滿韓ハ移民ノ集中ト云フ點ガ御答ハナイデスカ、如何デゴザイマスカ、滿韓ハハ既ニドレダケノ移民ヲ集中ナサレタノデアルカ、又如何ナル計畫ヲナシツ、アルカ、其アタリヲ明カニ御答ニ與リタイ、且亞米利加ニ對シテ日本政府ハ從來ノ移民制限ノ主意ヲドモマデモ誠實ニ實行スルト云フコトヲ聲明シタト云フコトデアルガ、之ハ日本國ノ何等ノ利益ニナル思召ヲ以テ、此ノ如キ聲明ヲナサレタノデアルカ、唯既定ノ、政府既定ノ其方針ヲ聲明スルト云フコトハ取モ直サズ日本ノ國辱ヲサレタト云フコトデアル、此度對等ノ條約ヲ結ブ機會ニ當テ尙此ノ如キ陋態ヲ演ズルト云フコトハ、何等ノ日本ノ利益ヲ保護スルタメニナサレタノデアルカ、其説明ヲ承リタイ

○外務大臣(伯爵小村壽太郎君) 大石君ノ御質問ニ對シテハ先刻答ヘテ置キマシメ上レ以外ノコトハ唯今申上ゲル必要ハナイト考ヘマス

○大石正己君 不都合デス、ソレハ大間違デアル、今御尋シタコロノモノハ滿韓ニ移民ヲ集中スルト云フ點ハ先程質問シテアルニ御答ガナイ、ナイカラ其催促ヲシテ居ルノデアル、御答ガナイノデアル、又亞米利加ニ向テ日本政府ヨリ腰ヲ屈メテ屈辱ノ聲明ヲセヌナラヌト云フ理由ハ、如何ナル點デアルカト云フコトハマダ説明ニナラヌノデアル

○外務大臣(伯爵小村壽太郎君) 第一ノ點ハ日米條約ハ關係ガゴザイマセヌ、此際ニハ御答致シマセヌ、第二ノ點ハ、大石君ハ屈辱ノ聲明ト申シマスガ、政府ニ於テハ全ク所見ヲ異ニ致シテ居リマス

○大石正己君 最早御答モ出來ヌコトヲ追窮スルモ甚ク愚ノコトノヤウニ思ヒマセケレドモ、併ナガラ其答ガ出來ヌナラ出來ヌト御答ニナレバ宜イガ、又抗辯シテ滿韓移民集中ノコトハ此問題ト關係ガナイト仰シタルノハ何デアルカ、即チ此移民制限、亞米利加ニ對シテ屈シテ居ルトコロノモノハ、滿韓ハ移民ヲ集中シテ伸ズルト云フ譯デ、昨年以來議會ニ於テ政府ハ公言ヲサレテ居ル(「ヒヤク」ト呼フ者アリ)之ガ何等ノ關係ガナイト云フコトハ、是ハ全ク政府ノ遁辭デアル(外務大臣ハ健忘症ナリヤ)ト呼フ者アリ)又後ノ點ハ屈辱デナイト仰シタル、是ハ意見ガ違フニ相違ナイ、屈辱デナイト仰シタルナラバ意見ガ違フニ相違ナイガ、是ハ外務大臣若クハ内閣大臣ノ私見デアル、此ノ如キモノガ屈辱デナイト云フ註解ハ此日本國民ハ信用シナイコトデアル

○議長(長谷場純孝君) 是以上ノ御質問ハ議院法ノ四十八條ニ依テ御質問ニナ

ルガ宜カラウト思ヒマス、御諮ヲ致シマス、請願委員第一分科員中砂糖政策ニ關スル件、調査委員會ヲ本會議ノ開議中ニ開キタイト云フ請求ガアリマス、御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ許可スルコトニ致シマス、日程第一及第三ハ關聯シタル議案ニナルニ依テ、一括シテ議題トナスニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ日程ノ第一、市制改正法律案、日程ノ第三、町村制改正法律案、之ヲ一括シテ議題ト致シマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第一 市制改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三 町村制改正法律案(政府提出) 第一讀會

市制改正法律案

市制

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第二款 市住民及其ノ權利義務

第三款 市條例及市規則

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第三款 市參事會

第四款 組織及選舉

第五款 職務權限

第四章 市吏員

第一款 組織選舉及任免

第二款 職務權限

第五章 給料及給與

第六章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第二款 歲入出豫算及決算

第七章 市ノ一部ノ事務

第八章 市町村組合

第九章 市ノ監督

第十章 雜則

市制

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第二款 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第三款 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第四款 監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五款 市ノ廢置分合ヲ爲サントスルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ內務大臣之ヲ定ム

第六款 前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 市ノ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財產及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第七條 市ハ其ノ名稱ヲ變更セムトスルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

市役所ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條ノ市カ其ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ前項ノ例ニ依ル

第八條 市內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ且其ノ市內ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ其ノ市公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者禁治產者準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

市ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セララルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ於テハ市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一年以上四年以下其ノ市

公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以內其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市內ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡六十年以上ノ者

四 官公職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年以上名譽職市吏員名譽職參事會員市會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民第九條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

市公民租稅滯納處分中其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコトヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市條例ヲ以テ規定スルモノノ外市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

議員ノ定數左ノ如シ

一 人口五萬未満ノ市ニ於テハ 三十人

二 人口五萬以上十五萬未満ノ市ニ於テハ 三十六人

三 人口十五萬以上二十萬未満ノ市ニ於テハ 三十九人

四 人口二十萬以上三十萬未満ノ市ニ於テハ 四十二人

五 人口三十萬以上ノ市ニ於テハ 四十五人

人口三十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口十萬、人口五十萬ヲ超ユル市ニ於テハ人口二十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ増加ス

議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セズ但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ直接市税ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納税スル者二人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第九條第一項ノ要件ニ當ラズト雖選舉權ヲ有ス但シ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラズ

法人ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル

直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ其ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

前二項ノ直接市税及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉人ハ分チテ三級トス

選舉人中直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ三分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ三分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

一級選舉人ヲ除クノ外直接市税ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市税ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ三級トス但シ二級選舉人ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用ス

各級ノ間納税額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ兩級ノ間ニ同額ノ納税者二人以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル住所ヲ有スル年數同シトキハ年長者ヲ以テシ年長者ヲ依リ難キトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區アル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ第二項乃至第四項ノ納税額ハ選舉人ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第二項乃至第四項及前項ノ直接市税及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ前項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ區ヲ以テ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市内ニ住所ナキ者ハ直接市税若ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課税ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ其ノ申出ナキトキハ市長ニ於テ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ但シ一級選舉人ノ數其ノ選出スヘキ議員配當數ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員配當

數ト同數ヲ以テ一級トス二級選舉人ニ付亦同シ

被選舉人ハ同選舉區内ノ者ニ限ラス各選舉區ニ通シテ選舉セララルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ付亦同シ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ市ノ有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

市ニ對シ常ニ工事ノ請負ノ物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ市ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得ス數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキハ又ハ等級若ハ選舉區ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ

市長市參事又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ市會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ市長抽籤シテ之ヲ定ム選舉區アル場合ニ於テハ第十六條ノ市條例中ニ其ノ解任ヲ要スル者ノ選舉區及等級ヲ規定シ市長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ但シ解任ヲ要スル選舉區及等級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス

選舉區又ハ其ノ配當議員數ノ變更アリタル場合ニ於テ之ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事市長若ハ市會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ

補關議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補關議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區アルトキハ選舉每ニ名簿ヲ調製スヘシ

第六條ノ市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項ノ名簿ヲ調製セシムヘシ
市長ハ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午
後四時迄市役所第六條ノ市ニ於テハ區役所又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係
者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ市長
第六條ノ市ニ於テハ區長ヲ經テニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縱覽期間満了
後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七
日以内ニ之ヲ決定スヘシ
前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁
決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第三項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スル
コトヲ得
前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ
修正ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加ヘ第六條ノ市ニ於
テハ區長ヲシテ修正セシムヘシ
選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス
確定名簿ハ第三條又ハ第四條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定
スルモノヲ除ク外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之
ヲ用テ選舉區アル場合ニ於テハ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ
確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用テ一部ノ選舉區限リ
調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノミ行フ
選舉ニ之ヲ用テ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿
ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ
之ヲ修正スヘシ
選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ市長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ第六條ノ市
ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ
選舉分會ヲ設ケタルトキハ市長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄
本ヲ調製スル第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ズ但シ選舉人名
簿ニ登錄セラレハキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場
ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者
ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキ
ハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ
三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ
確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコ
トヲ得ズ但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス
第三項乃至第六項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ
依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製ニ
縱覽ノ修正ノ確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ府縣知事ノ定
ムル所ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ
選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用テ
縱覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ
依リ之ヲ算定ス

第二十二條 市長ハ選舉期日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉會場、投票ノ日時
及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區アル場合ニ於テハ各級
ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設ケル場合ニ於テ
ハ併セテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ
各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ行ヒ選舉分會ノ選舉ハ本會ト同日時ニ之
ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ市
長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及
投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ
選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次に二級ノ選舉ヲ行ヒ次に一級
ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタル
トキハ市長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ
日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ
第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
各選舉區ノ選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員
於テハ區長 選舉長ト爲
リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
選舉分會ハ市長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締
ニ任ス
市長第六條ノ市ニハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ
但シ選舉區アルトキ又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ
設ケヘシ
選舉立會人ハ名譽職トス
第二十四條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ズ但シ選舉會場
ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏
ハ此ノ限ニ在ラス
選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ
勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長
ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ
前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ
得ズ但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ
投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス
第二十五條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其
ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ
投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過ケルモ投票ヲ爲
スコトヲ得
選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ
投票スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘ
キ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用テ得ヘシ
自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ズ
投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用テ得ヘシ
選舉區アル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スル
コトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十六條 增員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 第十四條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齡二十五年以上ノ男子ニ非サル者ハ禁治産者及準禁治産者ハ必ズ代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ年齡二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第一項但書ニ當ル者第十條第二項ノ規定ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得又

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ

第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ舊位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用井タル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項

第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決定スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ分會長之ヲ決定スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄 第六條ノ市ニ於テ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票 選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ第六條ノ市ニ於テハ區長ヲシテ之ヲ告知セシムヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ市長抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ市長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス

第三十四條 選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキ、同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ市長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示併シテ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十六條 選舉人選舉又ハ當選效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十四條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ第三十四條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項ノ決定アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及市會ノ決定ハ無効トス

第二項若ハ第六項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定ニ付テハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項若ハ前項ノ裁決又ハ第三項ノ決定ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

市會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十七條 當選無効ト確定シタルトキハ市長ハ直ニ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

選舉無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付亦同シ

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被

選舉權ノ有無ハ市會之ヲ決定ス但シ禁治産者、準禁治産者、十六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、市公民權ヲ停止セラレタル者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ニ付テハ市長之ヲ決定スヘシ
市長ハ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第一項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第三十九條 第二十一條及第三十六條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、市會ノ決定ハ市長直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
前項ノ罰則中選舉人ニ關スル規定ハ第二十七條ノ代人ニ之ヲ準用ス

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ
一 市條例及市規則ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關スル事但シ第九十三條ノ事務及法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定ムル事
四 決算報告ヲ認定スル事
五 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、加入金、市稅又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事
八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事
第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ
第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ市會議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ市長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會成立セス、召集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ市會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長及副議長一人ヲ選舉スヘシ
議長及副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代ハリ議長及副議長共ニ故障アルトキハ市長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齡同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事前項ノ列席者發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ召集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキ市長ハ之ヲ召集スヘシ
市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ召集スルコトヲ得召集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前途ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ
市會ハ市長之ヲ開閉ス

第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十四條ノ除外ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻子、兄弟、姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者

二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシムル其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十五條及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 市長ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ
前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須非ス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ
議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用非又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員
アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ
當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合
ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十條 傍聴人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲
場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏
名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ市會ニ
於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ

第六十三條 市會ハ會議規則及傍聴人取締規則ヲ設クヘシ
會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ
三日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコト
ヲ得

第三章 市參事會
第一款 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
一 市長
二 助役
三 名譽職參事會員

前項ノ外市參事會ヲ置ク市ニ於テハ市參事會員トシテ其ノ擔任事業
ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與ス

第六十五條 名譽職參事會員ノ定數ハ第六條ノ市ニ在リテハ八人其ノ他ノ
市ニ在リテハ六人トス

名譽職參事會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ其ノ選舉ニ
關シテハ第二十五條第二十八條及第三十條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ
關シ異議アルトキハ市會之ヲ決定ス

名譽職參事會員中關員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會員ノ任期ハ市會議員ノ任期ニ依ル但シ市會議員ノ任期滿了
ノ場合ニ於テハ後任名譽職參事會員選舉ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス市長故障アルトキハ市長代理
者之ヲ代理ス

第二款 職務權限
第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ
一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル
事

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事
三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ召集ス名譽職參事會員定數ノ半數以上ノ
請求アルトキハ市長ハ之ヲ召集スヘシ

第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聴ヲ許サス
第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定數ノ半數
以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第二項ノ除斥ノ爲名
譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付召集再回ニ至ル
モ仍名譽職參事會員其ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ召集ニ應スルモ出席名
譽職參事會員定數ヲ關キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姊妹ノ一身上ニ
關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市參事會ノ同意
ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

議長及其ノ代理者共ニ前項ノ場合ニ當ルトキハ八年長ノ名譽職參事會員議
長ノ職務ヲ代理ス

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項及第五項第
五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條並第六十二條
第一項及第二項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市吏員
第一款 組織選舉及任免

第七十二條 市ニ市長及助役一人ヲ置ク但シ第六條ノ市ノ助役ノ定數ハ內
務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得
特別ノ必要アル市ニ於テハ市條例ヲ以テ市參事會ヲ置クコトヲ得其ノ定數
ハ其ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十三條 市長ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ
ヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條 市參事會ハ名譽職トス但シ定數ノ全部又ハ一部ヲ有給吏員ト爲
スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第七十二條第三項ノ市條例中ニ之ヲ規定ス
ヘシ

市參事會ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七十五條 助役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス
助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長又ハ市會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

第七十六條 市長有給市參與及助役ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ市ノ公民トス

第七十七條 市長市參與及助役ハ第十八條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得又其ノ市ニ對シ常ニ工事ノ請負ノ物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ又ハ其ノ市ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

市長ト父子兄弟タル縁故アル者ハ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得又市參與ト父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得又父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ市參與又ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得

第十八條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十八條 市長有給市參與及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得

市長有給市參與及助役ハ會社ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得

第七十九條 市ニ收入役一人ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

第七十五條第一項乃至第三項第七十七條第一項及第四項並前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ第七十六條ノ規定ハ收入役ニ之ヲ準用ス

市長市參與又ハ助役ト父子兄弟タル縁故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得又父子兄弟タル縁故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得

第八十條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人ヲ置キ市有給吏員トシ市長之ヲ任免ス

第七十七條第一項及第七十八條ノ規定ハ區長ニ之ヲ準用ス

第八十一條 第六條ノ市ノ區ニ區長一人又ハ區收入役及區副收入役各一人ヲ置ク

區收入役及區副收入役ハ第八十六條第一項ノ吏員中市長助役市收入役市副收入役又ハ區長トノ間及相互ノ間ニ父子兄弟タル縁故アラサル者ニ就キ市長之ヲ命ス

區收入役又ハ區副收入役ト爲リタル後市長助役市收入役市副收入役又ハ區長トノ間ニ父子兄弟タル縁故生シタルトキハ區收入役又ハ區副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

前項ノ規定ハ區收入役及區副收入役相互ノ間ニ於テ區副收入役ニ之ヲ準用ス

第八十二條 第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

内務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ區ニ付テハ第八十條第八十一條第九十四條第二項第九十七條第四項第九十八條及第九十九條ノ規定ヲ準用スルノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 市ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス市會ニ於テ市會議員名譽職市參事會員又ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ市長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル市參與若ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八十四條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲市公民タル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第十一條第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得

第八十五條 前數條ニ定ムル者ノ外市ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 前數條ニ定ムル者ノ外第六條及第八十二條第三項ノ市ノ區ニ必要ノ市有給吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十七條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表ス

市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料ノ手数料加入金市稅又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十八條 市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審査ニ付シ其ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第八十九條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第九十條 市會又ハ市參事會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得

直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二項ノ裁決又ハ前項ノ處分ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ市會又ハ市參事會其ノ議決ヲ改メサルトキハ市長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

前項ノ裁決ニ不服アル市長市會又ハ市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 市會成立セサルトキ第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長市參與及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得

市參事會成立セサルトキ又ハ第七十條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ議決ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決ニ付府縣參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ決定ニ付キ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條 市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ市長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十三條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ其ノ事務ノ一部ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十五條 市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス

第九十六條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ市長ノ定ムル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第九十七條 收入役ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務及第九十三條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數人アルトキハ豫メ市長ノ定ムル順序ニ依リ之ヲ代理ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第六條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

第九十八條 第六條ノ市ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區所屬ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區收入役及區副收入役ニ非サル區所屬ノ吏員中上席者ヨリ順次之ヲ代理ス

第一項及第二項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 第六條ノ市ノ區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ市及區ノ出納其ノ他ノ會計事務並國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル

區長ハ市長ノ許可ヲ得テ區收入役ノ事務ノ一部ヲ區副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ區ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ區會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

市長ハ市ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テハ豫メ市會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

區副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市長ハ區收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定ムヘシ

區收入役及區副收入役ノ職務權限ニ關シテハ前四項ノ規定スルモノノ外市收入役及市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百條 名譽職區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

名譽職區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第一百一條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財產又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル市ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第一百二條 第八十五條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百三條 第八十六條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五章 給料及給與

第四百四條 名譽職市參事、市會議員、名譽職參事會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第四百五條 市長、有給市參事、助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第四百六條 有給吏員ハ市會ノ議決ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第四百七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四百八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ市ノ負擔トス

第六章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅
第九條 收益ノ爲ニスル市ノ財產ハ基本財產トシ之ヲ維持スヘシ

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財產ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第一百十條 舊來ノ慣行ニ依リ市住民中特ニ財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルコトヲ得

前項ノ財產又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第一百十一條 市ハ前條ニ規定スル財產ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設ケルコトヲ得

第一百十二條 市ハ第一百十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第一百十三條 市ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第一百十四條 財產ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百十五條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第一百十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財產ヨリ生スル收入、使用料、手數料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第一百十七條 市稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ
一 國稅府縣稅ノ附加稅
二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第一百十八條 三月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、市内ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

市ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シテ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在市内ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シテ市稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二十一條 所得稅法第五條ニ掲グル所得ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及使

用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

前四項ノ外市稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百二十二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市ノ一部ヲ納ムル義務物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市稅ヲ納ムル義務物者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ市ノ一部ヲ利スル財産ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル
第二百二十三條 市税及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定ア
ルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二百二十四條 數人又ハ市ノ一部ニ對シテ特ニ利益アル事件ニ關シテハ市ハ
不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十五條 夫役又ハ現品ハ直接國稅ノ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課セサ
ル市ニ於テハ直接國稅ノ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ但
シ第六十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二百二十六條 非常災害ノ爲必要ナルトキハ市ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ
又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ
損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲必要ナルトキハ市長ハ警察官吏又ハ監督
官廳ハ市内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハ
サルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其
ノ決定ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ
第一項ノ規定ニ依リ土地ノ一時使用ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服
アルトキハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願
スルコトヲ得

第二百二十七條 市税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨ
リ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢
シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ
第二百二十八條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコ
トヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市税ヲ減免スルコトヲ得
第二百二十九條 使用料手數料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ
之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコ
トヲ得

財產又ハ營造物ノ使用ニ關シテハ市條例ヲ以テ五圓以下ノ過料ヲ科スル
規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ
其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第二百三十條 市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト
認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ市長ニ異議ノ
申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツル
コトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決
定ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手數料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ
關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起
スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ
得

第二百三十一條 市税、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ市ノ收入
ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ
代フル金額ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ急迫
ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ
其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ
得

滞納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ
完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追
徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前二項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願
シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ市長ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第二百三十二條 市ハ其ノ負債ノ償還スル爲市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支
出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率
及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲ス
コトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ
第二百三十三條 歲入出豫算及決算

第一項 市長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ
一月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財產表ヲ提出ス
ヘシ

第二百三十四條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコ
トヲ得

第二百三十五條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支
出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ年各年度ノ支出額ヲ定メ繼續
費ト爲スコトヲ得

第二百三十六條 市ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ
設クヘシ

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百二十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第三百二十八條 市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三百二十九條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出、費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第四百十條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第四百十一條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少ク

トモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事

會員二人以上ノ立會ヲ要ス

第四百十二條 市ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提出

スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之

ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ト共ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ

要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長市參與及助役ハ其ノ議

決ニ加ハルコトヲ得ス

第四百十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ

內務大臣之ヲ定ム

第七章 市ノ一部ノ事務

第四百十四條 市ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノアル

トキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中市ノ財産又ハ營

造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ

アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四百十八條 第四百十四條ノ市ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スル

モノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 市町村組合

第四百十九條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ

府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クル

コトヲ得

市町村組合ハ法人トス

第五百十條 市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事

務ノ變更ヲ爲サントスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可

ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又

ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五百十一條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規

約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更セムトスルトキ亦同

シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更ス

ルコトヲ得

第五百十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル市町村、組合ノ共

同事務、組合役場ノ位置、組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ

ルコトヲ得

第五百十三條 市町村組合ノ解カントスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ

府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五百十四條 市町村組合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第五百十五條 第五百十條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ

關スル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五百十六條 第五百十條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ

關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ

得テ府縣知事ノ認定ニ付ス

第五百十七條 第四百十九條第一項第五百十條第一項第五百十一條第一項

第五百十三條第一項及前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服ア

ル市町村又ハ市町村組合ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル市町村ハ其ノ告知アリタ

ル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ組合ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル市町村ハ

府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁

判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スル

コトヲ得

第四百十七條 第四百十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百十七條 第四百十四條ノ場合ニ於テ市ノ一部府縣知事ノ處分ニ不服

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第百五十六條 市町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除
クノ外市ニ關スル規定ヲ準用ス

第九節 市ノ監督
第百五十七條 市ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大
臣之ヲ監督ス

第百五十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ監督ニ關スル府
縣知事ノ處分ニ不服アル市ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百五十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內
務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第百六十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日
ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ
此ノ限ニ在ラス

行政訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之
ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル
異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘ
シ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依
リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第百六十一條 監督官廳ハ市ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ
爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閱ス
ルコトヲ得

監督官廳ハ市ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分
ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第百六十二條 內務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
市會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第百六十三條 市ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命ス
ル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算
ニ加フルコトヲ得

市長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ
其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ
負擔トス

前二項ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得
第百六十四條 市長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳
ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得
但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘ
シ

第百六十六條 左ニ掲グル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 市債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ
變更スル事但シ第百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
四 使用料手數料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
第百六十七條 左ニ掲グル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
三 第百十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事
六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
七 第百二十二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ市ノ一部
ニ費用ヲ負擔セシムル事
八 第百二十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ市ノ一
部ニ對シ賦課ヲ爲ス事
九 第百二十五條ノ準率ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ
場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第百六十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請
ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百六十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可
ヲ受ケシメサルコトヲ得

第百七十條 府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役、區長、區長
代理者、委員其ノ他ノ市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ
罷責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長、市參事、助役、收入役、
副收入役及第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒
審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ勅令ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員
ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知
事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ
招集及會議ニ付テハ府縣知事ハ其ノ職權ニ關シテ府縣參事會ニ關スル規定
ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スル
コトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長、市參事、助役、收入役、副收入役及第六條又ハ第八十二條第
三項ノ市ノ區長ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ
場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任
命セラレルコトヲ得

第七十一條 市吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十章 雜則

第七十二條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第七十三條 本法ニ規定スルモノノ外第六條ノ市ノ有給吏員ノ組織任用分限及其ノ區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十四條 第十三條ノ人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七十五條 本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第七十六條 市又ハ市町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ市ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 本法ハ町村制第五十七條ノ地域ニ之ヲ施行セス

附則

第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十九條 本法施行ノ際現ニ市會議員又ハ區會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

本法施行ノ際現ニ市長助役又ハ收入役ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル任期滿了ノ日ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第八十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第八十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

町村制改正法律案

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第三款 町村條例及町村規則

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限

第三款 組織選舉及任免

第四款 職務權限

第五章 給料及給與

第一款 町村ノ財務

第二款 財產營造物及町村稅

第六章 町村ノ一部ノ事務

第七章 町村組合

第八章 町村ノ監督

第九章 雜則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ爲サムトスルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ財產アルトキハ其ノ處分ニ關シテハ前項ノ例ニ依ル

第四條 町村ノ場合ニ於テ市ノ廢置分合ヲ伴フトキハ市制第三條ノ規定ニ依ル

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁定ス其ノ裁定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條 町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 第一項ノ裁定及前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ關係町村ニ交付スヘシ

第八條 第一項ノ裁定及第二項ノ決定ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ町村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲サムトスルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第十條 町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村內ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ町村住民トス

第七條 町村住民ハ本法ニ從ヒ財產及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第八條 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子二年以來町村ノ住民ト爲リ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ且其ノ町村內ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ其ノ町村公民トス但シ貧困ノ爲公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者禁治產者禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 町村ハ前項二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十條 町村ハ前項二年ノ制限ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲メタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

第十一條 町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラレタルコトナシ

第十二條 町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ町村公民ノ要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

町村公民ノ數町村會議員定數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ町村ハ町村公民ノ要件ニ關シ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

一 若シ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民ノ權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

二 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
三 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者
四 官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
五 四年以上名譽職町村吏員、町村會議員又ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後

六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者
前項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 町村公民第七條第一項ニ掲ケタル要件ノ一ヲ闕キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其ノ公民權ヲ失フ

第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人之ヲ選舉ス

- 一 人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ 八人
- 二 人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ 十二人
- 三 人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ 十八人
- 四 人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ 二十四人
- 五 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 三十人

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ內務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラ

第十二條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 選舉人ハ分チテ二級トス
一 選舉人中直接町村稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ二分ノ一ヨリ少キトキハ納額最多キ者議員定數ノ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス

第十四條 特別ノ事情アリテ前七項ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特別ノ規定ヲ適用ス

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

一 所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員
二 其ノ町村ノ有給吏員
三 檢察警察官吏及收稅官吏
四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
五 小學校教員

町村ニ對シ常ニ工事ノ請負、物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ町村ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル縁故アル者ハ同時ニ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一入ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

議員ト爲リタル後前項ノ縁故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其ノ職ヲ失フ
町村長又ハ助役ト父子兄弟タル縁故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス
議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲解任ヲ要スル者アルトキハ每級各別ニ町村長抽籤シテ之ヲ定ム但シ解任ヲ要スル等級ニ關員アルトキハ其ノ關員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ總選舉ニ依リ選舉セラレタル議員ノ任期滿了ノ日迄在任ス
第十七條 町村會議員中關員ヲ生シ其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長町村長若ハ町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル等級ニ於テ之ヲ選舉スヘシ
第十八條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ

町村長ハ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縦覽期間滿了後三日以内ニ町村會ニ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前四項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ
選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

確定名簿ハ第三條ノ處分アリタル場合ニ於テ府縣知事ノ指定スルモノヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ之ヲ修正スヘシ
選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ町村長ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ
選舉分會ヲ設クルトキハ町村長ハ確定名簿ニ依リ分會ノ區劃毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレタル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接町村稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ但シ直接町村稅又ハ直接國稅ヲ以テ等級ノ標準ト爲ササル町村ニ於テハ選舉長ノ定ムル所ニ依ル

確定名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス
第二項乃至第五項ノ場合ニ於テ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製縦覽修正確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ郡長ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用井縱覽、修正確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス
第十九條 町村長ハ選舉期日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉會場投票ノ日時及等級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併シテ其ノ等級及區劃ヲ告示スヘシ

選舉分會ノ選舉ハ本會同日時ニ之ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ同日時ニ選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル選舉會場又ハ選舉分會ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ天災事變等ニ依リ選舉ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ選舉ヲ終ラサル等級ノミニ關シ更ニ選舉會場及投票ノ日時ヲ告示シ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
選舉分會ハ町村長ノ指名シタル吏員選舉分會長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス
町村長ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

第二十一條 選舉人ニ非サル者ハ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者、選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス
選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ス者アルトキハ選舉長又ハ分會長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉長又ハ分會長會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス
第二十二條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル
選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票ヲ爲スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ但シ確定名簿ニ登錄セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ分會長少クトモ一人ノ選舉立會人ト共ニ投票函ノ儘之ヲ本會ニ送致スヘシ

第二十三條 增員選舉及補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十四條 第十二條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ年齢二十五年以上ノ男子ニ非サル者ハ帝國臣民ニシテ年齢二十五年以上ノ男子ニ限ル

第七條第一項但書ニ當ル者ハ第八條第二項ノ規定ニ依リ公民權停止中ノ者及第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會長ニ示スヘシ

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス
一 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ舊位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

連名投票ノ法ヲ用非タル場合ニ於テハ前項第一號及第六號ニ該當スルモノ並其ノ記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ前項第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人ノ決定ス可ク同數ナルトキハ選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人ノ決定ス可ク同數ナルトキハ分會長之ヲ決スヘシ

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキハ年長者ヲ取リ年齡同シキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 選舉長又ハ分會長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ

記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之ヲ署名スヘシ

選舉分會長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票ノ選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第二十九條 當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受タル日ヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ兩級ニ於テ當選シタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ當選ニ應スヘキカヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ町村長抽籤シテ之ヲ定ム

第十五條第二項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ町村長ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス第三項ノ場合ニ於テ何レノ當選ニ應スヘキカヲ申立テサルトキハ總テ之ヲ辭シタルモノト看做ス

第三十條 町村會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第二十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキハ同條第三項若ハ第五項ノ申立アリタルトキ又ハ同條第三項ノ規定ニ依リ抽籤ヲ爲シタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ノ住所氏名ヲ告示併シテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十二條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

第三十三條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條第二項ノ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

郡長ハ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ府縣知事ノ指揮ヲ受ケ選舉ニ關シテハ第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ同條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ同一事件ニ付爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無効トス

第三項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第二項若ハ第六項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ決定及第二項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二項第五項又ハ前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル處分、決定若ハ我決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十四條 當選無効ト確定シタルトキハ町村長ハ直ニ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

第三十五條 町村會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無ハ町村會之ヲ決定ス但シ禁治產者、準禁治產者、六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、町村公民權ヲ停止セラレタル者又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ル者ニ付テハ町村長之ヲ決定スヘシ

町村長ハ町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ

第一項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ決定及前項ノ裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條 第八項ノ規定ハ第一項及前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 第十八條及第三十三條ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ決定及裁決ハ府縣知事、郡長ノ處分ハ郡長、町村會ノ決定ハ町村長直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ町村ヲシテ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充テシムルコトヲ得

町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

第四十一條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル選舉ヲ行フヘシ

第四十二條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決、執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十三條 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

第四十四條 町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會成立セス、招集ニ應セス若ハ意見ヲ提出セス又ハ町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タズシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 町村會ハ町村長ヲ以テ議長トシ町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ八年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條 町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得三日前途ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十八條 町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第五十條ノ除斥ノ爲半數ニ滿タサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ關キ議長ニ於テ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子孫、兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ニ依リ町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一人毎ニ無記名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス過半數ヲ得

第七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二人ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二人ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス同數ナルトキハ年長者ヲ取り年同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ決定ス

第一項ノ選舉ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依ル

第五十二條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁止シタルトキ

二 議員二人以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議員ノ發議ハ討論ヲ須井ス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十三條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十四條 議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス

議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十五條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第五十六條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要アル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十八條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ

會議録ハ議長及議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ三日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十條 町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ增加スルコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ハ名譽職トス

町村ハ町村條例ヲ以テ町村長又ハ助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六十二條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

第六十三條 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラス在職ノ間其ノ町村民トス

第六十四條 町村長ヲ選舉シ又ハ助役ヲ定メタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

町村長及助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ受ケタル者ニ付テハ第八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第六十五條 町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲ケタル職ト兼ヌルコトヲ得ス又其ノ町村ニ對シ常ニ工事ノ請負、物件勞力其ノ他ノ供給契約ヲ爲シ若ハ其ノ町村ノ爲金錢出納ノ取扱ヲ爲シ又ハ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員タルコトヲ得ス

町村長ト父子兄弟タル緣故アル者ハ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス第十五條第五項ノ規定ハ此ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十六條 有給町村長及有給助役ハ郡長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

有給町村長及有給助役ハ會社ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第六十七條 町村ニ收入役一人ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役一人ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四年トス

收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ郡長ノ認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十三條第四項ノ規定ハ收入役ニ第六十五條第一項及前條ノ規定ハ收入役及副收入役ニ之ヲ準用ス

町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ收入役又ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

收入役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ副收入役ノ職ニ在ルコトヲ得ス

特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十八條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第六十九條 町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會ニ於テ町村民中選舉權ヲ有ス

町村長及助役ハ名譽職トス

第六十條 町村ニ町村長及助役一人ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ增加スルコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ハ名譽職トス

ル者ヨリ之ヲ選舉ス但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

第七十條 名譽職町村長及名譽職助役其ノ他町村公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ町村公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレタルトキ又ハ第九條第三項ノ場合ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲町村民タル者ニシテ禁治産者ハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ第九條

第二項若ハ第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ
前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停止期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

第七十一條 前數條ニ定ムル者ノ外町村ニ必要ノ有給吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス
前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 職務權限

第七十二條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス
一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者ヲ置キタルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料、手数料、加入金、町村税又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十三條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ之ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第七十四條 町村會ノ議決又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシムヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ第一項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル郡長ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其ノ裁決、第二項ノ裁決又ハ前項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ町村會其ノ議決ヲ改メサルトキハ町村長ハ郡長ノ處分ヲ請フヘシ
前項ノ處分ニ不服アル町村長又ハ町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項府縣參事會ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得
第二項及第四項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第七十五條 町村會成立セサルトキ又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ町村會ノ議決スヘキ事件ヲ處置スルコトヲ得

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル町村長ノ處置ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前三項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十六條 町村會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セサルトキ又ハ町村長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナレト認ムルトキハ町村長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

前項ノ規定ニ依リ町村長ノ爲シタル處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十七條 町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル

前項ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第七十九條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數人アルトキハ豫メ町村長ノ定メタル順序ニ依リ之ヲ代理ス

第八十條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務及第七十七條ノ事務ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助シ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他ノ會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八十一條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他委託ヲ受ケタル町村ノ事務ヲ調査シ又ハ之ヲ處辨ス

第八十三條 第七十一條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス

第四章 給料及給與
第八十四條 名譽職町村長名譽職助役、町村會議員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長、名譽職助役、區長、區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十五條 有給町村長、有給助役其ノ他ノ有給吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第八十六條 有給吏員ニハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第八十七條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ議決ニ付スヘシ關係者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第三項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條 費用辨償、報酬、給料、旅費、退隱料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料其ノ他ノ給與ハ町村ノ負擔トス

第五章 町村ノ財務
第一款 財産營造物及町村稅

第八十九條 收益ノ爲ニスル町村ノ財産ハ基本財産トシ之ヲ維持スヘシ町村ノ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第九十條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ舊慣ニ依ル舊慣ヲ變更又ハ廢止セムトスルトキハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

前項ノ財産又ハ營造物ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十一條 町村ハ前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設ケルコトヲ得

第九十二條 町村ハ第九十條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料及加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十三條 町村ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十四條 財産ノ賣却貸與、工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ、入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十五條 町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料、過料、過怠金其ノ他法令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第九十七條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

直接國稅又ハ直接府縣稅ノ附加稅ハ均一ノ稅率ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但シ第四百七十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十八條 三月以上町村內ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第九十九條 町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト雖町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ、町村內ニ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ設ケタル營業者ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

町村ノ内外ニ於テ營業所ヲ設ケテ營業ヲ爲ス者ニシテ其ノ營業又ハ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサルモノニ對シ附加稅ヲ賦課スル場合及住所滞在町村ノ内外ニ涉ル者ノ收入ニシテ土地家屋物件又ハ營業所ヲ設ケタル營業ヨリ生スル收入ニ非サルモノニ對シ町村稅ヲ賦課スル場合ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百一條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

神社寺院佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及國ノ事業又ハ行爲及國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得

前四項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二百二條 數人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他ノ必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ一部ノ收入アルトキ亦同シ

數人又ハ町村ノ一部ヲ利スル財產ニ付テハ前三項ノ例ニ依ル

第三百三條 町村稅及其ノ賦課徵收ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ規定アルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第四百四條 數人又ハ町村ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ町村ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シテ賦課ヲ爲スコトヲ得

第五百五條 夫役又ハ現品ハ直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

但シ第四百四十七條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

學藝美術及手工ニ關スル勞務ニ付テハ夫役ヲ賦課スルコトヲ得

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役又ハ現品ハ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ之ヲ適用セス

第六百六條 非常災害ノ爲ニ必要アルトキハ町村ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ物品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險防止ノ爲ニ必要アルトキハ町村長警察官吏又ハ監督官廳ハ町村内ノ居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スヘシ

第七百七條 町村稅ノ賦課ニ關シテハ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ隨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該吏員ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スヘシ

第八百八條 町村長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越セル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ハ特別ノ事情アル者ニ限リ町村稅ヲ減免スルコトヲ得

第九百九條 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

過料ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴決ヲ提起スルコトヲ得

第十條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第五項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ使用料手数料及加入金ノ徵收並夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依ル決定及裁決ニ付テハ町村長ヨリモ訴願又ハ訴決ヲ提起スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴決ヲ提起スルコトヲ得

第一百一條 町村稅、使用料、手数料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金額ヲ納メタルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

追ノ場合ニ賦課シタル夫役ニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第一項乃至第三項ノ徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時効ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

前三項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ付テハ府縣知事又ハ町村長ヨリモ訴決ヲ提起スルコトヲ得

第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第九百十二條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲メ又ハ天災事變等ノ爲ニ必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲メ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第九百十三條 町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提
出スヘシ

第百十四條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲ス
コトヲ得

第百十五條 町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支
出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年々各年度ノ支出額ヲ定メ繼
續費ト爲スコトヲ得

第百十六條 町村ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ
設クヘシ

豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得
第百十七條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告
示スヘシ

第百十八條 町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得
第百十九條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ
收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得
ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク且豫備費支出ノ費用流用其ノ他財務ニ
關スル規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

前二項ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス
第百二十條 町村ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル
第百二十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ之ヲ検査シ且毎會計年度少
クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シタル議員二人以
上ノ立會ヲ要ス

第百二十二條 町村ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス
決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提
出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄
ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十七條第八項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌
シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ
決算ハ其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ト共ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要
領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ議長ノ職務ヲ行フコ
トヲ得ス

第百二十三條 豫算調製ノ式、費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ
内務大臣之ヲ定ム

第百二十四條 町村ノ一部ノ事務
町村ノ一部ニシテ財産ヲ有シ又ハ營造物ヲ設ケタルモノア
ルトキハ其ノ財産又ハ營造物ノ管理及處分ニ付テハ本法中町村ノ財産又
ハ營造物ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ
限ニ在ラス
前項ノ財産又ハ營造物ニ關シ特ニ要スル費用ハ其ノ財産又ハ營造物ノ屬
スル町村ノ一部ノ負擔トス

前二項ノ場合ニ於テハ町村ノ一部ハ其ノ會計ヲ分別スヘシ
第百二十五條 前條ノ財産又ハ營造物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ郡長
ハ町村會ノ意見ヲ徵シテ町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ町村
會ノ議決スヘキ事項ヲ議決セシムルコトヲ得

第百二十六條 區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數任期選舉權及被選
舉權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ
關スル事項ニ付亦同シ

區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名
簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定
ハ町村長ノ爲スヘキ場合ヲ除ク外町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス
第百二十七條 第百二十四條ノ場合ニ於テ町村ノ一部郡長ノ處分ニ不服ア
ルトキハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第百二十八條 第百二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定ス
ルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 町村組合
第百二十九條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府
縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各
町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其
ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得
テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ組合内各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵シ府
縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ前二項ノ町村組合ヲ設クルコ
トヲ得

町村組合ハ法八トス
第百三十條 前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ又
ハ共同事務ノ變更ヲ爲サルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事
ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキハ
組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ増加セムトスルトキハ其ノ町村
組合ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘ
シ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意
見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ增
減シ又ハ一部事務ノ爲設クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第百三十一條 町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ
定ム府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ヲ變更セムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ
關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ組合會ノ議
決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意
見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又
ハ變更スルコトヲ得

第三百二十二條 組合規約ニハ組合ノ名稱、組合ヲ組織スル町村組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘシ
一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外組合會ノ組織及組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

第三百二十三條 町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ解クコトヲ得

第三百二十四條 第三百三十條第一項第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議、關係町村組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
第三百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財産ノ處分ニ關スル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ノ之ヲ定ム

第三百三十五條 第三百二十九條第一項及第二項第三百三十條第一項及第二項第三百三十一條第一項及第二項第三百三十三條第一項並前條第一項ノ規定ニ依リ府縣知事ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村組合ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨリモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第三百三十六條 町村組合ニ關シテハ法律勅令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外町村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章 町村ノ監督
第三百三十七條 町村ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス
第三百三十八條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外町村ノ監督ニ關スル郡長ノ處分ニ不服アル町村ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三百三十九條 本法中行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第四百十條 異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此限ニ在ラス
行政訴訟ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依リ
異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ
異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得
第四百十一條 監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトヲ得
監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
第四百十二條 内務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ
第四百十三條 町村ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得
町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス
前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第四百十四條 町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ
臨時代理者ハ有給ノ町村吏員トシ其ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第四百十五條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事
二 學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變更ヲ加フル事
第四百十六條 左ニ掲グル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ
一 町村債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第三百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
三 間接稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
四 使用料手數料及加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
第四百十七條 左ニ掲グル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ
一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事
二 特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事
三 第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事
四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事
六 均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

七百二十五條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八百四十四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事

九 第五百五條ノ準率ニ依ラズシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第四百四十八條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セズト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第四百四十九條 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

第五百十條 府縣知事又ハ郡長ハ町村長、助役、收入役、副收入役、區長、區長代理者、委員其ノ他ノ町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長、助役、收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三人及府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補闕及任期並懲戒審査會ノ召集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ郡長ノ處分ニ付テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキ又ハ府縣知事ノ處分ニ付テハ府縣知事ハ町村長、助役、收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラレルコトヲ得ス

第五百一十一條 町村吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九章 雜則

第五百一十二條 郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數郡ニ涉ルモノアルトキハ府縣知事ハ關係郡長ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ其ノ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ

第五百一十三條 府縣知事又ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ府縣參事會ヲ指定スヘシ

第五百一十四條 第十一條ノ人口ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五百一十五條 本法ニ於ケル直接稅及間接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第五百一十六條 町村又ハ町村組合ノ廢置分合又ハ境界變更アリタル場合ニ於テ町村ノ事務ニ付必要ナル事項ハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百一十七條 本法ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス

前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコトヲ得

附則

第五百一十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五百一十九條 本法施行ノ際現ニ町村會議員、區會議員又ハ全部事務ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第六十條 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス

第六十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(內務大臣法學博士男爵平田東助君登壇)

○內務大臣 法學博士男爵平田東助君) 本案提出ノ理由ニ付テ一言致シマス市制及町村制ハ曩ニ施行シヨシマシタ以來、既ニ二十有餘年ヲ經過致シマシタ、其間ノ實驗ニ徴シ、同業ノ間ニ於テ往々改正ヲ必要ト致スコトガ尠カラヌノデゴザイマス、第一ニハ市ノ行政及議決機關ニ於テ相當ノ改正ヲ加ヘントスルノ必要アリ、又市町村制ヲ通シテ議決機關ノ任期ニ關スルノ外、又上級官廳トノ間ニ於テ聯絡ヲ完全ニシ、又條項ノ不備ナルモノヲ改正致シマシテ、實際ニ適應セシムルノ必要アリ、其他法文ニ於テ往々疑義ヲ生ズルノ嫌ヒアルモノモ亦尠カラヌノデゴザイマスニ依ッテ、是等ノ諸點ニ向テ改正ヲ致スルノ必要ガアルノデ、茲ニ本案ヲ提出シテ致シマシタ、次第デゴザイマス、自治團體ト致シテ國家組織ノ重要ナル機關タルコトハ申スマデモナク、又國ノ行政ノ區畫ト致シマシテ、國勢上トシテ最モ緊要ナル關係ヲ有シテ居ルトコロノ此自治機關ノ上ニ於マシテハ、此際ニ於テ適當ナル改正ヲ加ヘ、益、是等ノ發展ヲ促シタイト云フ考ヲ以テマシテ、今回茲ニ提出致シマシタ次第デゴザイマス、御審議ノ上協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○石橋爲之助君) チョット説明ヲ求メタイ點ガ二點アリマス、簡單ニ此處カラ伺ヒタイ、第一ハ市參事會ヲ從來執行機關デアッタモノガ、轉ジテ諮問機關ニナルデアリマスガ、是ハ自治制ノ本義カラ申シマシテ進歩ナリヤ退歩ナリヤト云フコトノ、説明ヲ聽キタイノデアリマス、進歩デアルト云フハ、ナラバ其進歩デアルト云フモノノ理由ヲ伺ヒタイ(無用キヤ)ト呼ブ者アリ)ソレカラ第二ノ點ハ新ニ市ノ參事會ト云フモノヲ設ケタルノデアリマスガ、近頃ノ趨勢ヲ見マシテ市長ノ選舉ニ對シテモ隨分官邊ノ干渉ガアルノデアリマス、殊ニ此新法案ニ依リマシテ市長ノ權力ガ非常ニ伸ビルデアリマス、其上ニ又參與ト云フモノガ出來テ、其參與ニハ或ハ官邊ニ緣故アルモノ、或ハ官吏ノ古手ガ侵入スルトコロノ途ガ開カレタ如クニ考ヘラレル、是等ハ果シテ此ノ如ク官僚主義ノ擴張ヲ意味スルトコロノモノデアリヤ否ヤ、第二ハ單記法ヲ採用スルニ拘ラス、尙三級制度ヲ保存シテ置ク理由ガ聽キタイノデアリマス、之ガタメニ單記法ヲ採用シテ、而シテ尙一方ニ二級制度ヲ執ルト云フコトノタメニ、即チ此處ニ但書ガ挿マッテ來ルノデアリマス、即チ一級ニ

於テ若シ議員ノ數ニ選舉人ガ足ラナイトキニハ、其數マテ最高級カラ取ツテ行クコトガ出來ルト云フ取除ケガ一ツ出來テ居ルデアリマス、其上ニ又第二ノ取除ケトシテハ、其一級若クハ二級ニ於テ選ムベキ議員ノ數ノ三倍ニ足ラナイトキニハ、連記法ヲ用ルルコト云フト即チ單記ノ取除ケカ此處ニ出來テ居ルデアリマス、而シテ尙其上ニ斯クシテモ尙又選ベキトコロノ議員ヲ選出スコトガ出來ナカッタ場合ヲ豫想シテ、サウ云フ場合ニハ更ニ又足ラヌガケノモノヲ、モウ一度選ブベキノ取除ケガ又アルデアリマス、此ノ如ク紛雜ニ紛雜ヲ重ネテ、三級制度ヲ廢セザルガタメニ、非常ニ面倒ナ手數ガ幾度モアルト云フノテ、解釋ニ苦ミマスガ、何故ニ三級制度ヲ廢スル便法ヲ執ラナカッタカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス

(政府委員法學博士一木喜徳郎君登壇)

○政府委員(法學博士一木喜徳郎君) 石橋君ノ御質疑ニ御答ヲ申上ケマスガ、第一點ノ市參事會ヲ議決機關ニシテハ、進歩デアアルカ退歩デアアルカト云フノ御尋デアリマスガ、進歩デアアルヤ退歩デアアルヤト云フコトハ、茲ニ論ズル必要ハナカラウト思ヒマスガ、政府ニ於キマシテハ此改正ハ確ニ今日ノ實際ニ適當ナル改正デアルト認メテ居リマス、ソレカラ次ニ市參事會ヲ設ケマシテ趣意ハ、今日大ナル都市ニ於キマシテハ、隨分特殊ノ事業ガアル、其特殊ノ事業ヲ擔任セシムルガタメニ從來ノ如ク單ニ書記又ハ附屬員ト云フヤウナ待遇ヲ以テシテハ、適當ナル人ヲ得難イ場合ガ多クデアルト考ヘルノデアリマス、是等ノ實際ノ必要ニ應ジマスガ、市參事會ノ制度ヲ設ケテ次デアアル者ハ、又市長ノ選任ニ付キマシテ云々ト云フコトモゴザイマシタガ、是ハ固ヨリ市自治ニ屬スルコトモゴザイマシタガ、政府ニ於テ取テ干渉スルコトモゴザイマシタガ、市參事會ノ選任ニ付キマシテモ亦同様にゴザイマス、ソレカラ三級制度ヲ廢シテ廢シナカッタカト云フ御尋デアリマスガ、此三級選舉ノ制度ト單記ノ制度トハ決シテ相悖ラヌモノデアルト考ヘル、三級制度ヲ設ケテアリマシテモ同級級内ニ於テ尙單記ノ制ヲ用ユルノ必要アリト認メルノデアリマス、又單記ノ制度ヲ用ユルモノモ選舉權ノ範圍ノ廣イ場合ニ於キマシテハ、階級ノ制度ヲ以テ此權利義務トノ間ノ均衡ヲ圖ルノ必要ガアルト信ジテ居ルデアリマス、尙詳細ノコトハ委員會ニ於テ御答ヲ致シマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○菅原傳君 兩案ヲ一括シテ議長指名二十七名ノ特別委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第一、第三ノ兩案ヲ一括シテ、議長指名ノ特別委員二十七名ニ付託スルコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ其通り決シマス、日程第五、第七、第九及第十一ハ關聯セル議案ナルニ依リ、一括シテ議題ニ供スルコトニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシト呼フ者アリ」)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ第五、第七、第九、第十一ノ四案ヲ一括シテ議題ト致シマス、議案ノ朗讀ハ省略致シマス——岡田文部次官

第五 在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改

正法律案(政府提出)

第一讀會

第七 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第二讀會

第十一 帝國學士院學術獎勵金特別會計法案(政府提出) 第一讀會

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

第六條中「公立幼稚園」ヲ「師範學校附屬幼稚園又ハ公立幼稚園」ニ改ム

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

第二條中「廢校」ヲ「廢職廢校」ニ改ム

府縣立師範學校長俸給並公立學校職員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

第二條、第十條、第十二條、第十四條及第十六條中「正教員」ノ下ニ「小學校ノ本科正教員タルヘキ資格ヲ有スル保母」ヲ加フ

帝國學士院學術獎勵金特別會計法案

帝國學士院學術獎勵金特別會計法

第一條 學術研究獎勵ノ爲メ帝國學士院學術獎勵金特別會計ヲ設置ス

第二條 本會計ハ帝室下賜金寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ其ノ歲入トシ學術研究獎勵ノ爲メ必要スル支出ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ハ學術研究獎勵ノ爲メ有價證券ノ寄附ヲ受ケ之ヲ保有スルコトヲ得

第四條 本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ之ヲ預金部ニ寄託スルコトヲ得

第五條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 學術研究獎勵ノ爲メ支出スル金額ハ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得

第七條 委任經理ニ係ル會計ノ檢查ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依リ

第八條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十四年度ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員岡田眞平君登壇)

○政府委員(岡田眞平君) 唯今議題ニナリテ居リマスル四案ハ、何レモ簡單ナル法案デアリマス、從來師範學校ニハ官制ヲ以テ幼稚園保母ト云フモノヲ置イテ居リマセヌ

ノデアリマスガ、昨年ヨリ官制ニ依リマシテ幼稚園保母ト云フモノヲ置カレコトニナリマシタカラ、其結果ト致シマシテ恩給法ノ上ニモ改正ヲ施シマシテ、此幼稚園保母ニ

モ恩給ヲ及ボスヤウニスルト云フノガ、唯今日程第九ニ載テ居リマスルコトノ法案ノ

精神トゴザイマス、其結果ト致シマシテ在外指定學校ニ在職シテ居ル者ノ在職年數ヲ

通算スルニ於キマシテ是マデハ内地ノ師範學校附屬幼稚園ノ保母ト通算スルニテ居リ

マセヌデアリマシタガ、是ヲモ通算ニ加ヘルト云フノガ日程第五ニ載テ居リマスルコ

トノ法案ノ趣旨トゴザイマス、ソレカラ日程第七ニ載テ居リマスルハ從來此恩給ヲ支

給致シマスルノ廢校ノタメニ退職致シマシタ者ハ在職十五年以上デアリマスレバ、恩給

ヲ支給スルノデアリマシタガ、併ナガラ廢職ノ場合ハ之ニ含マシテ居ラヌデアリマス、從

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

來慶校ノ外ニ廢職ト云フコトハナカッタデアリマスガ、近來外國政府ノ聘用ニ應ジマシテ在職ノ儘赴任致シマスル者ニ付キマシテハ、此廢職ト云フ場合ガ生ズルコトニナリマシタニ付テ、從テ此法律ノ改正ヲ要スルト云フコトニナリマシタノデアリマス、日程第十ニ載テ居リマスルコトノ帝國學士院學術獎勵金特別會計法案、之ハ前ノ三案トハ直接ノ關係ハ持ッテ居リマセヌノデアリマス、之ハ昨年帝國學士院ニ學術研究獎勵ノタメニ帝室ヨリ御下賜金ガアリマシタ、之ハ十箇年間續ケテ御下賜ニナルト云フコトニナッテ居リマス、之ヲ基礎ト致シマシテ他ノ有志者等ノ寄附金ヲ以テマシテ、學術獎勵ノタメニ資金ヲ設ケテ之ヲ特別會計ヲ以テ經營致シテ行クト云フタメニ、此法律ノ必要ヲ生ジマシテ理由デゴザイマス、右單ナ案デゴザイマスルカラ御審議ノ上御協贊ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 右四案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第六 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉
 第八 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉
 第十 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉
 第十二 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○菅原傳君 唯今說明ニナリマシタ四案ヲ一括シテ議長指名十八名ノ特別委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

(贊成々々ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 四案ヲ一括シテ議長指名特別委員十八名ニ付託スルト云フコトニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ其通り決シマス、日程第十三、樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス 平岡政府委員

第十三 樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案 第一讀會

樺太ニ於ケル漁業免許ノ取消及漁業料ノ徵收ニ關スル法律案

樺太ニ於ケル漁業ノ免許ヲ受ケタル者漁業料ノ納付ヲ怠リタルトキハ樺太廳長官ハ免許ヲ取消スコトヲ得

樺太ニ於ケル漁業料ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法及明治四十年法律第三十四號ヲ準用ス但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員平岡定太郎君登壇)

○政府委員(平岡定太郎君) 本案ニ付テテヨット大體ヲ說明致シテ置キマス、樺太ニ於ケル漁業ノ目下漁業料未納致シマスルコト云フト取消ノ處分ヲ致シテ居リマス、然ルニ此法案ヲ提出致シマシタル理由ハ本年ノ四月ヨリ樺太ニ目下全部施行シテゴザイマセヌトコロノ漁業令全部ヲ施行シタト云フコトノ準備デゴザイマス、所ガ漁業令全部ヲ施行致シマスルコト云フト取消ガ出來マセヌノデアリマス、一旦條件ニ背イタトコロガ許シマシタトコロノ免許ハ其儘繼續シニヤナラヌト云フコトニナッテ居リマスカラ、目下ノ現況ヲ持續スルタメニ取消ノ條項ヲ置キタイ、斯ウ云フ理由デ出テ居リマス、其後段ノ徵收料ノコトニ付キマシテハ、内地ト相互ニ共通シテ徵收ノ方法ヲ助ケ合フ、是ダケノ趣旨デ出テ居ルノデアリマス、ドウカ然ルベク……

○議長(長谷場純孝君) 第十四、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十四 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

菅原傳君 本案ノ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 菅原君ノ勸議、即チ議長指名九名ノ特別委員ニ付託スルトニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマス、日程第十五、間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キ、議案ノ朗讀ハ省略致シマス 石井外務次官

第十五 間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案 第一讀會

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案

第一條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ豫審ヲ爲シタル死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ノ公判ハ朝鮮總督府地方裁判所之ヲ管轄ス

第二條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ外務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命ジ且被告入ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ被告人ヲ移送セラレル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府控訴院ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ被告人ヲ移送セラレル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府地方裁判所ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第四條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ間島ニ駐在スル帝國領事官ノ爲レタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ朝鮮總督府控訴院之ヲ管轄ス

第五條 對スル控訴又ハ抗告ハ朝鮮總督府地方裁判所之ヲ管轄ス

ハ朝鮮總督府之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 本案ハ昨午朝鮮總督府ノ設置サレマシタ結果ト致シマシテ、從來間島ニ於テ豫審ヲナシタル或ル事件ノ管轄ヲ是マテ統監府裁判所ニ於テナサレタモノヲ總督府裁判所ニ於テスル、事實ニ於テハ何等ノ變更ハアリマセヌガ、其名稱ニ於テ「統監府裁判所」トアルノヲ「總督府裁判所」ト改メマシタ、其他「韓國」トアリマシタノヲ「朝鮮」ト改メ「統監」トアリマシタノヲ「朝鮮總督」ト改メルト云フ法律案デゴザイマシテ、内容ニ至リマスルト何等ノ變更ハゴザイマセヌ、至テ簡單ノ法律案デアリマスカラ、成ベク速カニ御協贊ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第十六、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案

第一條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ豫審ヲ爲シタル死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ノ公判ハ朝鮮總督府地方裁判所之ヲ管轄ス

第二條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ外務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命ジ且被告入ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ被告人ヲ移送セラレル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府控訴院ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ被告人ヲ移送セラレル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府地方裁判所ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第四條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ間島ニ駐在スル帝國領事官ノ爲レタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ朝鮮總督府控訴院之ヲ管轄ス

第五條 對スル控訴又ハ抗告ハ朝鮮總督府地方裁判所之ヲ管轄ス

ハ朝鮮總督府之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

(政府委員石井菊次郎君登壇)

○政府委員(石井菊次郎君) 本案ハ昨午朝鮮總督府ノ設置サレマシタ結果ト致シマシテ、從來間島ニ於テ豫審ヲナシタル或ル事件ノ管轄ヲ是マテ統監府裁判所ニ於テナサレタモノヲ總督府裁判所ニ於テスル、事實ニ於テハ何等ノ變更ハアリマセヌガ、其名稱ニ於テ「統監府裁判所」トアルノヲ「總督府裁判所」ト改メマシタ、其他「韓國」トアリマシタノヲ「朝鮮」ト改メ「統監」トアリマシタノヲ「朝鮮總督」ト改メルト云フ法律案デゴザイマシテ、内容ニ至リマスルト何等ノ變更ハゴザイマセヌ、至テ簡單ノ法律案デアリマスカラ、成ベク速カニ御協贊ヲ願ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 日程第十六、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル法律案

第一條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ豫審ヲ爲シタル死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ノ公判ハ朝鮮總督府地方裁判所之ヲ管轄ス

第二條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ外務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命ジ且被告入ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ被告人ヲ移送セラレル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府控訴院ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ被告人ヲ移送セラレル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府地方裁判所ノ檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第四條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ間島ニ駐在スル帝國領事官ノ爲レタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ朝鮮總督府控訴院之ヲ管轄ス

第五條 對スル控訴又ハ抗告ハ朝鮮總督府地方裁判所之ヲ管轄ス

ハ朝鮮總督府之ヲ定ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

(政府委員石井菊次郎君登壇)

第十六 右議院審査付託スヘキ委員ノ選舉
○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 本案ヲ議長指名ノ特別委員九名ニ付託スルコトニ御異議
ゴザイマセヌカ

(異議ナシ呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ其通り決シマス、日程第十七乃至第十九
ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ、合セテ委員長ヨリ報告致サセマス、委員
長板倉中君——日程第十七ハ朝鮮事業公債法案、第十八ハ朝鮮事業公債金特
別會計法案、第十九ハ朝鮮鐵道用品資金會計法案
○菅原傳君 委員長が見エナイヤウデアリマスガ、報告ノ都合モアラウト思ヒマスカ
是ハ後ト回シナサレテ、他ノ日程ニ移ラレコトヲ希望致シマス
○議長(長谷場純孝君) 日程第十七乃至十九ハ後ト回シニスルト云フコトニ御異
議ハアリマセヌカ

(異議ナシ呼フ者アリ)
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ後ト回シト云フコトニ致シマス——日程
第二十、輕便鐵道補助法案第一讀會ノ續、特別委員長大岡育造君

第二十 輕便鐵道補助法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

(大岡育造君登壇)
○大岡育造君 輕便鐵道補助法案ノ委員會ニ於ケル經過及結果ヲ御報告致シマス、
本員ハ從來委員長ノ報告ヲ成ベク簡單ニ終ル例ヲ持テ居リマスガ、本件ハ各議員諸
君ガ地方ニ御報告ノ御參考ニモナラウト思ヒマスカラ、少シ精シク報告致シテ置キタイト
思ヒマス、此輕便鐵道補助法案ハ政府ノ說明スルところニ依リマシテ了解スルところ
過ノ便法ヲ設ケタルノ即チ本鐵道ヲ架ケル間ノ經過ノ便法ヲ設ケルノ一ツ、ソレ
カラ是ニ補助ヲ與ヘル所以ノモノハ、國有鐵道ノ營養ノメニ各地方カラ貨物旅客等
ヲ運ブコトノ補助ヲ得ルニ依リテ、是ニ對スル報酬ノ意味ニ於テ補助金ヲ出シ得ル、斯
ク云フヤウナ說明ヲ致シテ居リマス、故ニ輕便鐵道ニ補助ヲ與ヘルノハ成ルベク本線ニ接
續ノモノヲ先キニシヤウ、一年ノ額ヲ二十五萬圓ト定メテ居リマス、ソレヲ數ヘテ五年目
ニ至レバ百二十五萬圓トナル、其所ニ至レバ金高ノ上ルコトヲ止メテシマヒマスガ、此金
高ノ範圍内ニ於テ政府ガ補助ヲ許可スル場合ニハ先ヅ國有鐵道ノ營養ニナリ、便利ニ
ナル部分カラ先キニシテ、尙餘裕ガアレバ其他ニモ及ボスト云フ方針ヲ採リ居ルノデア
リマス、ソレカラ輕便鐵道ナルモノハ昨年ノ議會ニ於テ協賛セラレタル法案ニ從テ願出
レハ何レモ許可ヲ得ル譯デアリマス、ソレニ依リテ許可ヲ得マシタモノガ既ニ二十二、三カ
アリマス、通常ノ法律ガ出來タル後ニ於テ許可ヲ得タルモノヲ支配スルノガ當然ノ順ノ
ヤウデアリマスガ、此輕便鐵道ニ於テハ從前許可ヲ得タル輕便鐵道ニモ此法律ノ補
助ヲ與ルコトヲ及ボスヤ否ヤト云フコトガ一ツノ研究問題トナシテ居リマス、是モ政府
ハ及ボスト云フ言明ヲ致シテ居ルノデアリマス、即チ營業ヲ開始シタルヨリ五箇年
五五三相當スルマデノ補助ヲ爲スノデアリマスカラシテ今日以後ニ營業ヲ開始スルコト
ノ輕便鐵道ガ補助ヲ願ヘバ願ヒ得ル譯ニナル、モウ一ツ週知今日ヨリ五箇年以前ニ於
テモ營業ヲ開始シテ尙五箇年ニ滿タザルモノデアリマス、而シテ補助ヲ要求スルニ適當ナル資
格アル線路ヲ持テ行ケバ、政府ハ又之ヲ吟味セナケレバナラスト云フコトニナルノデア
リマス、ソレ今日マデ許シテ居ルところノ輕便鐵道ノ建設資本ガ大凡一千七百二十三
萬何千圓ト云フニ及ビシテ居ルノデアリマス、而シテ補助ヲ與ヘル金額ハ年二十五萬圓ト云
フノデアリマス、之ヲ政府ハドウ云フ風ニ分配スルカ、胸算、心算、如何ニアルカト尋
テ見シタガ、是ハ政府ニ於テハ輕便鐵道ヲ架ケテ補助ヲ願出ツル者ニハ、大凡資本ニ

對スル年二朱以上ノ利益アル線路ニアラザレバ、此詮議ノ中ニハ加ヘヌ、既ニ許可シタ
ルトコロノ二十三種ノ線ハ多クハ一割五分以上、少ナクモ五五八厘ト云フノガ一番低
イ利子デアリテ、五五三相當スルマデノ補助ヲ願出アルコトハ此文面ニ於テハ——願書
ノ文面ニ於テハ必要ト認メヌ程ノモノガケガ許サレテアルト云フノデアリマスガ、併ナガラ
實際ニ於テハ或ハ違算ヲ生ジ、豫算ヲ違ヘテ居ルモノモアリマセウカラ、開業シテ五五三
相當シナイ場合ニハ之ヲ出願スルコトガ出來ル、故ニ政府ノ見込ハ其場合ニ於テハ足
ラナイトコロヲ補助スルノデアリマスカラ、大凡五五三ト題シテモ二五五厘、先ヅ半分位
見込シテナラバ事實ニ於テ間違ハナカラウ、故ニ一萬圓ノ仕事ヲ年々進メテ行クニシ
テモ五五三ノ半ヲ補助スル、即チ二十五萬圓アレバ足レリト云フ見込ハ立ッテ居ルサウデア
リマス、而シテ此經濟上ノ關係カラ輕便鐵道ヲ許スルコト云フ今年出シタル政府ノ鐵道
網モ諸君ノ中御覽ニナツタ御方モアラウト思ヒマスガ、凡ソ輕便鐵道ヲ許スル線路ニ對シ
テハ之ヲ許スルコト云フハ、今年豫算會ニ提出シタルトコロノ鐵道網ニ確定サレタル線路ニ對シ
テハ之ヲ許スルコト云フハ、先ヅ此線ヲ確定シタルモノトシテ、併
ナガラ之ヲ動かカスベカラザルモノトハセズ、尙審查ヲ遂ゲ必要ヲ認メタルモノハ加ヘ、加ヘ
或ハ訂正、訂正シテ行テ事實ハ圓滿ニ運ベル譯ノヤウデアリマス、其次ハ補助ノ金額
ヲ定ムルニ、政府ノ答辯ニ委員會ニ於キマシテハ之ヲ豫算會ニ與ヘルノ便法モアリ、決算
ニ依ルノ法モアルト云フ二様ノ答辯ニ致シテ居リマスガ、結局最後ニ及ビテ補助ヲス
ル、其不足金額ヲ見出スノ方法ハ決算ニ依リテ云フコトノ確言ヲ取テ置キマシテゴザ
イマスカラ、是モ此法文ノ御解釋ノ御參考ニナラウト思ヒマス、ソコデ又補助ヲスル線路ガ
如何ニモ數多ク、不統一ニ流レル傾ガアル、即チ輕便鐵道法案ナルモノハ幅ニ於テ何
等ノ制限ヲ致シテ居リマセヌ、線路ノ幅ニ於テハ何等ノ制限ガアリマセヌカラ、現ニ出願
ヲ致シテ居ルモノガ、二尺モアレバ、三尺モアリ、二尺五寸モアレバ、四尺何寸モアルト云
フ譯デアリマス、政府ノ此財政ノ中ニ於テ補助スル鐵道ガ縱令輕便ノ名ハ付クニシテ
モ、二尺ト云フヤウナ誠ニ狹ニ、而シテ旅客ノ交通ニ甚ダ不安心ナモノヲ多ク造ラレル
コトハ、宜シキヲ得ザルモノト考ヘマシテ、即チ我々委員會ニ於キマシテハ此「ゲージ」ニ一
定ノ軌幅ヲ定メ、即チ第二條ト云フモノヲ一ツ置キマシテ「補助ヲ爲ス」ハ輕便鐵道ハ
二尺六寸以上ノ軌幅ヲ有スルモノニ限ル」トシテ、是ヨリ狹キトコロノモノハ輕便鐵道
ハ架ケタルコトヲ止メヌケレドモ、補助ヲ貫フコトハ出來ヌ、與ルコトハ出來ヌト云フ制限
ヲ付ケタルデアリマス、今一ツ此法律ハ五年ニ至ッテ即チ百二十五萬圓ノ金額ニ上
レバ、ソレヨリ以上ノ金ハ出サヌト云フコトニ明文ハ書イテゴザイマス、ケレドモソレハ年
ノ話デ、其五年目ニ續ケバ又五年、又五年ト、何時マデモ實際ナクヤルコトノ出來ルヤウ
ニナツテ居リマスガ、是ハ所謂過渡ノ法、經過ノ法、一時ノ便法ヲ設ケルモノデアリテ、結
局多クハ本鐵道ヲ架ケネバナラヌ、其間ノ仕事デアリマスカラ先ヅ茲ニ年限ヲ付ケテラバ
宜カラウト考ヘマシテ、委員會ニ於キマシテハ附則ニ「本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シ
タルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得ス」ト制限ヲ付ケタルデアリマス、之ニ依リテ十年ノ終
リニ新ニ開業シタルモノニ特許ヲ與ヘルコトモ出來マス、其場合ニハ其年カラモウ五年續
キマスカラ十年ノ後十四年ニ至ルマデノ補助ノ續クコトハ此法律ニ於テハハリ認メラレ
ル次第デアリマス、唯十年ノ以後ニ於テハ新ニ補助ノ許可ヲ與ヘルコトハナラヌト制限
致シタルデアリマス、大略斯様ナル意味ニ於テ修正ヲ加ヘマシタ、其箇條ハ法文トシテ
ハ、第二條ノ軌幅ヲ二尺六寸、即チ二尺五寸ニ當ル寸法以上ノモノニ補助ヲ與ヘルト
云フコトニシ、附則ニ於テ十年間ト定メマシタ、此一箇條デアリマスカラ、是ダケヲ御
報告申上ゲマス
○菅原傳君 本案ニ對シ大體反對ノ御意見無キニ於テハ直ニ二讀會ヲ開カレコト
ヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 別ニ反對贊成ノ通告モアリマセヌカラ本案ハ直ニ二讀會ヲ

開クト云フコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ直ニ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

輕便鐵道補助法案

○菅原傳君 更ニ御異議ガナケレバ三讀會ヲ開キ、委員長ノ報告通リ決定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 二讀會ニ御異議ガナイト認メマスカラ委員長ノ報告通リ決定致シマス、直ニ三讀會ヲ開クト云フコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ直ニ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

輕便鐵道補助法案

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ第二讀會ニ於テ決定ノ如ク、本案ハ是ニテ確定致シマス、日程第二十一、工場法案第一讀會ノ續、委員長大岡育造君

第二十一 工場法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

(大岡育造君登壇)

○大岡育造君 工場法案ノ委員會ニ於ケル經過及結果ヲ御報告申シマス、工場法案ハ昨年ノ議會ニ於テ一度提出セラレタル上、相當審議ヲ遂ゲマシタガ、尙政府ニ於テモ熟考スルタメニ撤回ヲシマシテ、本年再ヒ提出ニナッタデアリマス、勿論此間ニ於テ民間ノ意見等モ參酌シテ、大ニ昨年ノ案トハ趣ヲ異ニ致シテ、修正ノ結果モ見ルベキモノガアルデアリマス、ソレレバ此法案ニ付保護シテハ、大分異論モアルヤウデアリマシタケレドモ、結局スルトコト工場法案ハ職工ヲ保護スルノガ主目的デアルベキニ、工業主ヲ保護スル箇條モ甚ダ少カラズ故ニ、矛盾シテ居ルコト云フヤウ説モアッタデアリマスガ、此法律ハ諸外國ノ例ニ依リマシテ一々之ヲ言フノ必要ハアリマセヌカレドモ、英吉利初メテ工場法ニ類スル取締ヲ致シマシタノハ、凡ソ百年以前ノコトデアリマス、即チ外國ノ百年ヲ經過シテ法律ヲ直ニ全部擧ゲテ日本ニ行ハントスルデアリマスルカシテ、外國法律ノソレト一致シナイ點モ少カラズトハ、當リ前ノコトデアアル、而シテ工業ノ上ニ保護ヲ意味スルノハ、列國ノ生産競争ノ激甚ナル場合ニ於テ、日本ノ今日未ダ生産業ノ幼稚ナル事情ヲ酌ミマシテ生産ノ保護ト云フコトヲ意味シマスノデ、工場法ナルモノハ工業ヲ保護シ、職工ヲ保護スル意味ニ於テ總テ居ルコトヲ御了承願ヒタイデアリマス、併ナガラ一般ニ付テ申シマスレバ、餘程工業者ヲ保護シタル箇條モ多クデアリマス、即チ年齢モ制限シテアレバ、時間モ制限シテアル、又病氣其他ニ付テハ職工ニ對シテ工業主ガ之ヲ救護スルノ責任ヲ負ウテ居ルデアリマス、此ノ如ク定メテアリマスガ、格テ其工業ノ方ニ付テ保護シテアル意味ヲ舉ゲマスルト、大工業ニ付テ、即チ晝夜兼行ノ業ヲスルトコロコト大工場ニ付テハ、十五年間ノ後ニ此法ヲ實行スルコト云フコトニナリ居リマス、如何ニモ十五年間ノ長イヤウデアリマスレドモ、紡績業等ノ重大ナル業務ヲ今日俄ニ晝夜兼行致シテ居ルモノヲ止メテ、半バノ製造力ニ止メルト云フコトハ、前ニ申シマシタ生産競争上、甚ダ不利ナルコトデアリマス、從テ日本ノ購買ノ顧客ニ對シテモ、甚ダ不利ナルコトデアアル等ノ意味ヲ持テ居リマス、ソコデ私ハ直ニ是ヨリ修正ノ意味ヲ申シマスルガ、第一條ハ「本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ニ之ヲ適用ス、一、常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ、二、事業ノ性質危險ナルモノ、又ハ衛生上有害ノ虞アル

モ」此二箇ニ對シテ取締ヲスルコトニナッテ居リマスルガ「十八」トアル制限ヲ「二十人」ト委員會ハ修正ヲ致シタデアリマス、是ハ大ナル工場即チ百人或ハ五百人若クハ千人モ使フヤウナ大工場ハ此法律ノ實行セラル、ノガ、十五年後デアリマスルガ、家族的工事トモ認ムベキ十八位ノ仕事場ニ對シテ此歐羅巴流ノ工業法ヲ直ニ嚴格ニ行フト云フコトハ、如何ニモ窮屈デアッテ、而モ權衡ヲ保タヌト考ヘマスルノデ、凡ソ二十人位ノ程度ノ職工ヲ持テ居ル處カラ初メテ、尙併ナガラ人數ノ如何ニ拘ラズ、事業ノ性質ガ危險ナル、又ハ衛生上ノ設備ガ不十分ナル、衛生ヲ害スルコト認メタ場合ニハ、何時デモ此法律ヲ行フノ便ガ備ヘテアルデアリマスカラ、凡ソ二十八人ナラバ宜カラウト云フデ、修正ヲ致シタデアリマス、尙次ニ修正ヲ致シタノハ、第七條デアリマスル、「職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ晝夜十時ヨリ午前四時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトハ一週間ヲ超エサル期間毎ニ其就業時ヲ轉換スヘシ」ト云フ、此「一週間」ト云フコトハ「十日」ト修正ヲシタイデアリマス、是ハ實際晝夜ト晝トノ業務ヲ二組ニ分ケテ置クノニ當リ、一週間毎ニ晝夜ノ交替ヲセシムルコトヲ茲ニ規定シタデアリマスガ、倍テ七日ア、ニ實際各工場トモニヤッテ居ルサウデアリマスケレドモ、キチリ法律ヲ極メマス、七日ノ終リニ當リテ其翌日位ガ丁度祭ニナルトカ、益ニナルトカ云フヤウナトキニ少シク活用スルコトノ出來ルヤウニスルタメニ、之ヲ「十日」ヲ超エサル期間毎ニ其就業時ヲ轉換スヘシ」ト云フコトニ改メタデアリマス、ソレカラ第八條ニ於キマシテ又一ツ大ナル修正ヲ加ヘタデアリマス、ソレハ晝夜兼業ヲナクシテ、就業ノ時間ヲ十二時間ト限リテ居リマスルガ、十二時間ト限リテモ尙事業ノ事情ニ依ッテハ已ム得ヌモノガアリマスノデ、是ニハ「一箇月内七日ヲ超ヘサル間ニ於テ二時間ノ延長ヲ許ス」ト云フコトニナッテ居ルノデゴザイマス、是ハ多ク工業者ノ便ヲ圖ツタデアリマスガ、倍テ日本ニ於キマシテ今日生絲ノ輸出高ガ一億三千万圓以上ニ上レテ居リマスル、其大切ナル生産業ノ半バヲ占メテ居リマスルコトヲ信州地方ノ如キハ、冬期ノ業務ガ執レナイ、冬ノ間ノ業務ノ執レナイ地方デアリマスカラシテ、一時ニ滿ノトキナドニ多ク生産時期ガアルデアリマスルカ、此季節ガクニハ右二時間ヲ延バスコトヲ集メタメニ通シテ一時ニ使ヒ得ル便法ヲ又設ケタデアリマス、即チ季節ニ依リ繁忙ナル事業ニ付テハ工業主ハ一定ノ期間ニ付豫メ行政官廳ノ認可ヲ受ケ共ノ期間中一年ニ付百二十日ノ割ヲ超エサル限リ就業時間ヲ一時間以内ニ延長スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ其ノ認可ヲ受ケタル期間内ハ前項ノ規定ヲ適用セス」前項ノ規定ナルモノハ「一月ニ付七日ヲ超エサル期間就業時間ヲ二時間以内ニ延長スルコトヲ得」ト斯ウ云フ意味デアリマス、次ニハ第十六條ニ修正ヲ加ヘマシタ、是ハ誠ニ輕微ナル修正デアリマス、職工ヲラントスル者ガ戶籍ノ謄本ヲ受クルニ無料ヲ贈本ヲ受クルノ恩典ガアリマスガ、却テ徒弟若クハ徒弟ヲラントスル者ニ及ビテ居リマセヌカラ、其文字ヲ加ヘタデアリマス、第十八條ニハ大ナル修正ヲ加ヘマシタ、是ハ第二十二條ト關聯シテ居ル箇條デアリマシテ、工業主ナルモノハ工場ニ於ケル出來事ニ對シテハ自ラ干與セヌ、知ラズト云フコトヲ以テ免ル、ヲ得ズト、二十二條ニ規定シテアリマスカラ、工場ノ出來事ハ自ラ與ラズ知ラズト雖モ、皆責任ヲ負フ、即チ金銀上ノコトモゴザイマセウガ、刑罰モ亦與ラナケレバナラズ、斯ウ云フコトニナリマスカラ、從テ信用アリ名譽ヲ重シムルコトコロ資本家ハ自ラ正面ニ立ツコトヲ避ケナケレバナラヌト云フコトニナリ、然ラバ此工場法案ナルモノハ、工事ヲ進ムルノ目的、工業ヲ健全ニスルノ目的ヲ以テ作リナガラ、大キナル點ニ於テ工業ヲ妨ゲル傾キガアルト見ルデアリマス、是ニ於テ政府ノ原案デア工場管理入ヲ置クト云フコトヲ單ニ工業主ガ其土地ニ居ラザルトキ、例ハ東京ニ居テ門司ニ工場ヲ持テ居ルト云フ場合ガ、斯ウ云フモノカ、然ラザレバ特別ノ事情アルトキニ勅令ヲ以テ工場管理入ヲ許スト云フ規定ヲ置イテ居リマスケレドモ實際ニ於キマシテ勅令ヲ許サレル箇條ガナンナモノデアアルカト云フト、政府デモ甚ダ困ル、所

ガ元ト是ハ生産調査會等ニ於キマシテ調ベタトコロハ、別ニ工場ノ管理人ト云フモノヲ選任シテ、之ニ一切ノ權限ヲ持タセテ、工場ノ責任ヲ持タセルト云フコトニナラズ居テ、ノデアリマス、此方ガ甚ダ適シタルモノト考ヘマシタカラ、政府案ノ幾部分ヲ取りマシタケレドモ、吾々ハ御配付申シマシタ通りニ修正ヲ致シタノデアリマス、二十二條ニ於キマシテハ、一々細字ヲ以テ書イテ居リマスカラ、讀マストモ御承知デアリマスガ、加ヘタルコロハ「但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限リニアラス」ト云フ文字ヲ加ヘタルデアリマス、一向與ラズ、知ラズ、何デモ構ハヌ、罰スルト云フコトハ、餘リニ酷クシマスカラ相當ノ注意ヲ以テ監督シテ居ラズ、尙其間ニ起ツタルコロノ職工ナリ其外ノ者ノシタ仕事ニ付テハ責任ヲ必シモ歸セヌト云フコトニシタノデアリマス、其次ノ箇條モツレデ、今一ツ落チテ居リマシタ、二十一條ノ「又ハ虚偽ノ陳述ヲナシタル者ハ」ト云フコトヲ削リマシタ、即チ其意味ヲ削リマシタ、文字ハ此所ニアル通りデ、又ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルト云フコトヲ除イテ「答辯ヲ爲ササル者」ト改メタ、是ハドウカト云ヒマスルト、斯ウ云フコトニナルデアリマス、全又讀ミマスルト「正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若クハ之ヲ妨ケ若クハ其ノ詰問ニ對シ答辯ヲナサヌ又ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」斯ウナラズ居ルデアリマス、ソコデ虚偽ノ陳述ヲ爲スコトハ無論宜シクナイコトデアリマスガ、之ヲ罪スルト云フヤウナル場合ハ、裁判所ニ於テモ先デ宣誓ヲシテ其誓ニ背イタト云フトキニ初メテ罰スルト、工場ノ監督者ガ行ツテ工場ヲ臨檢シテ捜ス、其最中ニ陳述ニ齟齬ガアルト云フト之ヲ捉ヘテ虚偽ノ陳述ト云フヤウナコトヲ以テ争ノ種ニスルコトハ甚ダ宜シクナイ、況ヤ各工場ニ於テハソレトクニ「秘密ノアルモノ、化學工場デアツテモ其通り、紡績工場デアツテモ特有ノ秘密ヲ保護スル居、是等ノモノニ立入ラズ自分ノ秘密ヲ陳述ヲ正直ニシテシマツタナラバ、其營業ニ非常ニ損害ヲ受クル場合モアルカモ知ラヌ、又此場合ニ多少ノ相違シタルコトヲ言フト虚偽ノ陳述ナリト田舎ノ分ヲ又判決ヲ致ス人ガ若シアルカモ知レヌノデアル、是ハ無論正直ニ言ハセナケレバナラヌケレドモ、此ノ如クスルノハ却テ事實ニ於テ害ガアツテ、益ガナイ、況ヤ臨檢ヲスル、自分デ検査ヲスル以上ニ於テカラ問違ガアツタラ問違ヲ正サレヌコトハナイニ依ツテ、之ヲ削ルコトニナラズ居リマス、凡ソ修正致シマシタノハ此ノ通りデアル、サウシテ委員會ニ於テノ重ナル意見ヲ申シマスルト、吾々ハ即チ此修正ヲ爲シテ此法案ヲ通過スルモノト致シマシタ、而シテ進歩黨ヲ代表セラルコトコロノ「進歩黨ニアラス」ト呼フ者アリ、國民黨ヲ代表シテノ人ハ小寺君デアリマシタガ、此法案ハ大體ニ於テ贊成シテ尙不十分ナル所ハアルケレドモ、今日之ヲ修正スルモ通過ノ見込ガナイカラ他日ヲ期スルト云フ意味デアリマシタ、無所属カラハ花井君ガ出ラレテ稍、同ジコトヲ言フ、免ニ角日本ニ於テ法律ヲ以テ職工ヲ保護スルト云フコトノ第一歩ヲ得タルコトヲ樂ミシテ、其他ノ不十分ナコトハ忍ブコト云フ意味ヲ述ベラレタノデアリマス、右御報告ニ及ヒマス

○早速整爾君 (長谷場純孝君) 早速整爾君

○早速整爾君 此第一條ノ修正デアリマスガ「常時十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ」ト原案ニアリシトコロノ「二十人以上ノ職工ヲ使用スルモノ」ト修正セラレタ理由デアリマス、先程ノ御報告ニ承リマシタガ、能ク其意思ヲ了解スルコトガ出來ナイノデアリマス、勿論此制限ヲ具體的ニ數字ノ上デ御答ヲ願フ譯ニ行カナイノデアリマスガ、一體此工場ノ取締ヲ要スルモノハ大工場ノモノニモ其必要ヲ感シマスケレドモ、併ナガラ小工場ニ於テ取締ヲ要スルモノガ寧ロ多クハナイカト私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、十人以上ノ職工ヲ制限シテアツテモ、尙如何デアラウカト思フ位デアル、二十人以上ノ職工ヲ使用スル者ハ此工場法ノ支配ヲ受ケマスケレドモ、十九人マデ使用シテ居ルコトコロノ工

場ハ此工場法ノ支配ヲ受ケナイト云フコトニナル、誠ニ其弊害ト云フモノガ多クハアルマイカト憂フルノデアリマス、此十人以上トアリマシタノ「二十人以上」ト殊更ニ修正セラレテ、却テ小サイ工場ニ弊害ガアルニ拘ハラズ、之ヲ取締ルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ憂ヲ殘サレタノハ吾々共カラ考ヘマスルト、此修正ノ趣意ガドウモ能ク分ラナイノデアリマス、二十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ此工場法ヲ施行スレバ、ソレデ宜シイ、十九人以上ノ此小工場ニ對シテハ工場法ヲ施行スル必要ガナイト御認メニナラズ理由ハ、何レニアルカ、之ヲ少シ御答ヲ願フ置ケバ宜シイノデアリマス

○大岡育造君 御答ヲ致シマス、吾々ガ此二十人以上ト致シマシタノハ前ニ御報告申シマシタ譯デ、大ナル職工ヲ使用スルコトコロノ大工場ハ、十五箇年間此法律ニ重ナル制限ヲ延期シテアルノデアリマス、而シテ十人以上ト云フヤウナル工場ハ寧ロ家庭的ノ工場デアツテ、餘リ職工ヲ虐待スルト云フヤウナコトモナカラウ、家庭的ノ營シテ居ル者ガ、マダ多イ位ノ状態デアリマスカラ、程度論デアリマスケレドモ、二十人以上ノ工場トシマスレバ得ハセヌカ、政府ノ統計デ示シタトコロニ依リマスルト、十八人以上ノ工場トシマスレバ數ガ凡ソ一万五千以上ニナリマス、二十人以上ニナリマスルト七千五百幾ラ、約半分ノ工場ノ數ニナリマス、而シテ極小工場ニ於テ取締ヲナケレバナラヌモノガアルノニ、何故ニ斯クスルカト云フ御尋ニ對シテハ、第一條ノ第二項ヲ御覽ニナリマスルト二十人以上ノモノデモ事業ノ性質危險ナルモノ、或ハ衛生不良ノ虞アルモノトゴザイマスカラ、五人ノ工場デアラウガ、皆取締ル、若シ工場トシテ虐待ヲコトスル、若クハ衛生不良ナルコトヲ願ミズシテ心配ヲ掛ケルモノトスレバ、監督官廳ハ直ニ此二項ニ依ツテ此工場ニ工場法ヲ行ヒマス(ノウウ)ソレハ違フト呼フ者アリ)サウ云フ意味ニナラズ居リマスカラアナタ方ガ反對セラレ、ノハ格別デアリマスガ、吾々ノ意味ハ斯ウ云フ意味デアリマスカラ、左様ニ御承知願ヒマス、尙是ニ於テ報告漏レガアリマスカラ、補ツテ置キマスガ、以上先刻登壇ノ節御報告致シマシタル修正ノ中、第一條及第二十二條ヲ除クノ他ハ政府ガ全然同意ヲ表シマシタ、而シテ第十八條ハ政府ニ於テハ其意味ニ不同意ハナイガ、他ノ新法律ノ關係——商法トノ關係ニ於テ差支ガアルカラ直ニ同意ヲシ兼ネルト云フ意味ノ返事デアリマシタ、而シテ第一條ニ對シマシテハ二十人以上以上ニハ御同意ガ出來ナイ、後ニ能ク研究シテ交渉シテ見マスルト云ハレタガ、十五人位ハ應ズル趣デアリマスカラ、此點ニ付テ修正ハ二讀會ニ於テスル積リデアリマス

○菅原傳君 本案ニ對シ直ニ二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 直ニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガアリマセヌカラ直ニ二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ讀題ニ供シマス

工場法案

第二讀會

○議長(長谷場純孝君) 修正ノ動議ガ提出シテアリマス、第一條、第三條、第五條、第六條、是ハ同一人カラ提出シテアリマスカラ同時ニ述ベラレルトニ致シマス、高木正年君

(高木正年君登壇)

○高木正年君 唯今委員長大岡君ヨリ委員會ノ經過ヲ御報告ニナリマシタ、唯今ノ御報告ニ依リマス、殆ド委員會ニ何等ノ異議モナイヤウナ御辯明ガアツタノデ、此場合ニ於テ私ガ修正説ヲ述ベマスコトハ如何ニモ事ヲ好ムガ如ク思惟セラレ、カモ知レヌ

ノデアリマス、併シ私ノ修正案ハ唯一人ノ修正案デアリマス、代表的ニ自分ガ
 此場合ニ於テ修正ノ意見ヲ吐露スルノデアリマスカラ、暫ク御聽ヲ願ヒタク思ヒマス、私
 ノ修正案ハ第一條ノ原案ニ、十八以上トアツタノヲ委員會ニ二十人以上ト修正シタ
 ノ原案ニ復スルト云ノガ一デアリマス、次ハ第三條、第五條、第六條ニ互ツテ十五箇
 年間トアルノヲ十箇年ト修正スル、此二ツデアリマス、條ノ上ニ於テハ、四箇條ノ修正ニナ
 リマスガ、意味ニ於テハ二ツノ修正デアリマス、何故ニ私ガ此案ニ斯様ニ此案ニ修正ヲ
 セネバナラヌカト申シマス、工場法案ハ昨年ニ於テ私共ガ豫期シタヨリモ政府先ヅ其
 決意ヲ翻シテ居ル、昨年ニ於テ提セラレタコトノ條項ノ中本年ニ於テ之ヲ改メラレタ
 モノハ何デアリカト云フ、唯今後ニ申シマス、コトノ昨年ノ原案ニハ十年トアツタノヲ
 十五年ト直サレタ、工場法ハ何ノタメニ規定セネバナラヌデアリマス、我工業ヲシテ
 健全ナラシムルタメニハ先ヅ労働者ノ保護ヲ第一トセネバナラヌデアリマス、又是同
 時ニ労働者ヲ總テ放縱ナラシメザルタメニ取締ノ法ヲ置イテ、工場ノタメニ利益ヲ與ヘル
 ト云フノガ、第一ノ趣意ニナラシメテ居リマス、是ニ加フルニ危険其他主トシテ豫防スベキト
 コロノモノヲ取締ランガタメニ此工場法ヲ制定サレノデアリマス、然ルニ政府ハ昨年ニ
 於テ、提出セラレタ後ニ於テ、慥ニ或ル意味ニ於テハ退歩ヲ致シテ居ルノデアリマス、先ヅ
 第一條ニ何故ニ之ヲ二十人以上ニ恢復スルコトガ適當デアリカ、唯今大岡君ガ早速
 君ノ問ニ對シテ辯明サレマシタガ、蓋シ早速君ノ問ニ對スル答辯ハ未ダ我ミラシテ満足
 セシムル答辯ナシト云フコトハ申スマテモナイコトデアリマス、何故ニ左様ニ申シマス
 カ、我國ノ工場ノ中ニ於テ比較的大工場ニ於テ弊害ノナシト云フコトヲ私ハ知ツテ居
 ル、唯時間ヲ多ク労働者ニ働カシムルコト云フコトガ、一ノ弊ト云フベキモノデアリカ、其
 他ニ於テ大工場ノ比較的弊害ガ少シ、寧ろ弊ノ多イハ小工場デアリ、過日本會ニ於
 テ第一讀會ノ場合ニ於テ私ハ政府ニ尋ヌルニ二十人以上ノ取締ハドウスルカト云フコトヲ
 尋ヌタ、此二十人以上ノ取締ハ既ニ困難デアリト云フ今日ノ状態デアリ、然ルニ二十人以
 上トアルノヲ二十人以上トシテ此間ニ多クノ工場ノ取締ヲ脱セシムルコト云フコトハ決シテ
 此工場法ヲ制定スル趣意ニ適フモノデアリマス、言ハ、工場法制定ノ趣意ノ
 大部分ヲ漏ラシタカト云フテモ差支ナイ、大岡君却テ此大工場ノ状態ハ御承知デゴザ
 イマセウガ民間ニ散在シテ居ルコトノ我國ノ小工場ノ状態ハ御承知ガナイカモ知レヌ、
 是ハ無理カラヌコトデアリマス、私共ハ最モ細民ノ間ノ状態ヲ能ク知ラズモ居ルニ而モ其間
 ニ住居シテ居ルノデアリマス、最モ此事ニ近接シテ居ルノデアリマス、十人以上ノ職工
 ヲ使用スルコトノ上ニ就テモ先ヅ是等ノ小工場ハドウデアリカト云フト其半ハ所謂年季所
 謂年季奉公ト云フ者ヲ使用シテ居ル、年季奉公ヲ仕上ダタモノト相交ヘテ十人以上ノ
 人ナリノ人ヲ使用シテ居ルコトノ工場ハ、全國到ルトコロアル比較的我邦ノ工場ハ小サ
 イノガ多數デアリ、若シ是等ノモノヲ除ケバ工場ト云フモノ、半分ハ「ゼロ」ニナル、取締
 ト云フモノモ從テ「ゼロ」ニナル此最モ弊害ノ多イ小工場ヲ見棄テ、大工場ヲ取締ル、
 大工場ヲ取締ルト云フ趣意カラ從テ大工場ニ便宜ヲ圖ルト云フ意味ニ工場法ガ轉輾
 シテ往クト云フコトモ、之ハ無理ハナシト思フ、十八人以上、二十人以上、唯數ノ上ニ於
 テ十人、二十人ノ相違ガアルモノト、或ハ考ヘラレル人ガアルカモ知レマセヌガ、併シ實
 際ニ於テ斯ウ云フコトガ生ズルノデアリマス、二十人以上ニナレバ工場法ノ支配ヲ受ケ
 ル、是ニ於テ定員十八人ナリ、十九人ナリニシテ置キ、後ハ臨時ニ要ルトキニ人ヲ殖ス
 ト云フガ如キコトニナラバ、二十人以上ノ實際ニ使用スル工場モ、事實ニ於テヤハリ
 工場法ノ範圍外ニナラズ、ソレハ十人以上ノ同シト云フ御說明ガアルカモ知レマ
 セヌガ、併ナガラ十人以上トスルト、二十人以上トスルト、十八人以上ト云ハ或ハ之

ヲ家庭的ノ工場ト云フテモ宜イカモ知ラヌ、場所モ狹シ、從テ總テノ規模ガ小サイ
 ノデアリ、之ヲシテ十人以上ノ所ニ二十人以上ヲ入レテ、十人以上デアルト云フテ、工場法ヲ違
 レルヤウナコトハ先ヅ出來ニクイノデアリ、却テ二十人以上トスレバ二十人以上ノモノ
 ハ二十人以上トシテ工場法ノ支配ヲ適レルコトハ爲シ易イ、ソレハ今日我邦民間ノ
 此各職工ヲ使フモノ、状態ニ付イテ御調ベニナリマス、最モ之ハ見易キ道理デアリマ
 ス、私共ハ主トシテ一方ハ労働者ヲ保護シ、他方ニ於テハ工場ノ取締ヲスルコトノ精神カ
 ラ往キマシタナラバ、甚ダ委員長ノ「吾々ノ常ニ敬愛スル委員長ノ御演說ニ對シテ反
 對スルノハ誠ニ心苦シイガ、已ムラ得ナイ、次ニ申シマス、此十五年ヲ十年トスル、之ハ
 昨年ハ政府ガ提出シタノデアリマス、モモヤ政府ハ反對ヲシナイノデアラウ私ノ修正ニハ成
 程之ハ紡績工場等ニ於テハ隨分打撃アルカモ知レナイ、併シ先刻大岡君ノ御言葉ニ、
 今日ノ此工場法ハ十分デナイト云フ御說明ガアルガ、先ヅ之ヲ取締ル方法ノ第一歩トシテ
 ヤルガ宜イト云フ御說明ガアルガ、第一歩トシテヤルナラバ、第一歩デケノ工場ノ取締ヲ成
 ク早クヤツテ見タイノデアリマス、第一歩ガ十五年ノ後ト云フコトハ如何ニモ氣長過ギル
 デアル、世界ノ文明ノ速度カラ申マシタナラバ、決シテ今日ハ百年ヲ以テ一世紀トハ言
 レナイノデアリマス、十年ヲ以テ一世紀ト爲ス位世界ノ進歩速度ハ早イノデアリマス、一
 方ニ於テ機械ノ發明ノ力ガ加ハリ、一方ニ於テハ製造ニ付テノ危険ノ度ハ益々加ハリ、
 次第ニ増加シテ居ルノデアリマス、之ヲ十年ノ餘裕ヲ置ケバ、決シテ之ヲ紡績業ナリ總テ
 ガ廢滅スルコト云フコトハ言ハレヌデアリマス、現ニ紡績業ノ中テ最モ國ノ利益ヲ先キト
 シテ、公平ニ事業ヲ觀察スルモノ、目カラ見レバ、十年テ十分デアルト云フコトヲ言フテ居
 ル、私共ノ友人カラ既ニ今日モ其事ヲ耳ニシマシタ、工場ヲ持ツテ居ル人、其工場ニ關係
 アル人スラ、既ニ此ノ如キ公平ノ意見ヲ持ツテ居ル、十年モ此際延期シテ、決シテ今日ノ
 工場ハ成立タヌト云フコトハナイノデアリマス、左様ニ深ク御心配ハ要ラヌト私ハ思フガタ
 メニ此十五年ヲ十年ニ短縮シテ少シモ差支ナイト思惟スルノデアリマス、私共所見ヲ有
 體ニ言ヒマスレバ、私ノ居リマス東京ノ郡部ハ、十五年ハ無論贊成デアリ、併シ苟モ職工
 ス、自分一人ノ内情ノ上カラ往キマシタナラバ、十五年ハ無論贊成デアリ、併シ苟モ職工
 ヲ保護シ、國ノ工業ノ健全ヲ來ヌタメニ工場法ヲ制定スルコト云ハ、私一人ニハ如何ナ
 ル之ガタメニ不利益ガアツテモ、言ヒニクイ此際發言シテ健全ナル一ツ工場ノ前途ヲ祝
 福スルコトガ、我々ノ責任デアルト思ヒマスガタメニ甚ダ爲シニクイ事柄モ、時ニ依テハ既
 ニ申シテ居ルノデアリマス、何卒私ガ斯ル状態ニ於テ此修正案ヲ主張スル勇氣ニ御同情
 下サイマシテ、縱令委員會ガ之ヲ認ムルト雖モ、全會一致ヲ以テドウシ私共ノ修正ニ御
 贊成アルヤウニ深ク希望スルノデアリマス（拍手起ル）

○細野次郎君 本員ハ此際ニ於テ政府ニ問ハントスルトコロガアリマス、唯今委員長ガ
 報告セラル、通り、委員會ノ修正第一條ハ僅ニ一字ノ相違トハ申シナガラ、此法律ノ及
 ブトコロヲ半減スルモノデアリマス、當局ノ調査ニ據レバ十人以上トスレバ、一万五千ノ
 工場ニ適用シ、二十人以上トスレバ僅ニ一千五百餘ニシカ適用ガ出來ヌト云フコトデア
 リマス、果シテ然ラバ六億ノ歳入ヲ三億ニ負カスト同シト云フコトデアリマス、私ハ此際ニ於
 テ政府ガ委員會ノ修正ニ同意スルヤ否ヤ、所見如何

（政府委員押川則吉君登壇）

○政府委員（押川則吉君） 唯今細野君ノ御尋ノ二十人ニ修正スルト云フコトニ同
 意スルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、特別委員會ニ於テモ同意シ兼ネルト云フコトヲ
 答ヘテ置キマシタ、此修正ニハ不同意デゴザイマス

○細野次郎君 更ニチヨット一言、委員長ハ政府ハ十五人ナラバ同意セラル、趣ガアル

トカ言ハレマシタガ、果シテ事實ナルヤ否ヤ

〔政府委員押川則吉君登壇〕

○政府委員(押川則吉君) 十五人云々ト云フコトニ付キマシテハ、當議會ニ於テハ其御意見ハ出テ居リマセヌノデ、唯今政府ハ其コトニ向テ答辯スル必要ハナイト考ヘマス

○大岡育造君 本員ハ先刻委員長ノ資格ヲ以テ二十人ノ報告ヲ致シテ置キマシタ、今改メテ十五人ニ修正致シタイノデアリマス、二十ト云フノヲ「十五」ト改メテ提議ヲ致シマス、御賛成ヲ願ヒマス(贊成ヤ)ト呼フ者アリ)而シテ此場合ニ於テ政府ノ意見ヲ聽キタイノデアリマス、是ニ同意スルヤ否ヤ

〔八百長ト呼フ者アリ〕

〔農商務大臣男爵大浦兼武君登壇〕

○農商務大臣(男爵大浦兼武君) 唯今大岡君ノ御意見ノ十五人ハ、政府ハ固ヨリ十人ト云フ原案デゴザイマスケレドモ、大勢十五人ト云フ多數ノ御意見ナレバ、敢テ不同意ハ唱ヘマセヌ(拍手起ル)

○議長(長谷場純孝君) 採決ヲ致シマス、先ヅ第一條ニ付テ採決ヲ致シマス、即チ一條ニ付テノ採決ノ方法ヲ宣告致シマス、原案ハ「十八」トアルヲ委員會デハ「二十」ト修正ヲサレタ、ソレニ又高木正年君其他成規ノ贊成ヲ得テ原案ノ復活、即チ「十年」ニ復活スルト云フ修正動議ガ出テ居ル、然レニ又唯今大岡育造君カラ「十五人」ニ修正スルト云フ動議ガ出テ、贊成ガアリマス、因テ原案ニ一番遠イモノカラ採決致シマス、原案ガ即チ「十八」ト云フ委員會ノ修正ガ「二十」トアル、ソレデ原案復活ガ此處ニアルカラ先ヅ「十五人」ト云フ方ヲ一番先ニ採決ヲ致シマス、即チ是ガ一番遠イ「二十人」ガ遠イト呼フ者アリ)「二十人」ハ委員會ノ修正デアリマスカラ、第二讀會ニ於テハ委員長ノ報告ガ原案ニアル例デアリマス(原案ハ「十八」ト呼フ者アリ)十八ノ原案復活論デアアル(委員會長ノ修正説ヲ先ニ採ルガ宜イト呼フ者アリ)即チ今申シテ通リ議長ガ採決致シマスカラ議長ノ宣告通リ同意セラルレバ、ソレデ宜イノデアリマス、即チ委員長ノ報告原案ニ「十八」トアルノヲ委員會ニ於テハ「二十人」トシタ、委員長ノ報告ニ對シテ更ニ大岡育造君ヨリ「十五人」ト修正スルト云フ動議ガ出マシタカラ、之ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(長谷場純孝君) 多數——「十五人」ニ決定致シマス、ソレカラ第二條、第五條第六條ノ高木君ノ修正ハ意味ニ於テ同一デアルト云フコトヲ提出者モ述ベラレテゴザリマス、即チ十五年間ヲ十年間ト修正シ、十五年後ヲ十年後トシ「十五年間」ヲ十年間ト修正スル、此三箇條デゴザイマスカラ、之ヲ一括シテ採決シヤウト思ヒマス、高木君ノ修正説ニ同意ノ諸君ノ起立

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數——其他ハ委員會長ノ報告ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ委員會長ノ報告ニ決定致シマス

○菅原傳君 直ニ三讀會ヲ開キ、二讀會ニ於テ決定セラレタル通り確定セラレンコトヲ希望致シマス

○議長(長谷場純孝君) 直ニ三讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ直ニ三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

工場法案

第三讀會

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト認メマスカラ、二讀會ニ於テ決定セラレタ通り、之ニテ本案ハ確定致シマス

〔拍手起ル〕

○議長(長谷場純孝君) 日程第二十二、蠶絲業法案、第一讀會ノ續、特別委員長野田卯太郎君代理事武藤金吉君

第二十二 蠶絲業法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

〔武藤金吉君登壇〕

○武藤金吉君 委員長ニ代リマシテ特別委員會ノ成績ヲ御報告申上ケマス、特別委員會ハ數回ニ互リマシテ審査ヲ重ネマシタ、其順序ト致シマシテ特別委員會ニ於ケル審査ノ大要修正ノ箇條竝ニ少數意見、其外ニ蠶絲業者低利資金融通ニ付政府ト交渉ノコト、本案執行ニ關シ委員會ガ警告ヲ與ヘタルコト、是ダケデゴザイマス、此蠶絲業法ハ御承知ノ如ク原蠶種ノ製造ノ規定、蠶病豫防法ノ事項、ソレニ同業組合ヲ加ヘタルモノデ成立シタルモノデアリマス、サウシテ其外ニ此法律ヲ制定スルニ付キマシテ、委員會ハ原蠶種ニ關スル施設竝ニ其方法、種蠶審査所ノ規則其外蠶絲業法案ノ命令ニ讓リタル事項等悉ク政府カラ提供ヲ受ケマシテ、審査ヲ致シマシタノデアリマス、蠶絲業法ヲ行フニ方リマシテ、政府ノ大體ノ方針ハ豫算ニ於キマシテ全國ニ中央原蠶種ノ製造所一箇所ヲ置キ、支所五箇所ヲ置クト云フ施設ニ伴ヒマシテ、此法律ヲ施行スルコトデアリマス、政府ノ方針ハ今ヤ世界ノ此絹ノ需用ハ其産額ノ一割ヲ増シテ居ルノデアリマス、而シテ我政府ニ此設備ハ年々十五石以上増收スル見込デ計畫ガ立ッテ居ルノデアリマス、今日ニ於キマシテ三百五十石以上ヲ取ルモノニ、更ニ二十五石ヲ一箇年ニ増シテ行カウト云フ計畫デアリマスカラ、丁度四五歩ニ當ル計算デアリマス、サウシテ此原蠶種ノ製造所ハ此産額ノ十分ノ一ヲ造リマシテ之ヲ漸次ニ統一整理ヲ爲シテ行クト云フ方法ニ付キマシテ此法律案デアリマス、サウシテ此法律案此原蠶種ノ製造ニ付キマシテ十八條ト二十三條ガ問題ニナッタデアリマス、當院ニ於キマシテ昨年建議ヲ致シマシタ趣意ハ、勿論此蠶種ノ統一整理ヲ爲スト云フコトハ生絲ガ此國家ノ貿易デアリマシタル以上ハ、之ニ全國ニ國家ノ統一整理ヲ爲スト云フコトヲ方針ヲ取ツテ、サウシテ委員會ハ此修正ノ眼目ニ於キマシテ修正ヲ致シマシタノデアリマス、是カラ、修正ノ箇條ニ付キマシテ其修正ノ理由ヲ御報告致シタイ思ヒマス、修正ノ箇條ハ十一箇條デアリマス、此一番ノ問題ニナリマシタノ第十八條デアリマス、「主務大臣又ハ地方長官必要ト認ムルトキハ原蠶種ノ製造者ハ其ノ讓渡讓受又ハ原蠶種ノ種類ヲ制限スルコトヲ得」ト云フ條項デアリマス、此原案ニハ主務大臣又ハ地方長官トナツテ居リマシテ、即チ問題トナリマシタノハ地方長官ニ主務大臣ト同様ノ權力ヲ與ヘテ居ルカラ、鎖縣主義ニナリハセヌカト云フ議論ガアツタノデアリマス、然レニ此修正ハ何處マデモ國家ノ重要物産デアル以上ハ、之ヲ統一シナケレバナラヌカラ、主務大臣ト云フコトニシナケレバイカスト云フノデ、又ハ地方長官ト云フコトヲ削除致シマシタ、ソレカラ又別項ノ地方長官前項ノ制限ヲ爲サムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシトアルモノヲ斯様ニ改メマシタ、主務大臣ハ地方特別ノ狀況ニ依リ地方長官ヲシテ前項ノ制限ヲ爲サ

シムルコトヲ得既ニ此法律ノ原則ニ於キマシテ蠶種ノ統一整理ヲナスコト云フ原則ヲ改メタル以上ハ、主務大臣ハ更ニ地方ノ狀況ニ依テハ地方長官ヲシテ一府縣乃至數府縣ニシテ、此制限ヲナサシムルコトモ出來ルコト云フ、此處ニ便法ヲ設テデアリマス、元來此案ヲ政府ガ拵ヘルトキニ全ク國家的整理統一ト云フコトヲ沒却シテデアリマセケレドモ、稍シ法律ヲ制定シテ法律文カラ見ルト、餘程地方主義鎖縣主義傾イテ居ルデアリマスガ、此修正ニナルト骨ガ入ッテデアリマス、完全ニナッタデアリマス、此蠶種統一整理ノ目的ニ副フヤウニナッタデアリマシテ、斯ヤウニ、十八條ヲ修正致シマシタ次第デアリマス、ソレカラ又此制限ヲスルコトニ付キマシテハ、チヨット申上ケテ置カナンラヌハ、此地方ニ於キマシテ蠶種審査會ト云フモノガ設ケラレ、ト云フコトニ原案ニアリマシタノデ、然ルニ更ニ中央ニ於キマシテモ此審査會ヲ設ケルト云フコトニ致シマシテ、其審査會ハ少クトモ從來ノ政府ノヤリマシタ委員會ノ如ク、官吏ガ七分、民間ノ學者技術家ト云フモノヲ三分入レテヤルト云フコトヲヨシマシテ、今度ハ民七、官三ト云フ方針、地方ノ審査會モ中央ノ審査會モヤルト云フコトニ致シマシテ、此方法ヲ——此蠶種ノ選定制限等ヲヤテ往クト云フコトデ此十八條ヲ修正致シマシタデアリマス、次ハ、十九條ヲゴザイマス、此十九條ハ「地方長官ハ蠶種又ハ繭ノ賣買又ハ取引市場ニ關シ取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得」トアリマス、之ヲ地方長官ヲ削除致シマシテ、主務大臣ト云フモノヲ加ヘテデアリマス、是ハ此重大ナル權力ヲ地方長官ニ委スルノハイケナイト云フコトデ、主務大臣ト變ヘテデアリマス、次ハ、二十三條デアリマス、此十八條ノ修正ニ伴ヒマシテ「主務大臣及」ト云フコトヲ此本案「地方長官」ト云フ頭ニ入レマシテ「必要ニ應ジ種繭ノ審査及原蠶種ノ選定ヲ行ハシムルタメ種繭審査會ヲ設ケシ」ト云フコトニナッタデアリマス、ソレカラ別項「種繭審査會」設備組織權限及審査選定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フコトハ、唯今十八條ヲ説明シタト同様デアリマス、次ハ第二十六條デアリマス「蠶病豫防事務及」下ニ「地方」ト云フ二字ヲ加ヘマシテ「種繭審査會ニ關シ必要ナル費用ハ府縣ノ負擔トス」但之ニ此修正ノ意見ハ「但國庫ハ其半額以內ヲ補助スルコトヲ得」委員會ニ於キマシテハ大分之二付キマシテハ議論ガアリマシタ、全體此蠶病豫防法ノ如キ、此審査會ノ如キ、費用ハ國庫ノ負擔トスベキモノデアリカラ國庫ノ負擔トスルコト云フコトガ至當デアルト云フ議論モ澤山ゴザイマシタガ、段々討論ノ結果、此修正意見ト致シマシテ既ニ本年ハ豫算モ計上セラレ、ソレカラ又之ヲ行フ上ニ於キマシテハ全然國庫ノ負擔トスルコト云フコトデアリマシテ、段々政府ノ意見モ質シマシタト云フ、此蠶病豫防法ハ現行法ニ於キマシテハヤハリ國庫ハ其半額ヲ出スト云フコトニ規定サレテ居ルデアリマス、然ルニ現在ニ於キマシテ百萬圓掛ル費用ノ中ニ政府ハ——國庫ハ、十萬圓シカ出シテナイ、此但書ハ當ニ國庫ハ半額以內ヲ補助スルコトヲ得ト云フバカリニ書クノデアリマシタ、政府ハ之ヲ此施行ト共ニ現實スルヤウニ、例ヘバ百萬圓掛リマスルモノハ、五十萬圓政府ガ出スト云フコトニ同意ヲサセマシテ、サウシテ之ヲ出スト云フコトニハキリハ明言モサレマセケレドモ、成ルダケ多ク出スヤウニト云フコトデ、政府ハ同意ヲサレタデアリマス、テ尙此蠶病豫防費ノ費用ニ付キマシテハ年々唯今ノ此養蠶ノ發達ハ共ニ殖ヘテ往クコトハ必然デゴザイマス、テ既ニ昨年ノ如キモ輸出貿易ハ一億四千萬圓ヲ數ヘマシタ、本年ノ如キハ此分テ參リマスレバ三十萬圓ハ横濱ノ市場カラ出スコトガ出來ル、唯今ノ價デゴザイマスレバ此生絲ノ直段ダケハ確ニ一億六千萬圓ヲ計上スルコトハ出來ルデアリマス、又羽二重ノ輸出ハ三十萬圓、之ニ屑物

ヲ併セマスルト輸出絹物ダケガ二億ヲ計上スルコトニナル、此二億ヲ計上スルコトコトハ、今日ノ三百五十萬石デハ濟マヌデアリマス、近來ハ夏秋蠶ノ增收ト云フモノハ著シキモノデアリマシテ、非常ニ發達ヲ致シテ居リマスカラシテ、此蠶病豫防ノ費用ト云フモノモ今日マデ百萬圓ノモノハ乃至百二十萬圓ニナリ、百五十萬圓ニナルコトハ近キ中デアルデアリマスカラ、從ッテ此費用ト云フモノモ殖ヘテ往クコトデアアルデアリマス、次ハ二十五條デアリマス、此三十五條ハ錯雜シテ直シテデアリマスカラ修正ノ全文ヲ讀ミマス「二十五條當該官吏吏員ハ蠶病豫防ニ關シ蠶種又生繭ノ取扱ヲナスモノ、店舖倉庫製造場飼育場等ニ臨檢シ物品及帳簿其他ノ書類ヲ調査シ又ハ必要ナル分量ニ限リ無償ニテ物品ヲ收去スルコトヲ得」地方長官官本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル所爲アリト認ムルトキハ當該官吏吏員ヲ前項ニ掲ケタル場所ニ臨檢シ犯罪嫌疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪事實ヲ證明スヘキ物件帳簿書類ヲ搜索シ若ハ之カ差押ヲナサシムルコトヲ得」ソレカラ前二項ノ場合ニ於テ云々トデアリマス、之ヲ削除致シマシタ、ソレカラ「臨檢尋問搜索又ハ差押ニ關シテハ問接國稅犯則者處分法ヲ準用ス」是ハ同ジ蠶絲業者デアリマシテモ例ヘバ横濱ノ生絲貿易商製蠶業者等トハ自ラ此蠶ノ種ヲ拵ヘマスモノト生繭ヲ取扱ヒマスモノ、營業者ト違ヒマスカラシテ、此官吏ノ臨檢無限ナル司法權ヲ與ヘル——此官吏ノ權力ヲ同ジ蠶絲業者デアリマシテモ、此方面ニ及ボサナイト云フ修正デアリマシテ、此修正ノ程度ハ至極穩當デアルト信ジマス、次ハ三十八條デアリマス、此三十八條ハ「詐欺ノ所爲ヲ以テ第十一條ノ檢査ヲ受ケタル者ニ、第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルモノハ千圓以下ノ罰金」トナッテ居リマス、又「五百圓」ト修正ヲ致シマシタ、次ハ第三十九條是ハ「三百圓以下ノ罰金」一、免許ヲ受ケズシテ蠶種冷藏ノ業ヲナシタル者、二、第四條第一項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者、四、第七條第八條第十六條第三項ノ規定ニ違反シタル者、之ヲ「五百圓」ト原案ハナッテ居ルノ「三百圓」ト修正致シマシタ、第四十條「左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス、一、第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタルモノ、二、第十六條第一項ノ規定ニ違反シタル者、是ハ「二百圓以下」ト修正ヲ致シマシタ、是ハ三十條、二十九條、四十條、モウ一箇條四十二條ニモ涉ッテ居リマスガ「千圓乃至五百圓三百圓」ハ高キニ失スル、此罰金ガ高イカラト云フ此蠶業上ノ弊風ヲ總テ矯正スルコトガ出來ルト云フ譯デアリマセヌカラ、千圓ノモノヲ五百圓、總テモ、權衡ヲ取リマシテ、斯ヤウニ減シタデアリマス、ソレカラ第四十二條「第三十五條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者又ハ臨檢ノ際當該官吏吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス」トアルノデアリマス、是ハ此ノ檢査ノ際當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス」トアルノ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者」ト云フノヲ削リマシテ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス、ル者ハ「二百圓以下」ノ罰金又ハ科料ニ處ス」ト云フコトニ修正致シマシタ、是デ本條ノ方ハ悉ク修正ハ濟ミマシタ、附則ノ方ニ於キマシテ第五十二條「本法施行ノ際蠶種ノ冷藏ヲ業トスル者ハ命令ノ定ムル期間內免許ヲ受ケズシテ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得」トデアリマス、命令ノ定ムル期間內「ト云フヲ削除致シマシテ」本法施行後一年ヲ限リ」ト修正致シタ、是ガ此修正ノ箇條ノ大要デゴザイマス、然ルニ此大體ハ政府ハ全然同意ヲ致サレマシテ、委員會ハ四郎君外四君カラ少數意見ヲ發表ガアリマシテ、其內ノ第二十七條「蠶種檢査ニ關スル手數料ハ府縣ノ負擔トス」ト、修正說ガ出マシタ、ソレカラ第三十八條中「千

圓ノ罰金ヲ「三百圓」ニ改ムルト云フ少數意見が出テ居リマス、ソレカラ其他ニ中ノ「三百圓」ヲ「百圓」ニ改ムルト云フ少數意見が出テ居リマス、ソレカラ其他ニ御報告致スベキコトハ蠶絲業ニ對シテ低利資金ヲ融通致シタト云フノハ、委員會全體ノ決議ニ依リマシテ、桂大藏大臣並ニ大浦農商務大臣ニ委員長理事等ハ交渉ヲ致シマシタト云フ、内閣ニ於キマシテハ、勸業銀行並ニ農工銀行ノ法律案モ出テ居ル折柄デゴザイマスカラ、成ルベクハ此蠶絲業者ニ對シマシテハ、低利資金ノ融通ヲ計リタイト云フノハ御同感アルト云フコトデアリマス、幸ニ今日ハ兩大臣トモ御見エニナッテ居リマスカラ、此點ニ付テハ私ガ報告スルヨリモ、寧ろ兩大臣カラ御辯明ヲ願フ方ガ宜カラウト思ヒマス、此蠶絲業ノ資金ニ對シマシテハ既ニ正金銀行ニ二千萬圓ニ朱ノ利息ヲ以テ國庫ハ別ニ融通シテ居リマスガ、其金ハ實際ノ蠶絲業地方ヘハ參リマセズ、横濱ノ貿易商、生絲業者ガ融通シテ居ルニ過ギナイデアリマス、實際ノ蠶絲業地方ノ例ヘハ養蠶ヲシ、絲ヲ操ル者、又繭ノ賣買ヲスルト云フ方ニハ均霑ヲ致シテ居リマセヌデアリマス、此低利資金ノ方法モ僅ニ五百万圓デアアルサウデアリマスガ、トモ此二億カラノ蠶絲業ノ資金ニ五百万圓バカリハトモ足リマセヌケレドモ、併ナガラ之ガ低利資金ヲ融通スルト云フ一ノ端緒ヲ啓キマスコトハ、蠶業ノタメニ、國家ノタメニ、喜ブベキコトデアルト思フデアリマス、ソレカラ次ニ此法案ノ施行ニ付キマシテ委員會ガ政府ニ警告致シタコトガ、一ニ「ゴザイマス」、是ハ桑田ノ改良ヲ桑園ノ整理デアリマス、一體原蠶種製造所ヲ設置スルト同時ニ、斯様ナル蠶病豫防法ヲ勵行スルト共ニヤラケレバハラヌコトハ、桑田ノ改良デアリマス、桑園ノ整理ヲセズニ、片輪ノ獎勵ハカリシタトコトガ、一向日本ノ生命タルトコロ日本ノ大産業タルトコロ蠶絲業ノ發展ハ期スベキモノデアリ、現ニ昨年伊太利ノ「ハイニイ」ト云フ人ハ伊太利ノ總理大臣「ルサチ」氏ノ使命ヲ帶ヒテ來ッテ一昨年調査シタ報告ニ依リマスレバ、日本ノ蠶業ハ桑ヲ虐使スル故ニ、到底我國ノ競争地トシテハ恐ル、ニ足ラヌト云フコトヲ報告サレテ居ル、誠ニ此法律ヲ拵ヘ、サウシテ之ニ伴フトコロ蠶病豫防法及消毒ノ方法ヲ勵行スルト同時ニ桑田ヲ改良シ、桑園ノ整理ヲ急ニシナケレバ、我國ノ蠶業ト云フモノハ兩々相對シテ進シテ行クコトハムツカシイデアリマス、御承知ノ如ク我邦ノ桑園ハ今日ニ於テ既ニ四十二万町歩デアリマスケレドモ、之ヲ整理致シマシテ桑田ノ改良ヲ致シマスレバ、少クモ現在ノ桑ニ於キマシテモ、其五割ノ増收ヲ見ル、又其上ニ桑園ヲ擴メマスレバ、之ニ倍加スルダケノ桑園ハ擴ガリマス、殊ニ臺灣ノ如キハ支那ノ廣東地方ト同様デアリマシテ、一年ニ七回ノ養蠶ヲナスコトガ出來ルデアリマス、殊ニ此上簇ノ時期ノ如キハ内地ハ三十日以上掛リマスガ、十七日間テ上簇スル、桑ノ如キモ、天然ノ氣候ニ依ッテ進ンデ行ク、テ臺灣ニ於キマシテ、今後大ニ日本ノ國產トシテ見込アルモノハ私ハ養蠶デアラウト思ヒマス、此方針ヲ以チマシテ此委員會ハ桑田ノ改良、桑園ノ整理ト云フコトヲ忽セヌベカラザルコトヲ警告致シマシテ希望シテ置イタデアリマス、次ニ此法律ニハゴザイマセヌガ、法律ノ外ニ同業組合法ノ施設ガナイデアゴザイマスガ、産業組合ヲ獎勵致シマシテサウシテ町村ニ於テ蠶種ノ共同購入、肥料ノ共同購入、ソレカラ生繭ノ出來タ繭ノ共同販賣ト云フ此途ヲ付ケルト云フコトハ即チ繭質ヲ統一シ、又此生絲ノ統一ヲ計ルト云フ上ニ於テ、最も必要ノ要項デアアルデアリマス、其他ニ町村ニ於キマシテ蠶種ノ共同飼育、小サイ中ニ共同飼育ヲ致シマシテ、此經驗熟練アル者ガ稚イトキノ極ク掃イタバカリノ蠶ヲ共同飼育スルト云フ方法ハ共ニヤルベキコトデアルト委員會ハ警告致シタデアリマス、次ニ蠶病豫防法並ニ蠶種検査施行ニ關シマシテ、是マデハ往々此蠶病豫防法ヲ施行スル役人等ハ其法律ノ精神ノアルトコロヲ忘レマシテ、實際養蠶家ニ臨

ムニ苛酷横暴ヲ極メテ、往々不正ノ行爲ヲ働イタ事實ガ澤山アルデアリマス、是等ニ付キマシテハ此法律ヲ施行スルト共ニ主務大臣ハ責任ヲ以テ當業者ヲ虐待シナイヤウニ、虐ゲナイヤウニシテ貫ヒタイ、又蠶種ノ検査方法ニ付キマシテハ顯微鏡ヲ見テ唯無毒デアルカラト云フバカリデナク、肉眼ノ試験モ必要デアル、實際ノ試験モ必要デアル、是等ハ千篇一律ノ書イタモノ、通り書イタ條項ニ當符メルト云フダケデハ實際ヤレナイデアリマスカラ、蠶病豫防法ノ施行ニ付テモ、蠶種検査ノ施行ニ付テモ、十分ナル注意ト忠實ヲ拂ッテサウシテ養蠶家ニ臨ムニ親切ニ、サウシテ國家ノ産業ヲ舉ゲルコトニ忠實ニシテ貫ヒタイト云フコトハ、此本案委員會ノ警告希望デアッタデアリマス、大要ハ委員會ハ此ノ如クニシテ濟ミマシタデアリマス、而シテ此修正案ニ同意ヲセラレマシタノハ、我政友會並ニ中央俱樂部、無所屬デアリマス、又少數意見トシテ、甚ダ申シテハ恐入リマスガ、蠶種検査ニ關スル手數料ハ府縣ノ負擔トス」ト云フ少數意見ヲ出シタノハ進歩黨 諸君デアリマス、此段御報告ニ及ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 少數者意見——久保田與四郎君——中島祐八君

(中島祐八君登壇)

○中島祐八君 私人少數者ノ意見ヲ簡單ニ陳述致シマス、吾々少數者ハ第二十七條、並ニ二十八條以下ノ罰金ニ付テ少數者ノ意見ヲ提出シデアリマス、此二十七條ノ修正ノ趣意單ニ蠶絲業家ヲ保護スルト云フ意味デハナイデアリマス、是ハ委員會ニ於テモ申述ベマシテゴザイマスガ、蠶種検査ト云フコトハ強制的ニスルコトデアッテ、國家ノ事業デアアルデアル、其國家ノ事業ニ向テ検査ノ手數料ヲ當業者カラ徴收スルト云フコトハ甚ダ不當ノコトデアルト考ヘルデアル、ノミナラズ、手數料ヲ拂ッテ検査ヲ受ケテ、其蠶種ガ検査ニ合格シマセヌトキニハ燒棄サレルデアル、是ハ蠶病豫防ノ手段トシテハ已ムコトヲ得ナイコトデアリマスケレドモ、隨分峻烈ナルコト、云ハナケレバナラズ、尙ソレノミナラズ、先年此手數料ヲ止マシテカラ段々梓製蠶種ト云フモノガ發達シテ來タデアル、ソレガタメニ病毒ノ減少シマシタコトハ是ハ申スマデモナイコトデアリマスガ、然ルニ今又此手數料ヲ取ルコトニシマス、或ハ此梓製蠶種ノ製造ト云フモノガ漸次減ル方ノ傾ニナリハシナイコト思フ、ソレガタメニ却テ蠶種ノ病毒ヲ増スト云フ結果ヲ來スコトニナラウカト考ヘル、斯様ナ次第デアリマスカラ二十七條ハ即チ蠶種検査ノ手數料ハ府縣ノ負擔スルト云フコトガ、最も相當ナルコトデアラウト考ヘル、又二十八條ノ罰金ニ付キマシテハ是ハ頗ル苛酷ナル制裁デアルト考ヘル、元來蠶絲家ト云フモノハ信用ヲ得ルコトニ努ムルト同時ニ、自分ノ名譽ト云フコトモ亦重シズルデアリマス、故ニ僅ノ罰金デモ其罰金ヲ取ラレタト云フコトニナルト、非常ニ不面目ニ考ヘルデアル、斯様ニ原案ノ如クニ苛重ナル罰金ヲ科シテ、是デ蠶業ガ發達スルトハ決シテ言ハレナイ、故ニ私共ハ現今ノ蠶病豫防法ニ規定サレテアル通り、千圓トアルノヲ二百圓ニ、五百圓トアルノヲ二百圓ニ、二百圓トアルノヲ百圓ニ、斯様ニ修正シタイト考ヘルデアリマス、勿論此原案ノ罰金刑、範圍ガ廣クナッテ居ルカラ、如何様ニモ斟酌ガ加ヘラレルト言ハレルカ知リマセヌケレドモ、併シ罰金ノ極度ガ高ケレバ勢ヒ多クノ罰金ヲ科セラレルト云フコトハ近頃ノ裁判ノ趨勢デアリマスカラ、是ハ相當ノ範圍ニ引直スコトガ適當デアラウト考ヘル、斯様ナ趣旨ヲ以チマシテ此修正ノ意見ヲ提出シタ次第デアリマスカラ、ドウツ滿場諸君ノ御贊成ヲ願ヒマス(拍手起ル)

○菅原傳君 直ニ二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(贊成々々ト呼ブ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 直ニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

ニ苛酷横暴ヲ極メテ、往々不正ノ行爲ヲ働イタ事實ガ澤山アルデアリマス、是等ニ付キマシテハ此法律ヲ施行スルト共ニ主務大臣ハ責任ヲ以テ當業者ヲ虐待シナイヤウニ、虐ゲナイヤウニシテ貫ヒタイ、又蠶種ノ検査方法ニ付キマシテハ顯微鏡ヲ見テ唯無毒デアルカラト云フバカリデナク、肉眼ノ試験モ必要デアル、實際ノ試験モ必要デアル、是等ハ千篇一律ノ書イタモノ、通り書イタ條項ニ當符メルト云フダケデハ實際ヤレナイデアリマスカラ、蠶病豫防法ノ施行ニ付テモ、蠶種検査ノ施行ニ付テモ、十分ナル注意ト忠實ヲ拂ッテサウシテ養蠶家ニ臨ムニ親切ニ、サウシテ國家ノ産業ヲ舉ゲルコトニ忠實ニシテ貫ヒタイト云フコトハ、此本案委員會ノ警告希望デアッタデアリマス、大要ハ委員會ハ此ノ如クニシテ濟ミマシタデアリマス、而シテ此修正案ニ同意ヲセラレマシタノハ、我政友會並ニ中央俱樂部、無所屬デアリマス、又少數意見トシテ、甚ダ申シテハ恐入リマスガ、蠶種検査ニ關スル手數料ハ府縣ノ負擔トス」ト云フ少數意見ヲ出シタノハ進歩黨 諸君デアリマス、此段御報告ニ及ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 少數者意見——久保田與四郎君——中島祐八君

(中島祐八君登壇)

○菅原傳君 直ニ二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

(贊成々々ト呼ブ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 直ニ二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

蠶絲業法案

第二讀會

○議長(長谷場純孝君) 少數意見ニ賛成ノ諸君ガアリマスカ

(賛成々々ト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 定規ノ賛成ガアルト認メマス

○高木正年君 此際私が修正案ヲ出シテ置キマシタカラ便宜上此際申シタイト思ヒマス

○議長(長谷場純孝君) チヨット御待チナサイ、コチカラ申シマス、高木正年君ノ修正動議ハ二十五條ニ付テ、修正デアリマスカラ、此二十五條ノ場合ニ發言ヲ許シマス、第一條ヨリ第二十六條マデハ委員會ノ修正ハアリマスカ、別ニ反對賛成ノ通告モアリマセヌ、ツレテ先ツ第一條ヨリ第二十六條マデヲ採決シヤウト思ヒマス、委員長ノ修正報告ニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナシト呼フ者アリ

最モ當局ノ手腕ヲ揮ハル、土臺ニナツテ居ルカト云ヘバ、取締ノ方ハ共事業ノ進歩シナイ其反比例ニ、非常ナ酷ト云ハシカ何ト云ハシカ知ラヌケレドモ、非常ナ重イ規定ヲ取締ラスル、蠶業ハ實ニ大事ナ我邦ノ唯一ノ事業デアリマス若シ一朝取締ノ上ニ其度ヲ失シタトキニハドウデアリマスカ、實ニ「千圓」ヲ「五百圓」ニ、「五百圓」ヲ「三百圓」ニ、「三百圓」ヲ「二百圓」ニシタダケテ是デ宜イト云フコトハ出來ナイデアリマス、成ルベク先ツ今日ノ程度ニ於テ輕クシテ置イテ、若シツレデモ尙弊害アリト云フ其時ニ法律ヲ改正スルモ少シモ差支ナイデアリマス、此點ニ於テ少數意見ヲ賛成致シテ居リマス、二十五條ノ修正ハ委員長ノ言ハレタ「糸」ヲ種ト變ヘラレタノハ頗ル宜イデアリマス、併ナガラ間接國稅ノ犯則者處分法ヲ準用セズトモ此法文ヲ取締ガ出來ルデアアル、搜索モ出來ル、尋問モ出來ル、臨檢モ出來ル、總テガ出來ルデアアル、尙是ニ向テ彼ノ間接國稅犯則者處分法ヲ以テ是等ノモノヲ犯則者ナリト云フ頭ヲ以テ取締ルト云フコトハ、頗ル業務ノタメニ將來ノ發展ヲ止ムベキコト、思ヒマス、私ハ徒ニ之ヲ言フデアリナイ織物稅ガ常ニ惡稅ナリト云フノハ、稅務吏ガ取締ノ上ニ殘酷ナル手段ヲ爲スト云フコトガ、即チ織物稅ノ今日惡稅タル所以デアリマス、蠶種ノ取締モ其極度ニ達スレバ竟ニ大事ナ我國ノ蠶業ヲ萎靡セシムルコトニナルデアリマス、此點ニ於テハ私ハ此修正ヲ致シ、且少數意見ヲ賛成スルデアリマス

○議長(長谷場純孝君) 採決ヲ致シマス、高木君ノ臨檢、尋問、搜索、又ハ差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス」之ヲ削除スルト云フコトニ同意ノ諸君ハ起立

○議長(長谷場純孝君) 少數、消滅——委員長ノ報告ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ委員長ノ報告通り決定致シマス

○菅原傳君 日程ノ二十二ハ了ヘタ譯デアリマスカ、三讀會ニマダ……

○議長(長谷場純孝君) マダ……三十八條、三十七條ニハ修正モ反對ノ意見モアリマセヌカ、原案ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ三十八條、三十七條ハ原案ニ決シマス、三十八條以下ニ少數者ノ意見ガアリマス、即チ三十八條ハ「左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス」ト云フノヲ委員長ノ報告ハ「五百圓」ト修正スル、之ヲ少數者意見ハ「三百圓以下」ト修正スル、三十九條ハ「左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス」ト云フノヲ委員長ノ報告ガ「三百圓」ト少數者ノ意見ハ「二百圓」ト修正スル、之ヲ少數者ノ意見ハ「二百圓以下ノ罰金」ト云フコトニナツテ居リマス、四十條ハ「修正ガアリマセヌ、四十二條ハ「當該官吏、吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サ、ル者ハ三百圓以下ノ罰金」ト委員長ノ報告ガ「二百圓」ト少數者ノ意見ハ「爲サ、ル者ハ百圓以下ノ罰金」ト云フコトニナツテ居リマス、一括シテ是ハ採決シヤウト思ヒマスガ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ一括シテ採決致シマス、即チ少數者ノ意見ニ賛成ノ諸君ハ起立

起立者 少數

○議長(長谷場純孝君) 少數、消滅——委員長ノ報告ニ御異議ハアリマセヌカ
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ委員長報告通り決シマス、四十二條ヨリ五十二條マテ委員長ノ報告ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ委員長ノ報告通り決定致シマス
○菅原傳君 直ニ三讀會ヲ開キ、二讀會決定ノ通り確定セラレシコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 直ニ三讀會ヲ開クコトニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ナイト認メマスカラ、直ニ三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ニ供シマス

蠶絲業法案

第三讀會

○武藤金吉君 此際桂大藏大臣ニ蠶絲業者低利資金融通ニ關スル 御所見ノ言明ヲ願ヒタイと思ヒマス

○議長(長谷場純孝君) 大藏大臣
○大藏大臣(侯爵桂太郎君) 唯今武藤君ヨリ本官ニ言明ノ御請求ガアリマシタガ、蠶絲業ニ關スル既設ノ産業組合ハ勿論、將來一層蠶絲業ニ關スル産業組合ノ増置ヲ獎勵ヲ致シマシテ、是ニ對シテ成レバ多額ノ低利資金ヲ融通シテ、蠶絲業ニ關スルコトノ金融ヲ緩漫ニ致ス考デゴザイマス
○翠川鐵二君 議長

○議長(長谷場純孝君) 翠川君ハモウ三讀會ニ付シタノデゴザイマスガ何カ……
○翠川鐵二君 幸ニ大藏大臣ガ御出席ニナッテ居リマスカラ、此法案ニ付テ大藏大臣ノ御所見ヲ言明ヲ願ヒタイ一廉ガアリマス
○議長(長谷場純孝君) 翠川君
○翠川鐵二君 此蠶絲業法案ノ第二十六條ノ但書ニ付テ、國庫ハ其半額以內ヲ補助スルコトヲ得ト修正ニナリマシタガ、今日マテ國庫ノ補助致シマシタ金額ハ僅ニ十萬圓ヅ、毎年補助サレテ居リマス、今後益々此豫防費用ノ嵩マリマスコトハ申スマデモナイコトデアリマスガ、今後現在ノ補助金額ヨリ以上ニ國庫ガ十分ナル此豫防費ニ向ッテ補助セラレシコトヲ望ムコトハ曩キニ委員會ニ於テモ當局大臣ニ望ンデ置キタノデゴザイマスガ、今後此補助ニ對スル大藏大臣ノ御所見ハ如何デアリマスカ、此權ヲ利用致シテ幸ヒニ御辯明ヲ得タイノデアリマス

○大藏大臣(侯爵桂太郎君) 只今翠川君ヨリ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、政府ハ只今ノ御質問ノ點ニ付キマシテハ諸君ノ御希望ノ如ク財政ノ都合ニ依リマシテ、是ガ按排ノ必要ガゴザイマスカラ今茲ニ補助額ガ若干デアルト云フコトノ御確答ヲ致スコトハ致シ兼ネマス、ナレドモ成レバ政府ハ財政ヲ按排致シマシテ、御希望ノ通りニ致サウ考ヘテ居ルノデアリマス、此段御答致シマス
○議長(長谷場純孝君) 別ニ御異議ガナイト認メマスカラ二讀會ニ於テ決定ノ通り本案ハ是ニテ確定致シマス

○菅原傳君 此場合日程ヲ變更シテ、曩ニ延期致シマシタル朝鮮事業公債法案外二件ヲ院議ニ付セラレシコトノ動議ヲ起シマス
〔賛成々々ト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ日程ノ第十七、十八、十九ヲ此場合ニ議題ト致シマス、即チ日程第十七、朝鮮事業公債法案、日程第十八、朝鮮事業公債金特別會計法案、日程第十九、朝鮮鐵道用品資金會計法案、此三案ヲ一括シテ議題トナシ、第一讀會ノ續ヲ開キマス——特別委員長板倉中君

第十七 朝鮮事業公債法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
第十八 朝鮮事業公債金特別會計法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
第十九 朝鮮鐵道用品資金會計法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

(板倉中君登壇)

○板倉中君 此朝鮮事業公債法案デゴザイマスガ、本案ハ朝鮮ノ築港、鐵道道路等ノ修繕ニ要シマスル資金ヲ公債ニ依リ、又ハ借入金ヲ以テ支辨スルコト、及從來是等ノ事業ニ要スル朝鮮政府ノ負擔ニ歸シテアリマシタコトノ債務モ同様ニ公債又ハ借入金ヲ以テ整理若クハ償還セントスル法案デゴザイマス、其必要ナル理由ヲ精細調査致シマシタコトヲ總計五千五百七十三萬千六百六十九圓ト云フモノデゴザイマス、是ハ即チ本案ノ第三項ニゴザイマスル公債借入金ニ要スルモノデゴザイマス、即チ五千五百七十三萬圓、殆ド五千六百萬圓デアリマスカラ、第二項ニ於テ公債借入金ノ額ヲ五千六百萬圓ト定メタ譯デアリマス、ソレカラ第二項ニアリマシタコトノモノ、即チ從來負擔シタルコトノ債務、及本邦邦借入レタルコトノ金額ヲ整理若クハ償還スルタメニ同ク借入レタルコトノ法案デゴザイマスガ、是ハ豫メ額ハ定マリマセヌカ、從來負擔シタルコトノモノガ、千九百八萬圓デゴザイマス、ソレト本法ニ於テ新タニ借入レマシタルモノヲ整理、若クハ償還スル必要ノタメニ第二項ニ依リマシテ公債借入金ヲ致ス案デゴザイマス、要スルニ此事業ハ已ムベカラザル必要ノモノト認メマシタ、故ニ之ヲ大體ニ於テハ可決スルコトニ相成リマシテゴザイマスガ、唯借入金ノ方ニ於キマシテ二年以內ト云フコトニ期限ヲ付シテアルニ拘ラズ公債ノ償還期限ガナイノヲ全カラザルモノト信ジマシテ、委員會ハ第一項ノ「事業費支辨ノ爲ニ政府ハ」ノ下ニ「五十五年以內ノ期限ヲ以テ」ト云フコトヲ追加挿入ヲ致スコトニ決定致シマシタ、他ハ本案ヲ可決致スコトニ相成リマシタノデアリマス、而シテ朝鮮ニ於ケル事業ノ詳細ヲ總テ質問精査ヲ遂ゲマシテゴザイマスガ、是ハ速記録ニ詳シクゴザイマス、故ニ之ニ讓ッテ改メテ報道致シマセヌ、ドウカ御可決アラシコトヲ希望致シマス、第二ノ朝鮮事業公債金特別會計法案デゴザイマス、是ハ既ニ朝鮮ニ於ケル事業公債法案ヲ可決致シマシタ結果ト致シマシテハ、此處理ニ付テ必要已ムベカラザルモノト信ジマス、故ニ委員會ハ本案全體ヲ可決致シマシテゴザイマス、第二ハ朝鮮鐵道用品資金會計法案デゴザイマス、是ハ從來本國ノ鐵道用品資金會計法ヲ用井テ居リマシタノデゴザイマスガ、凡テノ鐵道ニ關スル會計ガ統監府ノ特別會計ニ包含セラル、コトニ相成リマシタ故ニ、均シク鐵道用品資金會計ト云フモノガ四十二年度限リ消滅スルコトニ相成リマシタ故ニ、第十四年度カラハ即チ鐵道ノ事業ヲ行ウテ行クタメニ必要ナルコトニ相成リマシタ、唯其「第八條」一般ノ需用ニ應ジ法案トシテ委員會ハ可決スルコトニ相成リマシタ、云フ箇條ニ付キマシテハ委員會ハ多少ノ疑ガアリマシテ取質シマシタガ、是ハ即チ政府ノ方ニ於テハ餘リ望マナイコトノモノ、寧ロ迷惑ナル箇條デアアル、ケレドモ朝鮮ニ於テハ折ニ仁川等ニ於テ、或ハ船ガ破損シタトカ、若クハ碇綱等ガ切レタト云フヤウナ場合ニ於テモ、民間ノ是ニ應ズル事業家ガアリ

マセヌ、修理ヲナスベキ場所ガアリマセヌ、故ニ四十一年度ヨリ單行法ヲ發シテ以テ此民間ノ需用ニ應ズルコトニテ居リマシタノデアリマス、ソレヲ此度法案ニ纏メマシテ、即チ第八條ニ此一項ヲ加ヘテ以テ民間ノ不時ノ需用ニ應ズルコトニ致シタト云フ次第デアツテ、是亦必要ナルコトニ信シテ本案全體ヲ可決スベキモノト致シマシタ次第デアリマス、此段御報告ニ及ヒマス、朝鮮鐵道用品資金會計法案モ、是亦全體ニ於テ必要ナルモノト認メマシテ、可決スベキモノト致シマシタ次第デアリマス

○議長(長谷場純孝君) 朝鮮事業公債法案及朝鮮事業公債金特別會計法案ニ反對ノ通告ガアリマス、鈴木力君

(鈴木力君登壇)

○鈴木力君

私ハ唯今委員長ノ報告ノ朝鮮事業公債法案並ニ朝鮮事業公債金特別法案、此二箇ニ反對ノタメニ立チマスルガ、實ハ委員會ニ於キマシテ發言ノ機會ヲ失ヒマシテ、甚ダ遺憾ニ存シテ居リマスルガ、又我所屬團體モ此案ニ對シテハ贊成ノ方ニナツテ居リマス、私ハ特ニ除外例ヲ要求シテ出マシタノデアリマス、サナキダニ少數黨ノ中ノ最モ少數黨ノ單位トナツテ現ハレタル次第デアリマスガ、併シ頗ル重大問題ト考ヘテ、斯ル時既ニ迫リタルニモ拘ラズ、且單位ヲ以テ立ツ以上ニハ既ニ時間モ迫リマシタケレドモ、願クハ十分御聽取アラシコトヲ先ツ祈ル次第デアリマス、私ノ反對ノ大綱ハ財政計畫書ノ大本ヨリシテ財政ノ基礎ヲ鞏ウスルタメニハ、此朝鮮事業公債ト云フモノヲ五千六百萬圓ト云フ額ヲ大東ニ越スルコトヲ許スト云フコトガ宜シクナイ、即チ財政計畫書ノ點ヨリ第一反對シマス、第二點ハ朝鮮總督ノ權力過大ナリ、殆ド第一ノ朝鮮國王、新國王ノ如キ權利ヲ有シテ居ル、此事實ニ照シマシテ、斯ル際ニ尙之ニ與フルニ既ニ名ヲ以テシ、器ヲ以テシ、尙之ニ假スニ無限ノ財本ヲ以テシタルトキニ於テハ、此議會ノ財政ニ關スル監督權ナルモノハ事實上ニ於テ縮メラレテ、即チ法理上ノ憲法違反ハ既ニ多數黨ノ諸君ニ於テ之ヲ御責メニナルト云フコトヲ聞キマシテ満足致シテ居リマスルガ、此有様ヲ朝鮮總督ヲシテ此上ノ權力及財力ヲ握ラシテ、自由行使ニ委シタトキニ於テハ、法理上ニアラズシテ實際上ノ憲法侵害乃至協贊權迫害ヲ結果スルコト云フコトヲ一番恐レルノデアリマス、第三點ニ於キマシテハ殖民地經營ノ方針ガ確立シテ居ラヌコトヲ憾ミマシテ、殖民地經營トシテ先ツ臺灣ト朝鮮トノ事業ノ緩急財源ノ有無ヲ計シテ、彼此ノ長短緩急宜シキヲ得セシメテ、臺灣ニ餘アレバ之ヲ朝鮮ノ事業經營費ニ投ジタイ、大綱ハ右ニ點アル、此第三番目ノ點ニ於キマシテハ所謂大勢既ニ此ノ如シト云ヘバ、十ノモノヲ十五ニシテモ盲從スルコトノ政府デアリマスカラ、餘程敬意ヲ拂ツテ御聽キニナツテラウト思フコトガアル、ソレハ政友會ニ於ケル財政上ノ豫算等ニ對シテハ一隻眼、恐ク兩眼モアルトコロノ井上角五郎君ガ、過般委員會ニ於テ此臺灣ノ經費ニ付テハ頗ル過大ナルトコロヲ認ム、之ハ能ク節減スレバ一千万圓位ノ削減ハアルデアラウト云フ見込アル、次ニ特別會計ノ濫發ニ驚ク、三十九ノ特別會計ヲ以テシテ、此財政上ノ大部分ヲ殆ド唯款アツテ項目ナキトコロノ細目ニ涉ツテ、議會ガ論議スルコトノ出來ナイヤウナル此特別會計ガ二十九モアツテハ、甚ダ遺憾アル、因テ政府ハ將來之ヲ本會計ニ繰入ルヤウ——一般會計ニ繰入ルヤウニスルコトヲ望ムト云フ意味ヲ井上君ガ言ハレタ、是ハ私至極同感デアツテ、如何ニモ豫算ヲ審議スル程ノモノハ斯ル點ニ著眼シテ、サウシテ實際ノ急所ヲ突イテ政府ヲシテ其弊ヲ改メシメルト云フコトガ肝要ナル、蓋ナガラ敬服シ且欣シテ居ルデアリマス、斯ル次第デアリマスルカ我輩今茲ニ論ズルコトコロノ點モ敢テ少數黨中ノ少數ナルガ故ニト云ツテ桂サナアタリガ此座ヲ立ツガ如キハ、自ラ揣ラザルノ至リノモノデアリマス、彼ノ大政黨中ノ大部分ガ斯ル精神デアルト云フコトヲ願ミ

タナラバ、焉ゾ知シヤ他日宰相倉皇トシテ憫ミヲ大政黨ノ軍門ニ乞フヤウナコトガ出來ルカモ知ラヌト思フ、況ヤ我輩ノ聊不備ナルトコロノモノハ此朝鮮合併ノ第一年ノ議會、而シテ朝鮮事業公債ト云フ巨額ナル經費ヲ要求スル席ニ總理大臣既ニ去リ、更ニ朝鮮總督ノ見エナイ如キニ至ツテハ、是レ聊不親切テハナイカト私ハ憾ムデアリマス、(ヒヤノ)「下呼フ者アリ」ソレ又可ナリ、大體諸君ニ朝鮮今日ノ現狀ノ概念ヲ御定メアラシコトヲ祈ルテ、今日ノ現狀ハドウ云フ風デアラカト云フト、朝鮮ハ合併サレタニ相違ナイケレドモ政治面財政面ノ有様ト云フモノハ決シテ地圖ガ赤ク染メラレタ如クニ日本ト同化シテ居ルコトハ無イテ、朝鮮ハ朝鮮デ、殆ド獨立王國——獨立ナラ宜イケレドモ其費用其入費ト云フモノハ我々ノ母國國民ノ負擔ニ歸セシメテ、無限ノ財力ヲ要求スルコトコロノ厄介ナル獨立國デ、其事情ハ細目ニ涉ツテ後ニ申上ゲマスガ、寺內總督ナル人ハ總督ニアラズシテ副王デ、是ハ西洋人ガ言ツテ居リマス「ガバナセナル」デナクテ「グアイセロイ」デアル——副王デ、實際上ノ權力ガ全ク副王ト云フモノ宜イ、日本ハ朝鮮ヲ合併シタケレドモ、第二ノ國王ヲ今造ツテ居ル、曰ク制令權、曰ク總督府特別會計、曰ク陸海軍ノ統轄、曰ク朝鮮事業公債ノ獨斷專用、之ヲ悉ク許シタル曉ニ於テハ實ニ寺內總督ナル人ハ立憲國ノ君主ヨリモ尙無檢束ナルトコロノ絕對至高ノ權力者デアリマス、朝鮮ノ經費ハ、年額四千八百萬圓而シテ一切ノ會計ハ會計法第六條ノ制裁ヲ免レテ豫算ヲ提出スルニ當ツテ、項目ニ分ケテ微細ニ費途ヲ示シテ、サウシテ議會ノ協贊ヲ經ルマデノコトナシ、唯大ザツバニ、曰ク仁川築港三百八十幾方圓ナリ、釜山築港三百四十幾方圓ナリ——釜山ト仁川ハ違ヒマシタ——ト云フヤウニ大頭ノ、大ザツバノ金高ヲ書出シタケケ、サウシテ後トノ使途ハ自由自在ニナルデアリマスカラ、其權力ハ財力ナル處ハ即チ權力ノ生ズル處、況シヤ武權ハ陸海軍ヲモ統轄シテ居ルノアル、ナカク、以テエライ權力ガゴザイマス、然ルニ今ノ人動モスレバ朝鮮ト云フ代物ノ——品物ノ好イコトハ申シマスルケレドモ、其品物ニ對スル代價ヲ吟味シタ人ハ少イヤウデアル、第一政府ハ朝鮮ト云フ品物ノ代價ヲ國民ニ對シテ知ラシメルコトハ殆ド嫌フカノ如クアル、其代價大層好イモノヲ取ツタ功名手柄顔ハ能クナルヤウデアルケレドモ、我國民ヲシテ今日如何ナル負擔ノ下ニ、如何ナル苦痛ノ下ニ、此朝鮮ヲ吞負ハナケレバナラヌカト云フコトヲ知ラシメルコト深切ナラズ、隨ツテ朝鮮ニ對スル觀念ヲ甚ダ粗末ニサセルヤウナ傾キガアル、ザツト積リマセウ、朝鮮ノ代價ヲ積リマスルト二千萬圓、恩典公債一千九百幾十萬圓、先刻委員長ノ報告ニアリマシタ通り是ハ舊韓國政府ヘノ立替金、ソレハ捧引デス、七百幾十萬圓朝鮮ノ貨幣整理ノ補助金ツレカラ一千二百三十五萬圓ト云フ年々ノ補充金、而シテ今又茲ニ事業公債法案ト云フ法案ニ依ツテ、大東ニ頭カラ五千六百萬圓ヲ擱メントスルコト、此法案デアリマス、合セテ約一億二千萬圓ト云フモノガ差詰眼前ニ見エルトコロノ朝鮮ノ代價デアリマス、ソレレハ此事業公債法案ト總豫算トハ不可分ノ性質ヲ持ツテ居ルモノデアル、既ニ總督府ノ經費トシテ協贊シタルトコロノ鐵道建設並ニ改良費八百五十萬圓ノ如キハ此法案ガ通過セズンバ一半ハ成立シテ、一半ハ成立ヌコトニナルノデ、ナカク、大切ナル是ハ法案デアリマス、然ルニ衆議院前ニ前者即チ一般會計豫算ヲ通過セシメタカラ、是モ勢ヒ此儘通ス外ナイノデアリマス、併ナガラ此案ヲ若シ否決致シマシテモ、否決ノ理由ニ依リマシテハ又之ヲ救フノ道ガアルト心得テ私ハ之ヲ主張スルモノデアリマス、其細目ニ互リマシテハ第二段ニ申上ゲマスルガ、尙一層朝鮮ノ現狀ニ對スル觀念ヲ深ク心ニ刻マレタナレバ、成程サウ云フ風ナラバ是ハ餘リ容易ク見エハナラヌト云フ其強ミヲ與ヘルコトガ出來ルト考フ、尙一層申上ゲマスルガ官僚政治ナド、云フ言葉ハ最早古イデス、今ヤ官僚政治ドコロチヤ

ナイ、官僚政治ニ高度ノ馬力ヲ加ヘタトコロ、陸軍絶對主義ノ天下デアリマス、朝鮮ヲ政權上ニ於テ母國ヨリ引離シテ、サウシテ形式ト權柄トノ一本槍ヲ以テ之ヲ治メント欲スルトコロ、朝鮮總督府ノ豫算ニ現ハレタモノニ於テ悉ク之ヲ證明スルコトガ出來マス、即チ朝鮮總督府ノ經費二百八十八萬圓、是ハ俸給、旅費、機密費等ノ一切ヲ籠メタモノナ、ソレニ加フルニ地方廳費四百三十萬圓、斯ウ計上サレテアル、之ヲザット見マシテモ朝鮮ノ如キ茫茫タル又人民ノ程度ノ低キ處ニ當ツテ、斯ク巨大ナル廳費並ニ地方廳費ヲ使フト云フコトハ、チヨット見テモ朝鮮ハ軍人或官僚ノ樂國、キタナイ言葉ヲ申シマレバ月給取ノ掃蕩カト思ヘルノデアル、而シテ之ヲ統治スルノ實力ハ何カト云フ唯一ノ「サーベ」ルテス、曰ク警務費二百八十五萬圓、憲兵補助費百五十萬圓ナリ朝鮮部隊費——陸軍省支出ノ分ハ此外テス、朝鮮部隊費二十四萬圓ナリ、合セテ四百三十萬圓ト云フ次第テス、其他ニ補助費ト云フモノガアル、即チ拓殖會社ニ補助スル三十萬圓、其他ノ補助費合セテ百四十二萬圓モアルノデス、日本ノ近狀トシテ過日窮民醫療恩賜金百五十萬圓ガ下ツタニ付テ、孰レモ恐懼措能ハザルコトハ私モ同感デアリマス、大臣大將ノ面々華族、貴族院、衆議院等ノ方、ハ此恩賜金ノ忝キコトニ恐懼スルコトヲ知ツテ、朝鮮總督府ハ此恩賜金以上ノ恩賜ヲ夙ニ朝鮮國民ニ下シ給フテ居ル事實ヲ御見通シニナルノハ怪シカラヌデス、朝鮮總督府ハ慈惠醫院費二十五萬圓ト云フモノ、年額ヲ計上シテ居リマス、此經常歲出慈惠醫院ノ二十五萬圓ト云フモノハ桂大藏大臣ノ理想トスルトコロ、年利子三朱五厘ニ合セマス、其利率ヲ以テスルト一十萬圓ノ金高ニ該當スルノデアリマス、而シテ是ハ朝鮮人民ノ窮民ノ醫療ノタメニスルトコロ、慈惠醫院費デアリマス、之ヲ賜ハル總督ノ威光、其財力ノ大ナルコトハ推測ラレドハゴザイマセヌカ、然ルニ母國人民ハドウカト云フ無殘ナル哉、チリノ貧乏ノ姿ヲ怨聲ハ日ニ高マリ、善政ハ固ヨリ期スベカラズ、セメテ虐政暴政ヲ免レンカト沙上ニ吶語シ、口耳相屬スル今日デアリマス、然ルニ折角ノ聖旨ニ對シテ、一十萬圓ノ金ヲ支出セニヤナラヌカ、サリトテ今日ノ景氣、今日ノ懷古ニ於テ、申シテハ恐レ多イケレドモ、實ニ樂デアハナイト云フノガ實狀デアリマス、ソレト此ト對照シテ見マス、如何ニモ此對照ガ奇抜デアリマセヌカ、願レバ地方ノ自治團體ノ國稅徵收費ヲ五百萬圓デアスカ知ラヌ、大政黨ノ諸君ガ五百萬圓——否ナ五十萬圓デアセウ、僅ニ五十萬圓ハカリテ此財政計畫中ヨリセリ出サント欲シテ、非常御盡力デアッタサウデス、而シテ政府ノ之ニ應マル所以ノモノハ常ニ逡巡、曖昧、曰ク財政窮乏、諸君ノ意ニ滿タサルコトヲ憾ムト云フテ哀訴嘆願シテ居ルヤウナ始末ト承ハル、然ルニ斯ルウラ寂シキ母國人民ノ有様ニ引替ヘテ對岸ノ朝鮮ハ此ノ如キ燃キタル仕事ヲシテ居ルノデス、此一事業ヲ以テ總督ナルモノ、權柄ガ如何ニ大ナルニ過グルカト云フコトハ、心象シ得ルト心得ルノデス、斯ウナリマス、遺憾千萬ナルノハ本年ノ總豫算ニ付テアル名士ガ一言ノ朝鮮合併ノ事實ガ如何ニ財政ニ影響スルカ、總督府ノ經費ナルモノハ總豫算ニ如何ナル關係ヲ持ツカト云フ點ヲ著眼點ト爲シ論據ヲ此所ニ置イテ、此豫算ヲ審議シ、大經世ノ大論議ヲ試ミル人ノナカクモコトハ、私ハ聊カ寂寞ノ感ガアルノデス、固ヨリ諸名士ハ政府ノ態度ガ所謂風靡風ヲ通サズ、俗ニ言フトコロ、緩廉ニ腕押シデアルカラ、ソレニ呆レテ絶望ノ餘リニ斯ル點ヨリシテ巨細ニ論議スルコトハナカク、アハゴザイマセウケレドモ、何レニセヨ斯ル有様ト通過シテ來マシテ、今又此事業公債金五千六百萬圓ヲムザク通ストキニ於テハ、問接ニハ朝鮮總督府ノ權力ノ過大ヲ是認シ、直接ニハ議會自ラガ監督權ヲ縮小スルコトヲ拒マナイト云フ結果ニナルノデス、諸君心シテ拜シ奉レ、李王家ノ經費ハ年額百五十萬圓

デス、此百五十萬圓ハ尊嚴ヲ保ツ上ニ付テ決シテ不足ハナカラウト拜シ奉ルノデス、然ルニ總督府ハ斯ル尊嚴ノ大ナル李王家ト對抗シ、其威嚴ヲ保チ形式ヲ保ツタメニハアラユル權柄ト形式トヲ盛ニシテ居ルノデス、即チ李王家ノ御座ルトコロ、昌德宮以上ノ總督官邸ヲ建テズンバ蟲ガ納マラナイ、人情ノ常トシテ澤山ナ入費ガ手ニアルト云フト從テ濫費或ハ驕奢ニ傾クト云フコトハ免レマセヌカ、李王殿下如何ニ賢明ナリト雖モ、左右ノ臣、侍御ノ輩ガ、或ハ濫費或ハ驕奢等ノ形跡ナシト云フコトハ出來ヌ、然ルニソレト對抗シテ世間ノ坊チヤンノ如キ調子ヲ使タトキニハ何所マデ行キマス、誠ニ底止スルトコロヲ知ラナイデアラウト思フ、事實ハ明白デス、且何ヨリ宜イ證據ニハ桂侯ノ機關新聞タルトコロ、國民新聞ガ此事實ヲ證據入トナデ吳レマス、ソレハ先達國民新聞ノ第一頁ニ朝鮮第一ノ大建築トシテ龍山ニ於ケルトコロ、總督官邸ヲ紹介シテ居リマス、朝鮮ノ文化並ニ生活程度ト云フコトヲ考ヘマシタラバ、彼ノ大建築物ハ之ヲ古ノ所謂阿房宮ニ比シテ宜カラウト思フ、亞細亞式行列政治ト云フテ宜イ、唯亞細亞式行列政治ヲ以テ本領トシテ自ラ鮮民ニ臨シテ快トスルヤウナル雅氣、其子供氣ヲ除カザル限リハ政治ニ於ケルトコロ、事務ノ簡捷政治ヲ爲スコトノ經濟的ナルコト、或ハ友官ノ能力ヲ相當ニ發揮スルコト等ハ斷シテ期スコトハ出來マセヌ、文武兼行ト云フコトハ政治ノ根柢デアリ、我國モ二千年來文武二ツナガカラ行レテ居ラケレドモ、歷史上ノ傳說或ハ事實ヲ無視シテ今ヤ唯武即チ無文ナルトコロ、政治ヲ朝鮮ニ布カント欲シテ居ルノデス、故ニ斯ル雅氣幼稚ナル虛榮心等ヲ以テ經營シテ居ルカラ事實ニ現ハレテ來タトコロハドウカト云フ、豫算面ノ數字ガ又明カニ證據立ッテ居ル、即チ豫算面ノ數字ガ公々然トシテ吾等ニ告ゲテ曰ク、廳舎新營費ハ八十九萬九千圓ナリ、官舎新營費十三萬四千圓ナリ、設備費、是ハ窓掛ダク靴脫ヲ洒落レルノデセウ、十七萬圓、而シテ韓國銀行出資金七十五萬圓、元モ子モ保護シテアルカラ、韓國銀行ニ更ニ六萬圓ト云フ補給金ヲ計上シテアルマス、而シテ寺內總督ハ韓國銀行即チ母國ニ於ケル日本銀行同様トラント欲スルトコロ、韓國銀行ノ事實上ノ總裁デアリマス、即チ兵馬ノ權力ノ大ナルコト、古今東西此ノ如キコトハ殆ド類例ナカラウト思フ、デアリマス、内ニハ即チ所得稅改正ノ公約ヲ行フ能ハズシテ、僅ニ二百圓ト云フ所得額マデ之ヲ削ルコトハ出來ヌト云ヒ、而シテ納稅滯納者ハ頻々トシテ相踵ギ、如何ニ辛抱強キ良民デモ日ニ七零八落セントスル有様、外ニハ即チ列國海軍擴張ノ趨勢ハ我國ヲ強威シテ我財政難ハ海軍擴張費ヲ以テ一層高メントスル今日ニ當ツテ、製艦費ノ如キハ僅ニ姑息、僅ニ彌縫、所謂朝三暮四スル今日ニ當ツテ、獨リ朝鮮ニ限ッテ即チ海軍ノ權力ノ普及シテ居ルトコロ、朝鮮ニ限ッテ、陸軍勢力ノ本城タルトコロ、朝鮮ニ限ッテ此ノ如キ無遠慮ニ大東ニ經費ヲ使用シ經費ヲ要求スルト云フコトハ、如何ニモ矛盾、撞著、倒行、逆施、政治ニ統一ナク、血脈ナク、人情ナキ致方デアリマスマイカ、故ニ私ハ斯ル根本觀念ヲ以テ諸君ガ私ノ今カラ細論ヲ御聽キニナルコトヲ望ムノデス、是カラ多少細論ニ入りマス(笑聲起ル)即チ本案ノ目的トスルトコロ、事業デス、其事業費ノ設定ヲ朝鮮ノ統治及朝鮮ノ中ノ經營内地方經營ノ現狀ニ照シマシテ、其事業費ノ當不當、或ハ緩急等ヲ考ヘテ、其不急ノ理由ヲ此所ニ證據立テルノデス、第一今日ノ朝鮮ノ道路ト云フモノハ官本位デアッテ民本位デナイ、道ハ道ナリテ多クノ民ガ歩ルコトヲ本位トシナケレバナラヌ、御役人ノ歩ルコトヲ本位トシテ居ル證據ニハ、折角拵ヘタ道ガ草茫ヤトシテ居ル、ソレハ朝鮮ノ「ヨボー」ガ即チ「ヨボー」ト云フノハ農民デス、御存知デアセウ其「ヨボー」ガ農繁ノ時期ヲモ願ミズシテ其草ヲ取ラシテ居ルノガ現狀デス、然ルニ今日此五千六百萬圓ノ事業資

金トシテ、其中一千万圓ヲ道路費ニ充テ、アルノデゴザイマス、併シ是等ハ敢テ臨時費中ノ臨時費トシテ要求セズトモ、經常費トシテ使フテ宜シトモ思フ、第二ニハ總テ經營スル經營ハ官營主義ノ修理專門ナリ、而モ一氣可成ノ官營壟斷ノ方針ニ...

○鈴木力君 御幸抱下サイ 官營壟斷ニ狂奔スル方針アリマスケレドモ、ソレヲ抑制シテモト人民側カラ仕事ヲ始メテ發展ノ氣力アル人民ヲ多ク植付ケテ日本人民ノ部落ヲ作ルコトヲ專一ニセネバナラス、即チ農業地デサウシテ今ヤ商業中心點トナリ...

ニ移住シテ、斯ル土地ヲ經營シタノデス、此種ノ日本人ノ發展ノ氣力アルモノガ彼所植付ケルコトヲ專一ニシテ貫ヒタシ、拓殖會社ノ如キガ常ニ世上ノ非難ヲ被ルノハ壟斷ノ志アルガタメ、而シテ個人ト云フモノヲ認メズシテ、大東ニ自分達ガ仕事スルコト...

リヤリ居ルタメニ反對ヲ受ケテ居ル、其證據ニハ拓殖會社ニ限ラズ、此總督府ガ鐵道ヲ經營スルヤ釜山ヨリ京城マデノ運賃ハ長距離ニ付テ一哩一錢ノ割ニ二百七十四哩然ルニ...

ツレヨリ少シ短距離ナル處ハ一哩二錢ニテ居リマスガ、仁川ノ如キモ釜山カラ貨物ヲ吞吐サレタルニ寂レテ來タ、此京釜鐵道ノタメニ最モ打撃ヲ受ケタハ仁川デス、是等モ鐵道運賃率ノヤリ方如何ニ依テ仁川ヲ救フコト難カラズ、然ルニ政府ハ當然爲シ得...

ルトコロノ右様ノ運賃率等ノ方ヲ度外視シテ置イテ、曰ク仁川築港ニ三百四十萬圓ヲ投シヤト云フノデス、是等モ緩急ヲ課シテ居ル、本末ヲ誤ラシ居ル所以デス、第二ニハ先進國民ノ殖民地經營ノ歴史ニ則テ學術及實際ノ二方面ヨリシテ天然富源ノ開發並ニ其順序ヲ定ムルコト云フコト云フ、此點ヨリ見マス、朝鮮ト云フ國ハ山ハ禿山デ、川...

ハ洪水ヲ來シ、道路ハ道路ノ如クシテ道路ナラズ、畑ガ變テ竹林ニナルコトモアルヤナ土地デアル、是ハ皆サシ御存マテアル、然ルニ今此禿山ニ植林スルコトヲ先キトセズシテ、川ヲ治メルコトヲ先キトスルコトノ不可ナルコトハ、三尺ノ童子ト雖モ分ツ居ルコトアル、又委員會ニ於テ荒井度支部長ニ說明ヲ請ヒマシムルトコガ、ソレハ地質學上...

ノ調査並ニ氣象學上ノ調査ガ朝鮮ノ經營ニ付テ出來テ居ルカト云フト、荒井政府委員ハ寔ニ誠實ニ極ク丁寧親切ニ答ヘラレマシテ、本員大ニ満足シテ居リマスガ、實ハ御存ノ通りテ未ダ十分ト云フコトニハ至ラズシテ、併シ朝鮮經營ノ急ナルヤ悉ク其成立ヲコトヲ待ツテ居ラレヌカラ、先テ取急ノ分ヨリ經營ヲ致スト云フコトノ御話...

ゴザリマシテ、其點ハ或ル程度マデハ之ヲ諒ト致シマスケレドモ、道路ノ如キ一千万圓ヲカケテ未ダ足ラヌ、更ニ一千万圓モカケテ前途イカヌト云フ道路デアリマス、是等ノ道路ヲ輕々ニ經營サレタノハ是ガ濫費ニ陥ルコトヲ本員ハ最モ恐ル、尤モ是ニ付テハ委員會ニ於テ道筋ハ幾本、而シテ幾百哩ト云フ豫算デ、サウシテ其中ノ何處...

何處々ト云フテ一週ニ出サレテハ分リヤウガナシ、ヤハリ所謂特別會計ヲ廢シテ一般豫算ノ如キ方式ヲ以テ出サレナイデハ、之ヲ審議スルニ甚ダ當感、ソレカラ鐵道及港灣ヲ築グコトハ軍國の見地即軍國主義即總督府ノ威容ヲ張ルトコロノ土木主義、ソレ等ノ大キイコトヲ致シマスカラ之ヲ抑制シナケレバナラス、抑制シナケレバナラス、例ヘハ棉花ノ栽培ハ南朝鮮ニ於ケル有望ナル事業ト既ニ是認サレテ居リマシテ、ソレニ付テハ...

宜イト云フコトハ實業家ノ頻リニ望ムテ居ルトコロデス、然ルニ此元山京城即チ京元線ト云フ鐵道ヲ先ニシテ、群山平壤間ノ鐵道ヲ後ニシタ如キハ開發ト云フ上カラ云フト、尙遺憾デゴザイマスガ、此所京城ヲ中心トスルト云フ中ニハ總督府朝鮮官...

府威嚴中心ト云フコトデス、是ガ含マレテ居ルト云フコトヲ、忘レテハナラス、即チ亞細亞中心ト自衛ヲ基トシタノデハ、面白クサナシ、現ニ群山ノ人民ノ如キハ、斯ル大金ヲ投シテ仁川及釜山ノ築港ヲヤカマシクナサナシ、群山地方ヲ顧ミヤル理由ハ如何...

ニト云フコト、頻リニ躍起運動ヲヤシテ居ルト云フ次第デアル、(「簡單キヤ」呼フ者アリ)此場合ニ於テ簡單ヲ望ムルハ多分其人ハ電車ニ乘テ停電ヲ望ム人デアラウ、ナカノ...

重大デス、私ハ唯空論ノ論デハアラス、事實ヲ舉ゲテ尙諸君ノ視聽ヲ導カシテ御目ニ懸ケメセウ、世ニ云フ鎮南浦ニ大事業ナルモノガアル、斯ル四圍ノ狀況ヲ知ラズニ...

漫然ト協贊スルコトガ、即チ新聞デ能ク書イテアル官從ナシテ、鎮南浦トニ大事業トシテハ停車場附近ノ百万坪ノ埋立ト云フコトガアル、是ハ李完用ト云フ人ト大倉組トガ...

結託シテ、李四歩、大倉ニ歩利利益配當ノ契約書ヲ作シテ、サウシテヤテ居ルデス、諸君ハ五十萬圓位ノ金ヲ政府カラ 財政上カラ取出セヌト言ウテ騒イテ居ルガ、百万坪ト云フモノハ十兩坪ニシテ一千万圓デス、埋立費用ヲ差引イテモ百万乃至六七百万...

ノ利益デセウ、ナカノ、小サイコトデハアリマス、サウ云フ利益アルモノコト、官營ニシテホシト云フ注ニ朝鮮ノ經營ヲ審查スル上カラ言ヒマスル利益アルモノコト、官營ニシテホシト云フ注...

文モ持出サレル次第デス、次ニ製鹽事業、天日製鹽ト云フコトハ總督府ガ昨年行ツタ百二十萬ノ資本ヲ以テサウシテ二億斤ノ製鹽ヲ積アツタトコロガ、昨年ノ水害デ是ハ...

大失敗ヲ來シテ六十萬圓ノ損害、尤モ其原因トシテハ支那地方カラ鹽ノ密輸入ガアツタト云フ事實モアリマシタ、又製鹽ノ新シイ簡便ナル方法ガ發明サレタメニ、天日ト云フコトニ損害ヲ與ヘタト云フ點モアリマス、併シ是等モ朝鮮經營ノ上デハ見道スベカ...

ラザル點デス、私ノ言フコトハ餘リ輕シタ大金ヲ經營ニ投シサレルハ餘程檢束ヲ加ヘ、監督ヲ以テ之ヲ與ヘネバナラスト云フコトデス、是ガ大趣意デアリマス、マデアリマス(「簡單」呼フ者アリ)ソレカラ漁業 漁業ニ付テモ内地ノ漁民ト、朝鮮ノ漁業トノ間ニ...

リ)同シヤウナ頗ル類似ノ點ガアリマスルガ、此人造牆壁ヲ撤去スルコトヲ努メ、即チ其中ノ主ナル問題ハ言論ノ抑壓ヲ防遏セシヤイカヌデス、此朝鮮ノ商業關係ナルモノハ大阪ノ諸新聞ハ動トモスルト朝鮮ニ入ルコトガ出來ヌ目ニ逢フ、一番肝腎ナ大阪ノ新聞ガ朝鮮ニ入ルコトガ出來ヌ、輸入ヲ禁止サレテ居ル、而シテ唯一ノ德富蘇峰先生ノ主宰スルトコロノ御用新聞ガ朝鮮ニ跋扈シテ、其他雜誌等ニ於テモ朝鮮ヲ發行スルコトヲ云フ、ナカクニ種々ノ迫害ガ生ジテ來マシテヤリニクイ、ソシテ風デハイケマセヌカラシテ、私ノ言ウトコロハモトモト工商業者ノ情義ニ通シテ、商人ト云フモノ、性質ヲ能ク知ツテ、軍人的デナシニヤルニハ、衆智衆力ヲ請ヒニヤラヌ、ソレニハ先ヅ言論ノ抑壓ヲ止メテ、衆智衆力ナルモノハアラユル新聞雜誌等ニ依テ吸收スルコトガ出來ルノデアルカラ、此方針ヲ以テ進マナバナラヌト云フコトモアル、今ノ儘テ往トコロノ政治ニ金ヲマダ此上ツツ込ムト云フコトハドウシテモ不利デアラウト考ヘル、ソレカラ第九、一部ノ朝鮮貴族竝ニ日本ノ大御用商人等ニ濫惠實思スル、惠ヲ濫ニシ恩ヲ賣ルコトヲ差控ヘテ、サウシテ人民直接ノ利害休痛、痛痒ヲ本トシテ政治ヲヤルヤウニシテ貫ハネバナラヌ、又總督府ニヤダラニ經費ヲ差出スコトハ不利ト云フコトモアル、事實ヲ申上ケマスルコト云フト前政府ノ各大臣ニ對シテ先達二十萬圓ト云フ金ヲ惠マレタ、ソレハ李王家カラ出スコトニシテ惠マシタデス、ドウ云フ理由デアッタカ知リマセヌガ、李完用ノ如キハ内五萬圓ヲ頂戴シタデス、然ルニ是ハ李王家ヨリシテ如何ナル方法デアラウカ知リマセヌケレドモ、其實金調達ノ際日韓瓦斯林式二千二百株ト云フモノハ、李王家ヨリ市場ニ賣出サレタト云フ事實ヲ私ハ承知シテ居リマス倍テ其コトノ善惡ヲ茲ニ言ヒ且之ヲ彈劾スルノデハナナイ、總督府ノ諸官、總督ハ固ヨリ清廉潔白ノ人デアツテ、何等此處等ノ關係ハナナイノデス、キタナイ關係ナドアラウト云フコトヲ句ハセヤウト云フ氣ハナイ、決シテナシ、併シソシテ方ニハ非常ニ力ヲ盡シテ居ル、ケレドモ何方面即チ朝鮮農民ノ痛痒ニ對シテ、ドレダケノ注意ヲ與ヘテ居ルカ、一部ノ朝鮮ノ大官竝ニ御用商人等ニ付テハ斯クマデ——李王家ノ經費中ヨリ金ヲ出シテマデ惠マレケレドモ、一般農民ノ痛痒ニ對シテハ冷淡ヲ、例ハ朝鮮人ハ糊ヲ摺ル機械ヲ使フコトヲ知ラヌ、ソレカラ又金ノ乏シキタメニ青田ナリニ商人ニ賣ル、ソレカラ又本當ニ乾シ上ケヌ中ニ米ニシマスルカラ非常ニ物ガ粗惡ニナル、價モ從ツテ廉イ、是等ノ點ニ對シテ農業獎勵團ト云フヤウナモノモ、拵ヘマシテ、日本ノ近頃特許等ニ全國トコロノ粉磨機械等ヲ補助シ、或ハ廉イ金ヲ以テ貸スト云フヤウナコトデモシマシテ、全國ヨリ眞ニ農事改良ノタメニ朝鮮農民ニ說イテ廻ル等ノコトハ、如何ニモヤツテ欲シイコトデアリマスル、ケレドモ總督府ハ大ナル上ハカリニ汲々トシテ、仕事ノコトハ細カキコトハ甚ダ冷淡ナモノデス、諸君道路開鑿ヲ築港ハ之ヲ請負フ者ハ大ナル御用商人デアアルカラ彼等ハ本案ノ成立ヲ大ニ望シテ居ルカモ知ラヌ、ケレドモ日本内地デアツテモ大濶ノ築港ハ僅カ數十萬圓位デ足リルカモ知ラヌト云フ噂デアリニモ拘ラヌ、之ガ成立シ、遲々ノ築港ハ僅デアアル、又越前ノ敦賀、浦津カラ船ノ著ク敦賀、此處ニ西伯利亞鐵道カラ直通テ歸ッテ來ルルガ、敦賀ニ泊ル處ガナイカラト云フ、米原アタリマテ來テ泊ル處デアリマス、是等ニ對シテ何等ノ設備ヲ爲ス計畫モナケレバ、又財源アタリマテ來テ泊ル處デアリマス、是等ハ右申ス通り極ク自由ヲ築港乃至鐵道此等ノ速成ガ出來ル、第十條ニシテハ浮華虛張ヲ以テ外國旅客ノ泡沫錢ヲ迎合シ——アツク錢ヲ迎合シ、又外面ノ經營ヲ以テ外資吸收ノ手段ニ供セテ欲スル滿鐵詭策——今日後藤大臣ハ見エマセヌガ、滿鐵式詭策ト云フコトガアル、ソレヲヤラヌ、翻ッテ經濟ノ理法ニ忠實ナルコトヲ私ハ望ム、ソ

レガ出來ヌカラ事故漫ニナツテ、事業ノ本末ヲ誤ルト云フコトヲ憾ムノデス、即チ滿鐵ノ現狀ハ長春「ホテル」、旅順「ホテル」、大連「ホテル」、——大連「ホテル」等ハ必要デアリマスケレドモ、旅順「ホテル」、ハ殆ド裝飾ノ道具ニナツテ居ル、サウシテ曰ク、外人ニ對シテ是マデ立派ニシテ置カケレバナラヌ、外國人ヲ此處ニ遊バセテ外國人ノ金ヲ取ラネバナラヌト云フコトヲ本位トシテ裝飾ノニヤツテ居リマス、是等ノヤリ口ヲ稱シテ私ハ滿鐵的ノ詭策ト申シマス「キ」ハ詭辯ノ詭テス、即チ大連ニ電車ガアル、大連ノ電車ハ不思議ナル電車デアツテ、人ノ乘ラナイ電車偶々乗ッテモ一人カ二人シカ見受ケマセヌ、人ハ乘ラヌデモヤタラニ驅廻ツテ居ル、迴レバ景氣ガ好イト云フ、是等ガ即チ外國人ノ眼ニ對シテ大連ノ經營ヲ大層大キク見セテ而シテ外資輸入ノ一手段ニ供セント欲スルノデス、斯ルコトハ平田内相等ガ御覽ニナツタナラバ、戊申詔勅乃至報德講ノ論ナド、ハ如何ニ隔ツテ居ルカト云フコトヲ必ズ血涙ヲ振ッテ御怒リニナルコトデアラウト思フ、第十一ハ朝鮮ノ統治及經濟獨立ノ範ヲ臺灣經營ニ取ツテ、漫然トシテ獨立ヲ空想スルコトヲ戒メ、朝鮮ト臺灣トノ天然ノ相違ヲ諦メ以テ獨立的、王國的、總督政治ヲ課マレル觀念ヲ翻ハスベシ、動トモスルト總督府ハ朝鮮經營ヲ臺灣ノ如クスルノデアアル、即チ制令權モ六三號ト同意味デアアル、朝鮮モ今事業公債ヲ募ツテモ、臺灣ノ如クナツテ、收支相償ツテ獨立スルコトガ出來ルノデアアルト云フノデス、然ルニ是ハ大ナル誤リ、臺灣トハ地勢ガ違フ、地味ガ違フ又臺灣ニハ政治上ノ關係ガ違フ、ドノ方面カラ見マシテモ天然ノ富源ノ盛ナル臺灣ト、茫々タルナカク、開發ニ困難ナルトコロノ朝鮮トハ之ヲ一律ニ曰フ同ウシテ論ズルコトハ出來ヌノデス、之ヲ詳シク言ヒマスルト云フト餘リ長クナリマスカラ今日ハ略シマスガ、私ハ之ニハ論據ヲ持ツテ居ルト云フコトヲケテ此處ニ言明シテ置キマス(「モウ好イ加減ニヨシテ吳レ」ト呼ブ者アリ)ソレモウ少シ分リ易ク話ヲシマセウ、朝鮮ハ例ハ貧乏人ノ貫ツタ麥粉菓子ノ如キモノデアアル、麥粉菓子ヲ貰フノハ子供ハ之ヲ喜ブケレドモ、貧乏ノ親ハ砂糖ガ澤山要ツテ非常ニ弱ルノデアリマス、此邊ナラ通用ガ宜イデセウ、以上十一箇條ノ理由ニ依ツテ之ヲ綜合シテ撰テ省ミテドウナルカト云フ、私ノ論ノ歸著ハ今日ノヤリ口ヲ此儘是認セザルタメニ先ヅ事業公債法案ヲ否決シテ、若シ必要已ムヲ得ベカラザル經費アラバ、更ニ追加豫算ヲ以テ要求シテモ宜シイ、但之ヲ特別會計ニセズシテ、本會計ニ打入レテ、サウシテ臺灣ト朝鮮トノ財源ノ緩急ヲ圖ツテ、臺灣ノ有ラ朝鮮ノ無シ通ジテ、サウシテ財政ノ基礎ヲ鞏固ニセヨト云フノデス、ソレニ付キマシテハ臺灣ニ果シテワレダケノ餘裕ガアルカト云フコトヲ調ベマシテ、私ハ確ニアルト云フ證據ヲ持ツテ居リマス

(副議長肥塚龍君議長席ヲ退キ、議長長谷合場純孝君議長席ニ著ク)

○鈴木力君 臺灣總督府ノ歲計剩餘金ヲ割キ得ベキ見込、其證據デス、ソレハ臺灣總督府ノ經常歲入三千七百九十圓ト云フ、之ハ内地稅即チ地租關稅等ト竝ニ官業及官有財産收入竝ニ印紙稅等ノモノデアリマス、非常ニ確實デス、而シテ多大デス、而シテ經常歲出部ニハドウナルカト云フ、二千五百七十五圓、此經常歲出部ノ費目ヲ考ヘレバソレハ臺灣ノ政治ハ大體出來ルト云フコトガアル、即チソレハ總督府費、法院費、地方費、警察費、監獄費、醫院費、國語學校費、中學校費、高等女學校費、稅關費、通信費、鐵道作業費、專賣局費、農事試驗場費、一般會計繰入金、地方費補助、豫備金等一切包含シテアルデス、是ハ臺灣ノ政治ハ出來ル、是ハ豫算ノ款項目ヲ御覽ニナレバ、大抵推測シ得ル、然ルニ今ノ歲入ノ確實ナルモノヨリシテ之ヲ

差引キマスト、差引キ千百三十二万圓ト云フモノ、剩餘ガ出テ來ル、之ヲ母國財政ノ一般會計ニ繰入レテ繰入レラレナイコトハナイ、然ルニ特別會計ノ因襲日久シキタメニ議會ト、乃至國民ト臺灣トノ距離ガ遠クナツテ、彼ノ地ノ實情ニ餘リ直接セヌガタメニ我々初メ議會ノ耳目ガ誠ニ此經費ニ切入テ審査スルコトニ迂濶ニナツテ居ル、ソコデ臺灣ガ治外法權 獨立天地ノ傾キガアツテ現ニ唯今決算委員會問題ニナツテ居リマス、鐵道敷設金ガ二十三萬圓ハカリ殘タト云フテ、之ヲ皆ノ慰勞金ニ分取リラシテ、會計検査院ガ之ヲ否認シタル事實ノ如キハ、最モ臺灣ノ現狀ヲ證明シテ居ルノデアリマス、斯ル有様デアリマスカラ必ズ茲ニハ餘裕アリト大體認ムルコトガ出來ルノミナラズ、此度ノ豫算ニ現ハレトコロノ總督府ノ事業ノ名目ヲ見テ見マスルト、臨時費トアリマスル中ニ相變ラズ不急ナルコトガ多ク、即チ金ガ餘ルカラシテ其餘ツタ金ヲ如何ニ使フカト云フコトヲ名目ヲ考ヘルコトガ先テアル、此事ガ必要ナリト云フコトガ根柢ニナツテ居ラヌト云フコトハ、歴々トシテ讀ムコトガ出來ル、即チ第一ニハ總督府廳舎新營額四十萬圓、總督府官邸改良費六萬圓、第三、新營費九十一萬餘圓——新營費——新ナルイトナムノ費、跡ハ何モ書イテナイ、唯漠然トシテ新營費九十一萬圓、臺北市區改正費十萬圓、打狗市區改正費二萬圓、舊慣及法案調査費六萬圓餘、此等ハ此三項ノ如キハ經常費中テ支辨スル餘地ガアル筈ノモノデアアル、右六口合計百五十餘萬圓、是ハ一日シテ不急ノモノト知ラレル、尤モ此外ニモ阿里山問題二百萬圓等モアリマスガ、此等ハ嘗テ問題ニナリマシタガ、此等ノコトハ一向手ヲ觸レズニ右ノ如ク割出スコトガ出來ルデス、次ニ驚クベキハ勸業費ノ款テ唯漢乎タル勸業補助ト云フ項ヲ以テ掲ゲマシテアルガ、二百四十一萬餘圓デス、此等ノモノハ經常費ノ方ノ地方補助費ニ十分取ツテアル以上ニハ、是ハ削減ノ餘地十分アルモノト考ヘラル、第三ハ理蕃費三百三十三萬圓、此大部分モ亦削減シ得ルコトガ出來ルト云フ考デス、第四ハ——此年ノコトハカリヂヤナイ、第四ハ航海補助費九十一萬餘圓中ノ大部分モ整理シマスレバ之ヲ假ニ半額減スルトシテモ二百萬圓ハ出テ來ル(簡短ニ願ヒマス)ト呼フ考アリ)其外水利事業費百二十萬圓、打狗築港費百六萬圓、臺東鐵道建設費五十萬圓、此中カラ整理シマシテ繰延ベキモノヲ繰延ベタナラバ、或ハ是モ三分一位ハ減ズルコトガ出來ルダラウト思ヒマス、然ラバ茲ヨリモ百萬圓ハ產出スコトガ出來ル、(簡單)ト呼フ考アリ)之ヲ簡單ナドト仰シタル諸君ハ鐵道建設ノ建議案乃至臺灣等ヲ十分各地ノ人民ノ情誼ニ訴ヘテ御通過ニナツテ居ル、非常ニ御熱誠デヤツテゴザルカ、是ノ財源如何ト云ヘバ同シ身上ノモノデアツテ、右ニ厚ケレバ左ニ薄クナルコトハ當然ノコトデス、是故ニ財政ノ根本基礎ヲ固クシテ、彼ニ厚クシテ此ニ薄キヤウナコトノナイヤウニスルニハ、斯ル削減シ得ベキトコロニハ切込シテ、サウシテ剩餘金ヲ殘シテ置イテ始メテ今マデノ諸君ノ鐵道建議ハドウカ活キテ來ルダラウト思フ、ソレヲセズシテ諸君ノタメニ忠ナル此言論ニ簡單トハ諸君御土產鐵道案ニスラモ不忠ナルモノト心得マス、(ヒヤ)ト呼フ考アリ、笑聲起ル)此ノ如クシテ通計九百萬圓ハカリト云フモノハ臺灣ノ經費中ヨリ取出シ得ルト云フ考デ、サウシテ之ヲ朝鮮事業費ニ入レル心組ニシテ、一方ハ更ニ一般會計ヨリシテ公債ノ七百萬圓モ之ニ加ヘテ、今二千四百萬圓ノ補充——公債ノ補充金ト兩方テ要求シテアルノデ、責メテ一千七百萬圓位ニテモ之ヲ節減シテ、始メテ總督府ヲシテ此過大ナル權力ヲ制限セシムルコトガ出來ヤウカト云フハ希望デス、併シ今日ノ如ク臺灣ハ既ニ金ヲ澤山入レテ、餘裕アル財政ニナツテ居ルガ、金ハ餘ツテモ此方ニハ澤山

ハ融通セヌ、臺灣ハ臺灣デヤツテ往クンダト云ウテ飽マデモ積極的ニヤツテ、一方ハ母國人民ガ窮苦ヲ訴ヘテ居ルニモ拘ラズ之ヲ顧ミズシテ、朝鮮ニ無限ノ金ヲ投ズルト云フコトハ政治ト云フモノ、上ノ道ヲ誤シテ居ルモノト考ヘル「分ツタ」ト呼フ考アリ)更ニ軍事上外交上ヨリ大體ヲ觀察シマスルニ(笑聲起ル)「ヤレ」ト呼フ考アリ)「ヤレ」ト呼フ考アリ)存知ナイカモ知リマセヌガ、今日ノ總督府ノ權威ヲ冒シテ出テ居ル總督府ノ權威、將又總督府ノ權威ニ限ラズ、陸軍主義ノ天下ト先刻申シタル通り如何ニ此權力威勢ノ烈シキヲ願ミタナラバ、茲ニ立ツ吾輩ハ普通ノ覺悟決心デハ立テヌト云フコト位ハ御承知デナケレバナラヌ、ソレヲ漫然トシテ御聽キニナルノハ、甚ズ不親切デアラウ(笑聲起ル)軍事上、外交上ト云フノハ何デアアル、曰ク支那ハ戰フ能ハズ、露西亞ハ戰ハズ、日本ハ戰フベカラズ、當分ノ間ハ此三ツヲ以テ原則トシテ居ッテ差支ナカラウト思フ、故ニ築港事業ノ如キモ、鐵道事業ノ如キモ、徒ラニ軍國主義ニ逸ッテ前後緩急ヲ觀ミズシテ採擇スルト云フコトハ、根本ニ於テ宜シクナイ、是ハ大體論デス、今日ノ儘デ此朝鮮總督ノ權力過大ヲ是認シ、而シテ此儘デ推移タナラバ、諸君今ニ御覽ナサイ、關東都督府兼朝鮮總督——都督兼朝鮮總督、而シテ滿洲ト朝鮮ニ對スル經費ハ益々張ルベカリデス、而シテ諸君ガ如何ニ所得稅改正案ヲ出サウトシテモ——出シテモ更ニ行フベキ餘地ナシ、先ツ金ノ無暗ニ掛ル方ノ口ヲ押ヘズシテ、サウシテ、財政ヲ救ハウト欲シテモ無理デス、是故ニ吾輩ハ其元ヲ救フ、其本ヲ正スノ意味ニ於テ、是非ナク本案ニ反對スルノデス、若夫レ總督ノ行政等ニ對スル——關スルコトハ多少直接ナラザル——本案ニハ直接デアナイヤウナルトコロノコトマデ論及シマシタケレドモ、是ヲ云ハハ朝鮮ノ光景ガ明カナラヌ、ソレガ頭ニ入ツタ以上ニハ今日ノ如ク陸軍天下デ、何等文官ノ力、文章ノ力衆智衆力ト云フコトヲ認メナイトコロノ政治デ、如何ニシテ此朝鮮ガ治メラル、カ、乃至此財政將來ノ發展上ノコトガ往ケルカト云フコトハ到底絶望デアルト云フコトハ御分リニナルダラウト思フ、吾輩ハ此見地ヨリシテ反對スルノデアリマシテ、固ヨリ本案ノ運命ハ定マツテ居リマスケレドモ、願クハ茲ニ發シタル此言ヲシテ鄰ニ貴族院及樞密院モゴザイマス、竝ニ天下茫茫タリト雖モ、マダ「立國ノ大本ヲ忘ル、乃至リマスマイカラ、天下ノ識者、乃至新聞有ラユル人民ノ誠ノ心アツテ國ヲ憂フル人ニ訴ヘルノデス、即チ今日ハ甚ダ御清聽ヲ煩ハシテ濟ミマセヌガ、我輩ノ精神ニ對シテ御同情アラント祈ルノデス(拍手起ル)

マスガ、總理大臣ハ御出席ガ無イノデアリマスカラ、議長ニ於テ御取次ヲ願ヒタイノデアリマス、其主意ハ……

○議長(長谷場純孝君) チョット御断リヲ致シテ置キマスガ、質問ノ御取次ハ議長ハ甚ダ迷惑ヲ感ジマス、質問ヲ總理大臣ニ向ッテナサルナラバ、ヤハリ議院法ノ規定ニ依ッテナサルノガ、相當カト思ヒマス

○日向輝武君 ソシナラバ總理大臣ノ出席ヲ要求致シマス、御取次ヲ願ヒタイ
〔ヒヤ、ソレガ順序ダト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 日向君ニ御諮ラ致シマスガ、總理大臣ノ答辯ニ依ッテ贊否ヲ決セラレレノデアリマスガ、然ラズンバ議事ハ進行サセタイト思ヒマスガ、今總理大臣ニハ使フ遣ッテ居リマスカラ、何トカ返事ガアリマセウケレドモ……

○日向輝武君 黨議ニ從フコトハ無論從フノデアリマスガ(鈴木力君、議長ハ何デス、私話ヲナスベカラズト呼フ)總理大臣ニ是非承ハラナケレバナラヌ問題ガアルノデアリマスカラ、御出席ヲ要求シタノデアリマスガ、今マデ出席ヲ要求致シマシテ御出席ヲ要求セラレテ閣臣ガ是ニ列席スルマデ毎回必ず待ッテ居ルニ、本員ノ要求ニ對シテ獨リ議事ヲ進行スル理由ハナイト思ヒマス

○議長(長谷場純孝君) ソレデ御諮ラ致シタノデアリマス、ソレナラバソレデ宜イ議長ハ私話ヲスルト云フコトデスガ、議長ハ決シテ私話ハ致シマセヌ

○日向輝武君 ソレナラバ宜シウゴザイマス

○菅原傳君 此問題ハ重要ナル問題デアリマス、且又既ニ質問ヲ望マル、議員モアルノデアル、桂首相ノ出席ヲ求メテ質問ヲ致シタイト云フ議モ起ッテ居ルノデアリマス、旁、此問題ハ延期セラレントノ動議ヲ提出致シマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 併シ御諮ラ致シマスガ、今總理大臣ニハ使ラヤッテモウ追付來ルカ來ナイカガ分リマス、ソレヲ待タズニ延期スルト云フノデアリマスガ、若シ來ナケレバ延期スルト云フノデアリマス

○菅原傳君 左様デアリマス

○議長(長谷場純孝君) 宜シイ
〔延期贊成ト云フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 今返事ガアリマシタ、公務ノ都合ニ依ッテ出席シ難イト云フコトデアリマス、サウスルト菅原君ノ動議ニ付テ御諮ラ致シマス、菅原君ノ動議、延期ト云フコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナイト認メマスカラ、日程ノ第十七、第十八、第十九、是ハ延期致シマス——日程第二十二、輕便鐵道法中改正法律案、吉植庄一郎君外二名提出、第一讀會、議案ノ朗讀ハ省略致シマス

第二十三 輕便鐵道法中改正法律案(吉植庄一郎君 第一讀會 外二名提出)

輕便鐵道法中改正法律案
第五條中「私設鐵道法」ノ下ニ「第九條第二項」ヲ加ヘ左ノ但書ヲ加フ

但シ第九條第二項ノ規定ハ私設鐵道株式會社ニ非サル會社カ兼業トシテ輕便鐵道ヲ敷設スル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
○吉植庄一郎君 此場合提出ノ主意ヲ述ベマス、是ハ極ク簡單ノ案デアリマシテ輕便鐵道會社ニ向ッテモ普通ノ私設會社ガ受ケテ居ル通り拂込資本金ノ十分ノ一テ事業ニ著手スルコトガ出來ルヤウニシタイト云フ案デアリマス、唯ソレダケノ簡單ナル案デアリマスカラ是ダケ申シマス

○菅原傳君 本案ハ議長指名九名ノ特別委員ニ付託セラレントラ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名ノ特別委員九名ニ附託スルコトニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、日程第二十四、鐵道敷設法中改正法律案吉田虎之助君外二名提出第一讀會、議案ノ朗讀ハ省略致シマス、吉田虎之助君

第二十四 鐵道敷設法中改正法律案(吉田虎之助君 第一讀會 外二名提出)

鐵道敷設法中改正法律案
第二條第一項近畿線ノ部第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一 滋賀縣下大津ヨリ西近江路ヲ經テ福井縣下敦賀ニ至ル鐵道
〔吉田虎之助君登壇〕

○吉田虎之助君 提出者トシテ簡單ニ提出ノ理由ヲ述ベマス、此案ハ滋賀縣大津驛カラ分岐シマシテ西近江路ヲ越ヘ福井縣敦賀ニ參ル鐵道ノ線路デアリマス、此線路ヲ敷設法案中ニ入レナケレバナラヌ理由ハ三ツアル、ソレハ沿道ノ開發ナリ、ソレカラ軍事ノ關係ナリ、交通運輸ノ便利ト云フコトニ付テ是非此法律案ニ入レナケレバナラヌト云フ理由ガアルノデアリマス、第一ノ沿道ノ開發ト云フコトニ付キマシテハ、御承知ノ如ク滋賀縣ノ西近江路ト云フモノハ交通ノ極ク不便ノ所デアリマシテ、高島郡ノ如キハ縣下中ノ大面積ヲ有ッテ居ル郡デアツテ、米ニ於キマシテハ高島米ト云フテ有名ナ米カ澤山出ルトコロデアリマス、又石村下ドモ庭石ノ守屋石トカ、或ハ高島硯、或ハ炭、材木等ニ付テ非常ニ物産ノ豐富ノ場所デアリナガラ、僅ニ大湖汽船會社ノ寄港シマスバカリデアリマスカラ、一朝風波ノアリマシタ場合ニハ、港ニ積堆スルトコロノ貨物ト云フモノハ非常ナモノデアツテ、人民ガツレガタメニ難澁スルト云フコトハ實ニ想像以外ノモノデアルノデアリマス、又此ノ如キ處デアリマスカラ、之ニ汽車ヲ著ケテ其物産ヲ開發スルト云フコトニ付テハ是非シテ戴カナケレバナラヌト思フノデアリマス、又其沿道ノ景色ニ於キマシテモ西近江路ハ極ク景色ニ富ム處デアリマシテ、唐崎ナリ、坂本ナリ、堅田ナリ、近江舞子ト云ハレテ居リマス小松濱ナリ、藤樹書院ナリ、イロノ名所ガ澤山アル、而シテ其名所ハ不便ナタメニ誰モ往ク人ハナイノデアリマス、僅ニ小口ノ唐崎ト坂本ダケハ近頃外國人ガ大分往クヤウニナリマシテ、其落シテ往ク金毛澤山デアリマス、若シ此鐵道

〔四六〕

ヲ作リマスレバ滋賀縣ノ西近江路ノ風景ト云フモノハ非常ニ世界各國ニ鳴響クダラウト
思ヒマス、是ガ第一ノ本鐵道ヲ敷設シナケレバナラヌ理由デアアル、次ニ軍事上ノ關係デ
ゴザイマスガ、此高島郡ニハ響庭野ト云フ野原ガゴザイマシテ、是ハ關西唯一ノ砲兵演
習地ニナツテ居ル、ソレデ關西地方ノ陸軍ノ砲兵ハ大抵此處テ演習スルコトニナツテ居
ル、又此鐵道ニ依ツテ十六師團ト敦賀旅團トノ聯絡ヲ付ケル上ニ於テ、極ク必要デア
テ、軍事上カラ云ウテモ此鐵道ハ必要デアリマス、又交通運輸ノ點カラ言ヒマシテモ、
唯今敦賀港ニ出入致シマス貨物ハ、大阪デ集積ラシテ居ル、此途ハ湖東線ヲ回リマス
ト、丁度二十哩近クナルデアリマス、此三點ニ於キマシテ、是ハ今日マデ拾遺クベキ線
路デハナイデアリマシテ、是非敷設シナケレバナラヌ線路デアアル、昨年モ本議會ニ建議ヲ致
シマシテ是ガ通過致シテ居リマス、又請願モ貴衆兩院へ出シマシタガ通過致シテ居ル
デアアル、政府ハ之ヲ容レマシテ、本年ノ鐵道網ノ中ニハ豫想線トシテ載セラレタ
デアアル、豫想線デハマダ少シ物足りナイデア、進ンテ此敷設法中ニ入レテ貫ヒタイト云フ
希望ヲ以テ此案ヲ提出致シマシタ、此線路ハ昨日貴族院ハ此案ト同様ナ請願ヲ採
擇致シテ居リマス、ドウカ直ニ御贊成アラントラ希望致シマス

○菅原傳君 本案ハ日程第二十三ノ委員ト同一ノ委員ニ付託セラレコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 本案ハ日程第二十三ト同一委員ニ付託スルコトニ御異議
アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、日程第二十五ハ提出
者ヨリ都合ニ依テ延期ノ申出デガアリマス、延期ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第二十六、地租條
例中改正法律案、第二十七、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案共ニ
提出者ヨリ都合ニ依テ延期ノ申出ガアリマス、延期ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第二十八、鐵道敷
設法中改正法律案提出者村上先君外一名提出、第一讀會ノ續、理事村上先君

第二十八 鐵道敷設法中改正法律案 村上 第一讀會ノ續(委員長)

〔村上先君登壇〕
○村上先君 本案ノ特別委員長渡邊君ハ事故缺席デゴザイマスカラ本員ガ代リテ報
告致シマス、本案ノ原案ハ鐵道敷設法中ノ第二條第一項與羽線ノ部ニ號次ニ巖
手縣下大船渡ヨリ花卷ニ到ル鐵道ト云フ獨立ノ一項ヲ加ヘルト云フ原案デアリマス、
所ガ段々審議ノ結果、政府ニ於キマシテハ獨立シテ追加スルコトニハ同意ハ出來ナイト
云フコトデアリマス、ソレヲ第四號ノ下ニ、又ハ巖手縣下大船渡ヨリ花卷ニ到ル鐵
道ト云フコトニ致シタノテゴザイマス、之ニ向テハ政府モ喜ンテ同意致シマシタカラ、ド
ウカ滿場一致ヲ以テ本案ノ通過セラレコトヲ希望致シマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕
○菅原傳君 本案ハ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告通リ決定セ
ラレコトヲ望ミマス

○議長(長谷場純孝君) 本案ハ直ニ二讀會ヲ開キ、三讀會ヲ省略シテ委員長報告
通リト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ直ニ二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ニ供
シマス

鐵道敷設法中改正法律案 確定議

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第三十一、伏木港
長報告通リ可決致シマス、日程第二十九、第三十、都合ニ依リ提出者ヨリ延期ノ申
出ガアリマス、延期ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ延期致シマス、日程第三十一、伏木港
ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案、議案ノ朗讀ハ省略シマス、提出者上埜安太郎君

第三十一 伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案(上埜安太郎君提出)

伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案
伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案
政府ハ北陸線高岡驛ヨリ伏木港ニ達スル鐵道ノ連絡ヲ完全ナラシムル爲速ニ調査
ヲ遂ケ相當ノ方法ヲ取ラレムコトヲ望ム

〔上埜安太郎君登壇〕
○上埜安太郎君 諸君、此建議案ハ日本海ニ於ケルコトヨリ伏木港ヨリ北陸線ノ高
岡驛ニ達スル連絡線ヲ完全ニシタイト云フ趣意デアリマス、諸君モ御承知ノ通り伏木
港ハ北陸道ニ於ケルコト、唯一ノ港デアリマシテ、物資集積ノ豐富ナルコトハ此右ニ出
ルモノハナイデアリマス、而シテ北海道ハ從來ヨリ密接ナル關係ヲ有シテ居リマス、ミ
ナラズ、露領浦鹽及朝鮮ノ北道ノ沿岸ノ諸港トハ唯一葦帶水ヲ隔ツルノミデアリマス、
此ノ如キ關係カラ致シマシテ、將來ハ益々此伏木ノ海運事業ト云フモノハ發展スル見込
ガアルデアリマス、又陸ニ於キマシテハ彼ノ飛越ノ橫斷線ノ計畫ガ既ニ成ラントシテ居
リマス、又泊直江津間ノ全通モ明年度ニ迫ツテ居ル有様デアリマシテ、此泊直江津間

ノ開通ガ出來マスルナラバ、長野新潟ニ於ケル物産ノ如キハ冬期ニ至リマスルナラバ多ク
此鐵道ニ依ツテ、伏木ニ向テ外ニ出デントスルデアラウト想像スルデアリマス、斯ウ云フ
場合デアリマスルカラ、政府ニ於ケレテモ伏木港ニ修築ト云フコトニハ意ヲ用井ラレマシテ、
數年前ヨリ此修築ニ力ヲ盡サレマシテ現ニ二千噸内外ノ船ハ港ヘズン、入ルコト
ニナツテ居ルデアリマス、然ルニ又昨年ノ追加豫算ニ於テ四十萬圓餘ノ追加豫算ヲ提
出セラレマシテ、今ヤマダ其修築ノ效果ヲ舉ゲルコトニ努メテ居ラル、ヤウナ有様ニナツ
居ルデアリマス、借テ伏木ト云フモノハ此ノ如ク見込ガアル、伏直ノ聯絡ノ出來ル此
場合ニ當テ獨リ此伏木ノ港ト北陸線ノ聯絡致シマス所ニハ眇タル一私立會社ガ此聯
絡ヲシテ居ルデアリマス、此私立會社ハ甚ダ粗末ナル鐵道デアリマシテ、「レール」ヲ如
キハ漸ク三十五磅デアリマス、輕便鐵道ヨリモ甚シイデアリマス、一昨年 皇太子殿下

鐵道敷設法中改正法律案 第一讀會ノ續 確定議
伏木港ニ於ケル海陸連絡ニ關スル建議案

御行啓ニナツタ折ノ如キハ、危險ト云フコトデアッテ、遂ニ會社ガ修築スルコト能ハズシテ、地方稅カラ多大ナル補助ヲ與ヘマシテ漸ク修築ヲシタ位ノ有様デアッテ、實ニヒドイ鐵道デアリマス、此間ヲ此鐵道ヲ海陸ノ聯絡ヲスルコトハ到底將來出來得ラレヌコトデアリマス、ドウカ政府ハ速ニ調査ヲナシテ、此高岡驛ヨリ伏木港ニ達スルコトノ海陸ノ聯絡ニ十分ナル設備ヲナスコトヲ注意セラレンコトヲ望ム次第デアリマス、ドウカ此案ハ委員會ニ附シマシテ十分御審査アラントラ希望致シマス次第デアリマス

○菅原傳君 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託アラントラ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(長谷場純孝君) 御異議ガナケレバ其通り決シマス、日程第三十二、區裁判所事務開始ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、委員長吉植庄一郎君

第三十二 區裁判所開始ニ關スル建議案(稻村辰 委員長報告)
次郎君外一名提出

○吉植庄一郎君 此席カラ報告致シマス、此建議案ハ千葉縣佐倉ニ於ケル區裁判所ヲ開始シテ貴ヒタイト云フ建議デアリマシテ、昨年モ議會ヲ通過シテ居リマス、本年ハ政府ニ於テモ同意デアッテ、近キ將來ニ議院ノ希望スル如ク區裁判所開始ヲ遂ゲヤウト云フ答辯デアリシタ、唯一回開會致シマシタノミニシテ、滿場一致ヲ以テ提案ヲ贊成致シマシタ譯デアリマス、ドウゾ滿場ノ御同意ヲ願ヒマス
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○菅原傳君 本案ハ委員長報告通り確定セラレンコトヲ望ミマス
○議長(長谷場純孝君) 御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ本建議案ハ委員長ノ報告通り可決確定致シマス、日程第三十三、乃至第三十六ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ併セテ委員長ヨリ報告ヲ致サセマス、委員長渡邊修君代理村上先君

第三十三 鐵道速成ニ關スル建議案(渡邊修君外 八名提出) (委員長報告)

第三十四 鐵道速成ニ關スル建議案(村上先君外 一名提出) (委員長報告)

第三十五 鐵道速成ニ關スル建議案(河野郁太郎君提出) (委員長報告)

第三十六 上越鐵道敷設ニ關スル建議案(武藤金吉君外四名提出) (委員長報告)

○村上先君 本員ガ代テ報告ヲ致シマス、日程第三十三ニ鐵道速成ニ關スル建議案之ハ香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ到ル鐵道デアリマス、之ニ對シマシテハ政府ハ四十五年度ニ於テ之ヲ實行スルコトハ約束ハ出來ナイガ、成ルベク速ニ此計畫ヲスルト云フコトデアリマシタ、ソレカラ日程第二十四、ヤハリ鐵道速成ニ關スル建議案、之ハ第一號ノ巖手縣下黑澤尻ヨリ秋田縣下横手ニ到ル鐵道ニ對シテハ既ニ本院ニ於テ鐵道敷設法中ノ比較線ノ追加ノ法律案ガ決定ニナリマシテ、唯今貴族院ニ回ッテ居リマス、第二號ノハ先刻決定ニナリマシタ鐵道敷設法ニ依リマシテ比較

線ガ追加ニナリマシタ、ソレデアリ文章ヲ御手許ニ回シテ置キマシタル如クニ、最モ穩當ニ修正ヲ致シマシテ決議致シマシタ、ソレカラ日程第二十五、此鐵道モヤハリ是ハ能ク御承知ノ如ク山陽線ニ田尻ヨリ山陰縱貫線ニ山口縣下阿武郡地福地方ニ接續スル鐵道、政府モ之ニ對シマシテハ成ルベク調査ノ上、其意見ヲ決定スルコト云フコトデアリマシタ、是又原案ノ通り決シマシタ、ソレカラ次ハ日程二十六、上越鐵道、此鐵道ハ群馬縣ノ高崎ヨリ新潟縣ノ長岡ニ通ズル鐵道デアリマス、是ハ鐵道線路網ニ於キマシテハ官線ノ豫定線ニナッテ居リマス、之ニ對スル政府ノ所見ハ成ルベク四十四年度中ニ於テ審査ヲ遂ゲテ、將來ニ向テ相當ノ施設ヲ爲シ、而シテ是ハ幹線ノ豫定線デアリマス、將來共ニ私有鐵道ハ許可セヌ、斯ウ云フコトデアリマシテ、是モヤハリ滿場一致ヲ以テ原案ノ通り可決シマシタ、以上報告ヲ致シマス
○菅原傳君 唯今報告ニナリマシタ四案共ニ委員長ノ報告通り確定セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 日程第三十三、鐵道速成ニ關スル建議案、渡邊修君外八名提出、日程第三十四、鐵道速成ニ關スル建議案、村上先君外一名提出、日程第三十五、鐵道敷設ニ關スル建議案、河野郁太郎君提出、日程第三十六、上越鐵道敷設ニ關スル建議案、武藤金吉君外四名提出、即チ此四案共ニ委員長ノ報告ニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ委員長ノ報告通り確定致シマス、御諮ヲ致シマス、議員森肇君ヨリ病氣ニ付、明三日ヨリ九日間、矢島中君ヨリ病氣ニ付、明三日ヨリ十日間、各、請假ノ願出ガアリマス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(長谷場純孝君) 御異議ナケレバ許可スルコトニ致シマス、諸般ノ報告ヲ致シマス
〔書記朗讀〕
一 今二日桂内閣總理大臣ヨリ左ノ通り政府委員任命相成タル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務省參事官 湯 淺 倉 平

內務省所管事務政府委員被仰付
一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
鐵道敷設法中改正法律案

提出者 中村啓次郎君 山口 熊野君 神前 修三君
一 塚田啓太郎君ヨリ貴族院令第六條ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレタリ

○議長(長谷場純孝君) 議長ニ委託サレタ委員ノ氏名ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、次回ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會
午後六時一分散會